疊表	枚	一二、四五八	一四、八五〇・六九〇円	二六
建具	枚	五、二一三	一六、七四四・三八〇	二二
樽	個	一、六八八	五、六五六・四〇〇	四
硝子	平方尺	一、一二〇	二〇八・七五〇	二
セメント	樽	二	一七・六〇〇	一
計			三二八、六七九・五三〇	一八三

前掲ノ外、本廳ハ臨時病院其他診療所建設ノ爲ニ最初ヨリ徵發手續ニ依ラズシテ購入セル建築材料ハ左表ノ如クナレドモ、發見蒐集共ニ困難ナルヲ以テ別ニ徵發班中ノ一班ヲシテ之ニ當ラシメタリ。

購入建築材料調（臨時小松川、三河島病院分）

品名	單位	數量	價格
木材	本	七一二	二三四・二九〇円
同板	枚	九三一	三九二・六七〇
鐵枚	枚	七、〇八四	一一、八六五・一〇〇
釘鎹其他	貫	三四二	二〇〇・五〇〇
釘鎹其他	樽	六〇	一、〇五六・二〇〇
同挺	個	七、〇五四	一八九・一八〇
鎹前其他	個	二、〇八二	二一一・九九〇
下須甕	個	九八	二五二・八五〇
ハンダ貫	本	二四	一〇五・六〇〇
セメント樽	袋	二五	一八七・五〇〇
同鹽酸	本	一二九	四一〇・四〇〇
古鐵線	貫	六	九〇〇
金網	平坪尺	五四	三七・八〇〇
硝子板	箱	一、六〇〇	九六〇・〇〇〇
建具	本	一三五	一、六八〇・〇〇〇
土管	本	七九三	三、三七七・九〇〇
大谷石	本	二七〇	六五七・五一〇
砂利	立坪	三	三八・五〇〇
砂利	立坪	三	五一・〇〇〇
砂利	立坪	二	一九五・〇〇〇
井戸喞筒（附屬共）	組	二	三六・〇〇〇
計			二五二・〇〇〇
			二二、七四二・八九〇

（e）船車其他運搬具

被徵發物件中ノ船車其他ノ運搬具ハ本廳用ノモノト、陸軍當局ノ依賴ニ由ルモ

ノトアリ、卽チ次ノ如シ。

（イ）本廳用

本廳及ビ各署ニ於テ警戒救護ノ爲ニ使用セル自動車其他ノ船車ハ主トシテ所有者ヨリ徵發使用スルコトト爲シタレバ、之ヲ購入シタルハ僅ニ自轉車及ビ運搬具ノ附屬品ニ止マレリ。

本廳用徵發船車其他運搬具調

品目	延數量	金額
乘用自動車	一一、六二五	一六二、八九七・三〇〇円
貨物自動車	二、〇七六	一二七、六四四・七五〇
サイドカー	一三三	一、八六四・〇〇〇
自轉車	一、九三六	七、五八八・〇〇〇
船舶	一、六八六噸	二五、三二五・五〇〇
同	七〇、一三〇艘	一七、五三二・五〇〇
運搬具	八八	一、三九九・六〇〇
計		三四四、二五一・六五〇

（ロ）陸軍用

罹災者救護事務中、食料品其他生活必要品ノ供給ハ陸軍ノ主管スル所トナリタレバ、本廳ハ之ニ要スル車輛其他ノ徵發ニ參畫スル事ト爲シ、笹井保安部長ヲシテ其任ニ當ラシメシヲ以テ、九月五、六日ノ兩日同部長ハ芝浦、田端、新宿、龜戸等各陸軍配給所附近ノ警察署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シ、貨物自動車、荷馬車、荷車ヲ徵發セシメタリ。

車輛徵發ニ關スル件（大正十二年九月五日號外）

軍隊ノ力ヲ依リ、（集合地名）在庫米、貴管內其ノ他ニ對シ、配給計畫中ニ候處、之ガ移送ノ爲、左記物件調達ノ要有之候ニ付テハ、至急其ノ徵發ヲ實施シ、明六日午前七時迄ニ之ヲ右ノ場所ニ集中シ、直ニ出動セラルヽ樣御手配相成度、尙其ノ準備ノ情況ハ今夜中ニ特使ヲ以テ御回答相成度。

記

一、貨物運搬用自動車　臺以上
但シ各運轉手ヲ附スルヲ要スルモ所用ガソリン及食糧ハ陸軍ニ於テ配給ノ見込
一、荷馬車　臺以上
一、荷車

警察署名	徴發臺數	集合地別表

車輛徴發ニ關スル件（大正十二年九月六日號外）

昨夜徴發ヲ煩ハシ候運搬用自動車其ノ他ノ物件ハ當該在庫米ノ移送完了ニ至ル迄必要有之候ニ付引續キ前同樣ノ御措置相成度候也

但シ連續收容ヲ困難トスル場合ニハ被徴發者ノ事情ニ依リ之ニ代ルベキ徴發ヲ諾スルハ別ニ差支無之尙明日以降ハ貴署員ニ於テ該物件取纏メノ上驛前ニ出張中ノ陸軍官憲ニ引渡サルヽ樣御取計相成度

斯クテ保安部ニ於テハ、關口人事相談課長ヲ以テ其主任ト爲シ、同課員及ビ建築課員ニ事務ノ分擔ヲ命ズルト共ニ、九月六日以降建築課員ヲ各配給所ニ派遣シ、車輛ノ到着ニ從ヒ、其種別、徴發警察署、供給者等ヲ分類調査シテ陸軍當局ニ交附シタリシガ、其配置ハ左表ノ如シ。

車輛徴發擔當者配置

配給所名	配置個所	擔當者
芝浦配給所	一號埋立地	高關技手
田端配給所	田端驛	大西技手
新宿配給所	新宿驛	澁谷技手
龜戸配給所	龜戸驛	野末技手

然ルニ日ヲ經ルニ從ヒ、物資ノ漸ク芝浦ニ輻湊スルニ及ビ、之ガ運搬ニ要スル車輛益〻多キヲ加ヘタルヲ以テ、九月八日笹井保安部長ハ更ニ左記通牒ヲ各署長ニ發シテ其蒐集ニ努力セシメタリ。

諸車徴發ニ關スル件（大正十二年九月八日號外）

諸車徴發ニ關シテハ先ニ通牒セル處ナルモ目下芝浦埋立地ニ山積セル貨物ハ容易ニ配給困難ノ情況ナルヲ以テ各署管内ニアル貨物自動車並ニ荷車ヲ出來得ル限リ徴發シ該所ニ於テ陸軍官憲ニ引渡ス樣更ニ御手配ノ上結果至急御報告相成度

追テ毎日巡査一名ヲ同所ニ派遣シ當部ヨリ出張シ居ル高關技手ト連絡ヲ圖ラレ度

（ハ）車輛徴發事務ノ分擔

車輛徴發ハ本廳ニ於テ之ヲ總轄シ、各署ニ之ガ分擔ヲナサシメタリ。卽チ左表ノ如シ。

芝浦配給所

本廳

赤坂表町警察署

赤坂青山警察署

麻布鳥居坂警察署

同六本木警察署

品川警察署

大森警察署

大崎警察分署

世田谷警察署

田端配給所

下谷谷中警察署

本郷本富士警察署

本郷駒込警察署

小石川富坂警察署

小石川大塚警察署

王子警察署

千住警察署

板橋警察署

巣鴨警察署

新宿配給所

牛込神樂坂警察署

四谷警察署

澁谷警察署

淀橋警察署

龜戸配給所

小松川警察署

(三)　車輛徵發ノ配給ニ及ボシタル效果

陸軍各配給所ニ於ケル食料品配給狀態ト車輛徵發トノ關係ノ一斑ヲ擧グレバ左ノ如シ。

(A)芝浦配給所

各地ヨリ主トシテ船舶輸送ニ依リ、芝浦ニ到着セル食料品其他ハ、之ヲ一號埋立地及ビ日ノ出町河岸ニ揚陸シ、本廳徵發ノ車輛ト、市役所供給ノ車輛ト、陸軍自動車隊トニ依リテ、芝・赤坂・麴町・麻布・神田ノ各區並ニ隣接郡部ノ各町村ニ配給セリ。然レドモ移入率ハ動モスレバ配給力ヲ超エテ屢々貨物ノ停滯ヲ見ルニ至レリ。蓋シ揚陸場ノ混雜ト、道路ノ粗惡トハ輸送能力減殺ノ主因タリシモノヽ如シ。

B)田端配給所

主トシテ東北方面ヨリ鐵道輸送ニ依リ、田端驛ニ到着セル、食料品其他ノ貨物ハ專ラ本廳徵發ノ車輛ニ依リテ下谷、本郷、淺草、小石川、各區及瀧野川・王子・岩淵・尾久・日暮里ノ各町村ニ配給セシガ、之亦配給力ニ乏シクシテ貨物ノ停滯ヲ見シガ、九月十八日青森縣ヨリ供給セラレシ荷馬車約五十輛ノ活動ト、本郷駒込ナル岩崎邸ニ貯藏場ヲ設ケシトニ依リ漸ク之ヲ緩和スルヲ得タリ。

(C)新宿配給所

中央・甲武兩線ノ鐵道輸送ニ依リ、新宿線ニ到着セル、食料品其他ノ物貨モ亦專ラ本廳徵發ノ車輛ニ依リテ、牛込・四谷兩區及ビ澁谷・千駄ヶ谷・中野・淀橋ノ各町ニ配給セリ。而シテ狹隘ナル構内ニ貨物ヲ堆積セシ爲、積込搬出等ニハ困難ヲ感ゼシト雖概シテ之ガ停滯ヲ見ルニ至ラサリキ。

(D)龜戸配給所

千葉縣方面ヨリ鐵道輸送ニ依リ、龜戸驛ニ到着セル、食料品其他ハ本廳徵發ノ車輛ト、陸軍自動車隊トニ依リテ本所・深川兩區及ビ南葛飾郡ニ配給セシガ、當時道路ノ破壞、橋梁ノ燒失等多クシテ輸送困難ヲ極メシモ、九月中旬錦糸堀驛ヨリ鐵道ノ開通アリ。且淺草藏前ナル高等工業學校跡ニ揚陸場ヲ設ケテ、水陸運輸ノ便ヲ開キ、以テ大ニ配給率ノ增進ヲ見タリ。

(ホ)　陸軍用車輛徵發ノ完了

九月二十四日、從來陸軍ニ於テ管掌セル配給事務ハ、擧ゲテ臨時震災救護事務局ノ囑託團・タル同情會ニ移レルヲ以テ、芝浦配給所ハ二十四日ニ、新宿・龜戸、田端ノ

各配給所ハ二十六、二十七日ノ兩日ニ、就レモ陸軍ヨリ同情會ニ引繼キ、本廳ノ車輛徵發供給ノ任務モ亦茲ニ終結ヲ告グタリ、今九月六日ヨリ同二十七日ニ至ル二十一日間ニ供給シタル車輛數ヲ示セハ左表ノ如シ。

徵發車輛

配給所	種別	貨物自動車	荷馬車	荷車	計
芝浦		三〇一	一、〇六八	一二四	一、四九三
田端		一六九	六一七	八二	八六八
新宿		二三六	九一七	八二	一、二三五
亀戸		二〇	一八四	—	二〇四
計		七二六	二、七八六	二八八	三、八〇〇

(八) 勞務

勞務ノ徵發ハ左表ノ如ク、自動車運轉手其他救護用看護婦及ビ人夫等ナリシガ、運轉手ニシテ、自動車徵發ノ際同乘シ來レルモノハ、賃金支拂ノ便宜上、運轉手附自動車トシテ計上シ、如上ノ徵發自動車ノ金額中ニ包含セルヲ以テ、左表種別欄中ノ運轉手ハ、唯勞務ノミヲ徵發セルモノトス。

徵發勞務調

種別	人員	金額
運轉手	一一五	一、一〇八・〇〇〇円
職工	二七	二三二・五〇〇
看護婦	四六	九二・〇〇〇
人夫	三八三	八四七・三〇〇
計	五七一	二、二七九・八〇〇

(六) 非常徵發令ノ廢止

交通機關ノ復舊ト物資ノ充實トニ伴ヒ、非常徵發令(大正十二年勅令第三百九十八號同年勅令第三百九十九號)ハ大正十二年十一月十五日勅令第四百七十九號ヲ以テ廢止セラレタリ。

第二節　義捐金品及ビ勞務ノ受納

震火災ノ後、世上ノ篤志家ニシテ、諸物資及ビ勞務等ノ寄贈ヲ本廳ニ申出ヅル者

尠ナカラズ、就中青年團在郷軍人團並ニ各救護團體ノ如キハ、警察官ト協力シテ警戒救護ノ任ニ就キ、斡旋盡瘁セル所頗ル大ナリ。其他自家用自動車、船舶及ビ家屋等ヲ提供セシガ、而モ寄贈者自身モ亦罹災者タリシ者多カリキ。仍チ義捐金品其ノ他ノ收納見積金額ヲ示セバ左表ノ如シ。

義捐金品、勞務調

種別 / 本廳各署別	食料品	家具及衣類	建物並建築材料	勞務	現金	其他	計
本廳	一三、一〇六、四六〇	一一、〇一三、四〇〇	—	一三六、〇〇〇	一五、七七九、四六〇	一五、五三九、五七〇	七五、五七四、八一〇
市部各警察署計	一三、一〇六、〇九〇	四三、六二九、一八〇	六、七九九、〇〇〇	九、〇九一、〇〇〇	一、六七一、〇〇〇	一五、八四三、八八〇	九〇、二八〇、一五〇
郡部各警察署計	九、三五六、六七〇	四、〇八一、一四〇	八〇、〇〇〇	六八五、八五〇	八五八、一〇〇	一、四一九、一六〇	一六、三四九、九三〇
計	四五、五六八、二四〇	五八、七三三、六二〇	六、八七九、〇〇〇	九、九二二、八五〇	一八、三〇八、一五六〇	四二、八二三、六一〇	一八二、二〇四、八八〇

斯クテ其寄贈金品ハ寄贈者ノ意志又ハ其物ノ性質ニ依リテ、罹災職員並ニ一般避難者ニ配付セシガ、寄贈者ニ對シテハ、大正十三年二月十日、書狀ヲ以テ、感謝ノ意ヲ表シ、更ニ六月六日ニ至リテ、左記樣式ノ感謝狀ヲ贈レルモノ、二千五百余件ニ及ベリ。

感謝狀

氏名

團體名

大正十二年九月一日關東地方ノ大震火災ニ因リ帝都ノ大半焦土ト化シ交通竝通信等ノ諸機關全ク杜絶シ衣食住共ニ之ヲ得ルノ途ナク管下ノ罹災者將ニ飢餓ト傷病トニ斃レントスルノ秋ニ膺リ卒先シテ之ガ救助ニ盡力セラレタルハ洵ニ公共ノ爲ニ勇ナル者ト謂フベシ茲ニ謹テ感謝ノ意ヲ表ス

大正十三年六月六日

警視總監從四位勳三等　赤池濃

第三節　物資ノ配給

第一、食料配給ノ決議

九月一日午後五時頃、赤池總監ハ多數罹災者ニ對スル物資ノ配給ニ關シ、東京市當局ト交渉ノ結果、市内ノ配給事務ハ市役所ノ擔當トシ、本廳ハ之ガ援助者タルベ

キコトヲ決スルト共ニ、配給所ヲ二重橋前靖國神社境内及ビ日比谷、芝、上野、淺草ノ四公園ニ設置スル事ト爲シ、即日警務部長、官房主事ノ連名ヲ以テ各警察署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シタリ。

食糧品配付方應援ニ關スル件（大正十二年九月一日）

避難民ニ對スル食料品配付方ニ關シ東京市役所ト協議ノ結果市役所ハ大體左記ノ場所ニ食料品ヲ運搬シ避難者ニ配付シ當廳ハ之ヲ容易ナラシムベク應援スルコトニ決定セルニ付市吏員ヨリ其ノ署ニ申出アリタルトキハ運搬並ニ配付ニ關シ極力應援シ避難者救護上遺算ナキヲ期セラルベシ

左記

（一）二重橋前
（二）日比谷公園
（三）芝公園
（四）上野公園
（五）淺草公園
（六）靖國神社境内

本所、深川、京橋、日本橋方面ハ場所未定

第二、配給事務ノ分掌

罹災者ニ對スル物資配給ノ議決スルヤ、本廳ハ先ヅ、日比谷公園及ビ馬先場門内ノ避難者ニ飲食料ヲ供給シ、漸次東京驛前、九段、上野公園等ニ及ボサントシ、笹井保安部長ヲシテ其事務ヲ擔當セシメ、更ニ之ガ分掌ヲ定ムル事左ノ如シ。

配給事務分掌

班長　笹井保安部長
　　岡田保安課長

種別	擔當主任	係員
配給庶務	竹重營業係長	保安課、工場課、建築課、人事相談課ノ各課員
炊事及給水	田村警察練習所主事	受業生八十名及工場課員
配給準備	關口人事相談課長	受業生二十名、及保安部各課ノ技手書記
配給	畑興業係長	保安課、人事相談課、建築課員中ノ警部並ニ巡査
罹災廳員ニ對スル配給	森川經理係長	警務部警務課經理係員
運搬具配給	酒井交通課長	交通課員

第三、飲食料ノ配給

日比谷公園並ニ馬場先門内一帶ノ避難者救護ノ議、定マルニ及ビ、本廳ハ芝區ナル警察練習所ニ於テ大規模ノ炊出ヲ行ハントシ、直ニ警務課員ヲ、第一・近衞ノ兩師團司令部ニ遣シテ、軍用炊事釜百餘個ヲ借用シ、以テ炊出ヲ開始セシメタルカ、幾モナク同所モ亦類燒ノ虞アルニ至リタレハ、更ニ炊出場ヲ本廳假本部構内ニ設ケ、炊事ノ準備ニ着手セリ。此時ニ方リ、水道ハ既ニ斷水シテ飲料、炊事共ニ不可能トナリ、貨物自動車及ビ空樽ヲ徵收シテ、霞ケ關撒水井戸ヨリ飲料水ヲ搬入シタリシカ、會々前記警察練習所附近ノ未ダ斷水セザルヲ聞キ、更ニ遠ク之ヲ運搬スル等、苦心ノ結果、辛ウジテ玄米三石ノ炊出ヲ終リタルトキ、警察練習所ニ於ケル玄米三石ノ炊出モ亦前後三回ニ亘リテ到着セリ。斯クテ本廳ハ其假廳舍及ビ練習所ニテ炊出シタル握飯ヲ假廳舍構内並ニ其附近ノ避難者及廳員ニ配給セリ。然ルニ午後十時以後練習所ヘノ通路ハ猛火ノ遮ル所トナリ、爲ニ炊出ヲ繼續スル能ハザルニ至リ、其蒐集セル米ヲ本廳ニ移送シテ炊出ヲ繼續セムトセシモ、十一時頃ヨリ霞ケ關ノ撒水井戸モ亦溷濁シテ、殆ンド使用ニ堪ヘザリシガ、尙ホ辛ウジテ翌二日午前零時迄ニ粥二釜ヲ炊キ得タルヲ以テ、卽時之ヲ避難者中ノ老幼者ト、乳兒ヲ哺育スル婦女トニ配給ヲ開始シ、翌三日午前二時悉ク給與シ盡セリ。是ヨリ先九月二日午前三時炊出場ヲ第一中學校ノ運動場ニ移シテ、更ニ其規模ヲ大ニシ、米ハ會計課ノ購入セルモノト、文書課ニテ徵發セルモノノ外、曩ニ警察練習所ニテ蒐集セルモノノ一部ガ、芝公園内ニ搬出セラレテ燒失ヲ免レタルモノトヲ合セ、警察練習所授業生二十名、澁谷警察署員二十二名、堀留警察署員十五名、淀橋警察署員二十三名及近衞歩兵第二聯隊ノ兵員二十二名ノ應援ヲ得テ軍用釜五十一個ヲ借用シテ炊出ニ努メ、配給準備係ハ練習所生徒二十名及避難者百名ヲ指揮シテ握飯ヲ作リ、同日午前九時ヨリ一人ニ付握飯一ツノ割合ヲ以テ之ガ配給ヲ行ヒ宮城外苑ニ六回、東京驛前ニ三回、日比谷公園附近ニ二回ニ及ビシガ、是日炊出玄米ノ數量四十石三斗九升、其受給延人員實ニ七萬八ヲ算セリ。而シテ該炊事用水ハ宮内省及ビ鐵道省ヨリ撒水自動車各一臺ヲ借入レ、淀橋淨水場及ビ本廳燒跡ノ水道栓、帝國劇場前ノ消火栓等ヨリ運搬セシモノニシテ、同時ニ飲料トシテ之ヲ宮城外苑、日比谷公園等ノ避難者ニモ配給セリ。

午後四時頃ニ至リ、上野公園及ビ靖國神社ニ蝟集セル數十萬ノ避難民モ亦飢餓ニ迫レリトノ報ニ接シタルヲ以テ、直ニ空樽五箇ニ握飯ヲ詰メテ之ヲ輸送シ行キタルニ、廣小路附近ノ雜沓甚シクシテ園内ニ入ル能ハザルヲ以テ、已ムナク進路ヲ本郷區ニ取リ、帝國大學構内ノ避難者ニ配給セリ。而シテ靖國神社境内ノ避難者ニ對シテハ、泊監察官ヲ派遣シ、牛込神樂坂警察署員ヲ指揮シテ食料品ヲ徵發シ、之ヲ炊出サシメテ其救護ヲ實施スルヲ得タリ。

抑々罹災者ニ對スル食料ノ配給ハ實ニ焦眉ノ急務ナリト雖、其受給者ノ多キコト幾十萬ニ及ビ、府・市並ニ本廳ノ施設ノミヲ以テシテハ、到底其完全ヲ期スル能ハザルヲ惟ヒ、茲ニ一部篤志家ノ援助ヲ仰ガムトシ、是日馬場警務部長並ニ正力官房主事ハ連名シテ左記通牒ヲ各署長ニ發セリ。

食糧品配給方應援ニ關スル件(大正十二年九月二日)

首題ノ件ニ關シテハ曩ニ通達ノ趣旨ニ依リ充分ノ應援ヲ爲シツヽアルモノト思料セラレ候モ、單ニ市役所ノミナラズ各所ニ於ケル餘力アル市民モ此擧ニ賛シ進ンデ其ノ食糧品ノ供給或ハ炊出ヲ決行シ以テ附近住民及前通達指定ノ場所ニ於ケル避難民ノ救濟ニ努力セラルヽ樣極力勸誘セラルベシ

追テ各戸供給物件配付ニ關シテハ府市トモ協議ノ上本廳ニ於テモ應援スル豫定ニ候

本廳ハ更ニ九月三日午前五時ヨリ炊出ニ着手セシガ、既ニシテ、曩ニ存セシ警視廳燒跡ノ水道並ニ帝國劇場前ノ消火栓ハ共ニ斷水セルヲ以テ、鐵道省撒水自動車ニ依リテ淀橋淨水所及ビ赤坂方面撒水井戸ヨリ搬入スルト共ニ、消防部ハ衆議院横ノ消火栓ヨリ汲上作業ニ從事シ、兩者相俟チテ漸ク炊出ヲ遂行シ、且該水ハ前日ノ如ク宮城外苑・日比谷公園一帶ノ避難者ニ配給セリ。斯クテ炊出シタル握飯ハ午後六時ヨリ配給ヲ始メ、宮城前ニ四回、東京驛前ニ三回、日比谷公園ニ三回ニ亘リテ運搬セシガ、其受給延入員約七萬、炊出ニ要シタル玄米四十二石ニ及ベリ。

更ニ上野公園内ニ於ケル避難者ノ混雜特ニ甚シキヲ以テ、前日來、田邊監察官ヲ派遣シテ之ガ整理並ニ救護ノ任ニ膺ラシメシガ、是日同監察官ハ下谷谷中警察署ヲ根據トシテ、同署員及ビ外神田、錦町等各警察署員ヲ指揮督勵シテ、物資ノ徵發ニ努力シ、尙ホ足利市大町青年團及ビ福島縣岩瀨郡須賀川町・新榮町青年團ノ寄贈セル米十俵ビスケット三十箱ヲ以テ、一時避難者ノ救濟ニ充テ、後徵發米ノ到着スル

ニ及ビテ音樂學校、下谷初音町松本染工場及ビ根津製餡所ニ於テ炊出ヲ爲シ、專ラ之ガ救護ニ盡瘁セリ。

全市ハ殆ンド飲料水ノ窮乏ヲ告ゲシガ中ニモ、深川方面ニ於テ特ニ甚シキヲ見タルヲ以テ、是日泊監察官ハ直ニ消防部ヲシテ勸業銀行脇ノ消火栓ヨリ汲水セシメ、市役所ヨリ借用セル撒水自動車ニ依リテ芝浦ニ運ビ、以テ、海軍給水船ニ移シテ廻送ノ計畫ヲ立テシモ、遂ニ該船ノ到着ナカリシニ由リ、已ムヲ得ズ之ヲ芝浦附近及ビ宮城外苑避難者ニ配給セリ。

九月四日、本廳ハ尙ホ引續キテ炊出ヲ行ヒ、之ヲ宮城外苑・日比谷公園・東京驛前等ノ避難者ニ配給スルト共ニ、更ニ廳員ヲ江東方面ニ遣シテ、本所區被服廠跡及ビ深川區清澄公園ニ於テモ亦之ヲ配給セリ。然ルニ是日東京府ハ、日比谷公園內ニ炊出場ヲ設ケテ配給ヲ開始スルコトヽナリ、本廳ハ其要求ニ應ジテ軍用竈九箇同釜十箇ヲ貸與スルト共ニ、以來專ラ力ヲ同所以外ノ配給ニ注ギテ之ガ範圍ヲ擴張セリ。而シテ消防部ニ於ケル一般給水作業モ是日ニ至リテ漸ク其緒ニ就キ、緒方消防部長指揮ノ下ニ、各消防署ハ一齊ニ活動ヲ開始シ、其管內ニ水道ノ通ジタル第一、第二、第三、第四ノ各消防署ハ巡回給水又ハ配達給水ニ從事シ、未ダ通水セザル第五、第六ノ兩消防署ノ如キハ井水ノ汲上ゲヲ行ヒテ之ヲ援助セシ等ニ依リテ、水道ノ斷水ニ基因スル市民ノ困難ハ幾分ノ緩和ヲ見ルニ至リシガ、本廳ハ更ニ是日、水上警察署ニ命ジテ給水船ヲ徵發セシメ、海軍ノ汽艇ニ依リテ之ヲ曳船シ、以テ深川區ノ一部並月島方面ニ給水スルヲ得タリ。

九月五日午後一時頃、初メテ第一中學校內ニ水道ノ通ゼルアリテ漸ク用水蒐集ノ困難ヲ脫シ、炊出作業モ亦容易トナリ、丸ノ內方面・上野・本所・深川及芝公園等ニ各一回ノ配給ヲ爲シ、宮城外苑・東京驛前ノ二箇所ニハ特ニ三千人分ノ澤庵ヲモ頒チシガ、是日ノ受給延人員ハ七萬三千人ニシテ、炊出ニ要セル米ハ四十三石九斗ニ及ベリ。

斯クテ九月六日ニ至リ、一般救濟機關ノ普及ト、避難者ノ減少トニ鑑ミテ、炊出配給ノ如キモ漸次縮少ノ方針ヲ採リシト雖モ、飲料水ニ至リテハ依然トシテ各消防署ノ外、保安部ニ於テモ、鐵道省ヨリ借用セル撒水自動車二臺ヲ以テ神田・淺草・本所・深川ノ各區、上野公園及ビ帝國大學臨時傳染病院等ニ配給セリ。而シテ食事ニ至リ

テハ、同八日宮城外苑並ニ日比谷公園ニ於ケル避難者ノ多クハ、天幕又ハ假小屋ニ居ヲ定ムルニ及ビ、握飯ニ代フルニ一人一日玄米三合ノ配給ヲ以テセリ。然ルニ翌九日以後宮城外苑ノ避難者ニハ東京市ヨリ配給スル事トナリテヨリ、本廳ノ配給ハ之ヲ中止シ、尋テ同十一日ニ至リテ全ク炊出及ビ配給ヲ停廢セリ。

尙ホ消防部ニ於ケル飲料水配給モ亦水道ノ復舊ニ伴ヒ、漸次配給ノ範圍ヲ縮小シ、又ハ汲水場所ノ移動ヲ爲ス等、機宜ノ措置ヲ採リシガ、十月末日ヲ限リテ、本所・深川ノ兩區ヲ除ク外一般ノ給水作業ヲ廢止セシガ、水道ノ未ダ通ゼザリシ兩區ノ東部ニ對シテハ、尙ホ十二月末迄之ヲ繼續セリ。

本廳ガ食料ノ配給ニ從事セルハ、前後十日間ニ亘リ、其從事職員ノ延人員實ニ千七百二十五人ニシテ、受給者延人員亦實ニ四十二萬三千五百八十六人、而シテ管下各警察署ニ於ケル配給延人員モ亦三百三十三萬三千百三十三人、其合計實ニ三百七十五萬六千七百十九人ヲ算シ、更ニ消防部ニ於テ九、十ノ兩月ニ飲料水配給ニ使用セル消防喞筒ノ延輛數百二十輛ニシテ、之ガ從事職員ノ延人員千百八十五人受給者ノ延人員三百六十七萬七千四百四十人ヲ算シタリ。

第四、運搬具ノ配給

救護用運搬具ノ配給ハ、笹井保安部長之ヲ總轄シ、更ニ之ガ分擔ヲ定メ、本廳ニ於テ使用スルモノハ酒井交通課長、陸軍ニ供給スルモノハ關口人事相談課長ヲシテ之ヲ主管セシメタリシガ、陸軍ニ對スル配給ニ就イテハ、既ニ第一節ニ述ベタルヲ以テ、茲ニハ本廳ノ使用セルモノヽ中、自動車ノ管理・配給ニ關シテ聊カ叙スル所アラムトス。

(一)　徵發自動車ノ管理

本廳使用ノ自動車ハ其徵發ニ係ルモノト、篤志家ノ提供セルモノトヲ併セテ、之ヲ交通課ノ保管トシ、車體ノ前後ニ、警視廳用ナル表示ヲ爲シ、且一貫番號ヲ附シ、尙合番號札ヲ作リテ、一ハ豫メ運轉手ニ授ケ、他ノ一ハ之ガ使用ノ際、乘用者ニ交附スル事ト爲シ、以テ、濫用ノ弊ヲ矯メ、兼ネテ車體ノ出入ヲ明カニスルト共ニ、運轉手モ亦保管者ヨリ出車ノ許可アリタルヲ知ルノ便ニ供シ、又受持運轉手及巡査ヲシテ看守ノ任ニ當ラシムルハ勿論、夜間ニハ運轉手ヲシテ車中ニ就寢セシメ、以テ、之ガ保管上ノ注意ヲ怠ラザリキ。

(二)　自動車ノ配給

自動車ノ配給上、本廳ノ最モ苦心セルハ濫用ノ結果、車體ニ破損・故障等ヲ生ジ、又ハ運轉手ヲシテ過勞セシメ、之ガ爲ニ必要ノ時機ニ出車不能トナリ、且又其所有者ニ損害ヲ蒙ラシムルガ如キ事ヲ避クルニアリキ。是ニ於テ、豫メ出車ノ順序ヲ定メ、之ガ要求アルニ際シテハ、其使用者、用途、使用時間及ビ行先等ヲ調査セル後、更ニ事務ノ緩急ヲ考慮シテ之ニ應ジタルノミナラズ、歸還セバ直ニ出車請求者ヲシテ番號札ヲ返納セシメ、又車體及ビ運轉手ハ其使用ノ程度ニ依リ、適當ナル休止時間ヲ與フルニ非ザレバ、連續シテ之ガ使用ヲ禁スル等、周到ナル注意ヲ拂ヒタリ、今九月一日以降十月十一日迄ノ使用情況ヲ示セバ左表ノ如シ。

自動車使用調査表

使用月日	乘用車數	貨物車數	計
九月一日	三〇	一六	四六
同　二日	五四	二五	七九
同　三日	八三	三五	一一八
同　四日	九七	五八	一五五
同　五日	九九	六一	一六〇
同　六日	一〇七	七二	一七九
同　七日	一一三	七三	一八六
同　八日	一一六	七六	一九二
同　九日	一一〇	七八	一九八
同　十日	二二〇	一〇二	二二二
同十一日	一一三	一一三	二二六
同十二日	一一五	一二一	二三六
同十三日	一二三	一二二	二三五
同十四日	一二五	一七四	二九九
同十五日	一一三	一〇五	二一八
同十六日	一一〇	一〇五	二一五
同十七日	一一六	一〇六	二二二
同十八日	一一五	一〇二	二一七
同十九日	一〇二	一一六	二一八
同二十日	八二	一〇三	一八五
同二十一日	八〇	九九	一七九
同二十二日	七八	八七	一六五
同二十三日	七六	八八	一六四
同二十四日	七三	八六	一五九

同二十五日	六九	七三	八〇	一五一
同二十六日	七三	六九	七〇	一四三
九月二十七日	六九	六七	六一	一三〇
同二十八日	六七	六七	五一	一一八
同二十九日	六七	六七	五四	一二一
同三十日	六七	六七	六四	一三一
計	二、七七二	二、四九五	五、二六七	
十月一日	六二	五九	一二一	
同二日	六四	五八	一二二	
同三日	六三	五一	一一四	
同四日	六三	四七	一一〇	
同五日	六二	四六	一〇八	
同六日	六一	四六	一〇七	
同七日	六一	四六	一〇七	
同八日	六一	四四	一〇五	
同九日	六一	四四	一〇五	
同十日	五八	四四	一〇二	
同十一日	五八	四四	一〇二	
計	六七四	五二九	一、二〇三	
合計	三、四四六	三、〇二四	六、四七〇	
一日平均	八四	七三	一五七	

第五、廳員ニ對スル食料配給

本廳賄料支給規則第五條ニ據レバ、臨時非常ノ場合ニ於テハ現品賄ヲ爲シ得ルノ規定アリ。然ルニ震火災時ニ際シ、罹災廳員ハ勿論其他ノ廳員ト雖モ、物資ノ缺乏ヲ感ジタルハ一般民衆ト異ナル所無キモ、若シ各自ニ於テ、强ヒテ之ヲ求メムトセバ、之ガ爲重大ナル警戒救護ノ任務ヲ阻害シ、其影響スル所頗ル大ナルモノアルヲ以テ、本廳ハ該規定ノ適用ニヨリテ事宜ヲ誤ラザラン事ヲ期シ、直ニ命ヲ警務部ニ傳ヘ、更ニ同部ニ於テハ森川經理係長ヲシテ給與班長タル笹井保安部長ノ指揮ヲ受ケシメ廳員並ニ應援員其他臨時傭人ニ對スル現品賄支給ノ任ニ當ラシメタリ。是ニ於テ森川係長ハ、九月一日午後二時頃、先ヅ、夕食準備トシテ部下ヲ銀座木村屋ニ遣シテ麵麭ヲ購入セシムルト共ニ、飲料水ノ蒐集ニ從事セシメ、同日ノ夕、本

廳假事務所(府立第一中學校構内)ヲ炊事場ト爲シ、其準備ニ着手シタリシガ、用水ヲ得ル事ノ容易ナラザルヲ以テ、一時芝區ナル警察練習所ニ於テ炊出ヲ爲シ、之ヲ本廳ニ運搬シテ廳員ニ配給セシガ、練習所モ亦火災ニ罹レルヲ以テ、同二日以來一般避難者ニ對スル炊出・配給作業ヲ兼ネテ、廳員並ニ警察署及他府縣ヨリノ多數應援員等並ニ罹災職員ノ家族ニモ亦一時玄米ヲ配給セリ。

斯クテ日ヲ經ルニ從ヒ、物情漸ク鎮靜シテ、物資ノ購入亦可能トナリタレバ、九月十八日、現品賄ノ支給ハ罹災職員及ビ宿直員・徹夜勤務者並ニ臨時傭人等ニ局限スル事トナシ、官房會計課數度檢査係長ヲシテ之ヲ擔當セシメ、同二十一日ヲ以テ事務ノ引繼ヲ爲シタリシガ、前日マデノ受給者延人員五萬八百八十二人ニ上レリ。

是ヨリ先、數度係長ハ出納係勤務ノ根本屬ト共ニ、配給事務ニ關スル準備ニ着手シ、九月十九日、麴町區有樂町ナル日本石油會社經營ノ有樂ビルヂング地下室ヲ借用シテ、炊事場ト、食堂トニ充テ、同二十日、警務課經理係ヨリ炊具及ビ食料品ヲ受領スルニ及ビ、翌二十一日ニ至リテ、罹災廳員・夜勤者・宿直員及臨時傭人ニ現品賄ノ支給ヲ開始セシガ、同三十日該賄中、臨時諸傭人ニ對スル支給ヲ廢止シ、尋テ十月三十一日ヲ限リテ之ヲ全廢セリ。而シテ其間ニ於ケル受給者ノ延人員五萬八千四十六人、經費ノ總額七千四百九十圓ニ上リ、延一人平均十二錢九厘ヲ要シタリキ。

第四節　罹災者ノ收容

九月一日二日ノ交、震火災ノ爲ニ家ヲ失ヘル多數ノ避難者ハ、所在ノ廣場、空地及ビ山ノ手方面ニ蝟集シタリシガ、其重ナル集團地ハ左ノ如クナリキ。

宮城外苑	約	三十萬人
東京驛前	同	十萬人
日比谷公園	同	五萬人
上野公園	同	五十萬人
芝公園	同	五萬人
九段靖國社境内	同	五萬人
明治神宮外苑	同	三萬人
深川清澄公園	同	五千人

深川公園	約五千人
洲崎埋立地	同五萬人
淺草觀音境内	同七萬人

各集團地ニ於ケル避難者ハ、各警察署又ハ區町村當局者ノ努力ニ依リテ各學校寺院等ニ收容セラレ、尋テ又隣接郡部ニ移動シ、或ハ親籍、知己ニ寄寓スル者モ亦尠ナカラザリシト雖モ、尙ホ其大部分ハ寢食ニ窮スルノ境地ニアルヲ以テ、本廳ハ各警察署長ヲ督勵シテ收容所ノ開設ニ努力セシムルト共ニ、九月四日收容バラック建設ノ必要ヲ認メ、臨時震災救護事務局ト交渉ノ結果、同局ハ本廳ニ對シ日比谷・上野・九段ノ各罹災者收容バラック及ビ帝國大學構内傳染病院其他傷病者收容所二箇所、診療所三箇所、寄附組立バラック四十五棟ノ建設ヲ委任セシヲ以テ、直ニ其工事ニ着手セリ。

第一、罹災者及ビ傷病者收容バラックノ建築

（一）事務分掌

九月六日臨時震災救護事務局ヨリ上野・日比谷及ビ九段靖國神社境内ニ、罹災者收容バラックノ建設ヲ委託セラルヽヤ、笹井保安部長ハ竹内建築課長ニ命ジテ左表ノ如ク之ガ事務ノ分掌ヲ定メシム。

罹災者收容所建築事務分掌

係別	當者	事務概要
總務係	佐藤（茂）、北澤、鈴木、荒森、染谷、江口各技師、早坂屬、技手六、巡査二、書記二	事務總括、關係官公署トノ交渉連絡、係員任命配置、自動車ノ配給、工事契約徵發材料代金支拂
設計及材料係	鳥井、鈴木、松保、小山、各技師技手十六名	罹災者收容バラック傳染病舍臨時病院外來診療所、罹災獨身者收容バラック等設計及所要材料ノ調査
建設及徵發運搬係	小山、森田、小林、增田、井上、前田大脇各技師、三宅、相良、蒲地、萩原各警部、技手七十名、書記一名	建築現場指揮監督建築材料徵發水陸運搬

（二）日比谷公園内罹災者收容バラックノ建築

場所	日比谷公園
棟數	本家百棟（附屬建物六十一棟）
總建坪	二千四百六十四坪三合三勺

起工年月日　大正十二年九月十一日
竣工年月日　同　年九月二十日
工事請負人　清水組
擔當員　主任前田技師
　　大脇技師
　　技手十四名

本工事ノ擔當者ニ於テ、兼掌セル所要材料ノ徵發ト、運搬トハ、九月六日ヨリ之ヲ開始シ、同十一日、前田・大脇兩技師監督ノ下ニ、清水組ヲシテ工事ニ着手セシメタリ而シテ當時同公園ノ運動場附近ニハ、罹災者約六十世帶ノ小屋掛ト、テニスコートニハ東京市ノ蒐集セル空樽ノ堆積セルトアリテ、其空樽ハ二日ニ亘リテ之ヲ除去セシモ、罹災者ノ立退不可能ナルヲ以テ、工事ノ進行ニ伴ヒ、未ダ屋根ヲ葺キ竣ラザルバラック内ニ收容ヲ爲ス等臨機ノ處置ニ出テ、起工後十日ニシテ、同月二十一日、之ガ竣工ヲ告ゲ、翌二十二日、東京市バラック主任ニ引渡セシガ、本工事ニ要セル大工及ビ人夫合計ノ延員數約六千人ヲ算セリ、今其建築ノ明細ヲ擧グレバ左ノ如シ。

日比谷バラック建築工事竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
バラック	木造平家（鐵筋コンクリート及土臺數軒高十尺屋根瓦鉛引鐵板葺）	八九	二四坪〇〇	二、一三六坪〇〇
同	同	三	二〇、〇〇	六〇、〇〇
同	同	四	一六、〇〇	六四、〇〇
同	同	三	一二、〇〇	三六、〇〇
同	同	一	八、〇〇	八、〇〇
計				二、三〇四、〇〇
附屬便所	同	一〇〇		
前上但シ軒高九尺	同	三〇	三、三三	九九、九〇
同	同	一四	三、〇〇	四二、〇〇
同	同	一四	一、〇〇	一四、〇〇
同	同	二	二、〇〇	四、〇〇
同	同	一	一、〇〇	一、〇〇
同	同	六一	一六〇、九〇	一六〇、九〇

同附屬構造

名稱	構造	形狀	總數
便所目隱	木造高六尺	長一間	一八
同	同	長二間	一
同	同	長二間半	一

下水溝	木造開渠（内一五〇間蓋附）	巾五尺七寸	五三三間	
同	同	深一尺八寸	五〇所	
溜桝	造	上口二尺角	八	
流	同	深サ二尺五寸	二二	
水道給水栓	木	上口深サ三尺五尺		
電燈（屋内灯）	十燭光		二二灯	
同	十六燭光		六〇	三四七
同（屋外灯）	十燭光			三六

(三) 上野公園罹災者收容バラックノ建築

場所	上野公園
建築總棟數	四百八棟
内 本家	二百七棟
内 附屬便所	二百一棟
建物總坪數	五千二百五坪
起工年月日	大正十二年九月十二日
竣工年月日	同　年十月十六日
工事請負人	清水組
工事擔當員	主任小林技師
	佐藤技師
	森田技師
	相良技手（兼警部）
	技手四十一名

本工事ノ擔當員ニ於テ兼掌セル所要材料ノ徵發運搬ハ、九月七日ヨリ開始セラレ、同十三日小林、佐藤、森田ノ三技師監督ノ下ニ清水組ヲシテ工事ニ着手セシメシガ、該材料ノ蒐集意ニ任セザリシ爲ニ、時日ノ遷延スルヲ虞レ、村上技手ノ提案ニ依リ、角材ノ代リニ丸太ヲ使用シ、以テ十月十六日ニ至リ、起工ヨリ三十有餘日ニシテ漸ク之ガ竣成ヲ告ゲシガ、其建坪日比谷ノ夫レニ比シテ約二倍ノ大工事ナリシヲ以テ、之ガ要員ノ延數ハ大工六千八十二人、鳶一千二百二十二人、人夫三千五十五人、鋲方三百八十六人ニシテ計一萬七百四十五人ナリキ。即チ明細表左ノ如シ。

上野バラック竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
バラック	木造平家建、屋根波形及平鐵板葺	一九一	二四坪	四、五八四坪
同	同	一	二七	二七
同	同	一	一八	一八
同	同	八	一五	一二〇
同	同	六	九	五四
計		二〇七	九三	四、八八三
附屬便所	同	二〇一		

同附屬構造

名稱	構造	總數
下溝	木溝	一九三所
溜桝（蓋附）	同	一四
流シ		三六
水道給水栓		三六甃
外燈		二五八
屋內燈		七〇八

（備考）以上ノ外雨落チ下水溝巾一尺乃至六寸深サ平均六寸延長四千二百三十四間ヲ布設セリ

(四) 九段坂上罹災者收容バラックノ建築

場所　九段坂上靖國神社境內

棟數

住宅	（六戶建）	十五棟
同	（八戶建）	三十四棟
商店	（六戶建）	二十一棟
計		七十棟
附屬便所		七十棟
總建坪		七百五十坪
起工年月日		大正十二年九月十三日
竣工年月日		同　年九月二十六日
工事請負人		清水組
擔當員		主任　增田技師
		井上技師

本工事ハ本廳直營ニ係リ、擔當員ニ於テ所要材料ノ徴發運搬ヲ兼掌シ、以テ、九月十三日ヨリ増田、井上ノ兩技師監督ノ下ニ清水組ヲシテ工事ニ着手セシメ、九月十六日ニハ九棟、同二十六日ニハ四十棟ノ落成ヲ見タルヲ以テ、其内ノ六棟ヲ東京市ニ引繼ギ、以テ、近衞歩兵第二聯隊廐舍ニ避難セル四百名ヲ收容セシガ、尋テ九月二十六日ニ至リテ全部ノ落成ヲ告ゲ、同二十八日之ヲ東京市ニ引渡セシガ、本工程ハ十四日間ニシテ、要員ノ延數大工、人夫ヲ合セテ三千八百四十八人ナリキ。即チ其明細書左表ノ如シ。

蒲地警部　技手十五名　書記十五名

九段坂上バラック竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
バラック計	木造平家、屋根波形鐵板葺、周圍下見板、間仕切片羽目板張	七〇	二四坪	一六、一八〇坪
附屬便所	同	七〇	二四	一六、一八〇
計		七〇	一	七〇

同附屬構造

名稱	構造	形狀	總數
便所目隱	木造鐵板張	長二間	一所
水道配給栓			二所
流場			一所
屋内電燈	十六燭光		六燈
同十燭			一燈
下水溜桝	木造	方深二尺一尺六寸	三所
下水溝	同	方深二尺一尺六寸	四所
			七〇間

(五) 救護用傳染病舍ノ建築

場所　東京帝國大學構内

棟數　本家二棟附屬建物三棟

總建坪　二百九十五坪

起工年月日　大正十二年九月二十一日

竣工年月日　同　年十月九日

工事請負人　清水組

擔當員　主任　小山技師

技　手　八　名
巡査部長　一　名

本工事ニ於テモ、擔當者ハ所要材料ノ徵發運搬ニ從事シ、九月二十一日、小山技師監督ノ下ニ、清水組ヲシテ工事ニ着手セシメシガ、十月九日ニ至リテ落成セリ、此工程十九日、要員延數大工、人夫ヲ合セテ千三百八十四人ナリキ。即チ其明細書ハ左表ノ如シ。

帝大構内傳染病舍竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
病室	木造平家、屋根波形鐵板葺	二	二二、〇〇	二二五、〇〇
醫局	同	一	五五、〇〇	五五、〇〇
浴室便所	同	一	一二、〇〇	一二、〇〇
渡廊下	木造平家吹拔、床板張屋根波形鐵板葺	一	三、〇〇	三、〇〇
計		五		二九五、〇〇

同附屬構造

名稱	構造	總數
大便壺	側煉瓦積、床煉瓦敷、壺引出式、屋根蓋付	一所
小便溜桝	側煉瓦積、床煉瓦敷覆蓋付	一所
浴室溜桝	側木造覆蓋付	二所
汚物溜槽	側木造屋根付	一個
浴槽	木造竈付	二所
正面道路	掘放	一所

(六)　臨時三河島病院ノ建築

場　所　北豐島郡三河島町大字三河島字荒木田一、八九〇
棟　數　本家四棟、附屬建物十六棟
總建坪　七百五十七坪二合二勺
起工年月日　大正十二年九月二十五日
竣工年月日　同　年十一月五日
工事請負人　清　水　組
擔當員　主任濱　田　技　手
技　手　二　名

本工事用ノ木材ハ隅田驛構内及ビ芝浦ナル東京市配給所ヨリ受給シ、屋根葺用鐵板等ハ直接之ヲ購入シ、清水組ヲシテ工事ニ着手セシメタリシガ、會々十月十日暴風ノ警報アリ、素建中ノ全部ニ對シテ臨時ニ補强ヲ施ス等苦心ノ結果十一月初旬ニ至リテ全部ノ落成ヲ見タルヲ以テ、之ヲ衞生部ニ引渡シタリ。卽チ其明細書ハ左表ノ如シ。

臨時三河島病院竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
本館	木造平家建、外部下見板、內部羽目板張小屋洋式亞鉛引生子板葺ラバロイト天井及床板張上（配膳室六坪ヲ含ム）	一	一四七、〇〇	一四七、〇〇
病舍	同	三	四五〇、〇〇	一三五〇、〇〇
玄關	木造吹抜キ床叩キ	一	四、五〇	四、五〇
炊事場	木造平家建、外部下見板張、內部腰羽目板、床叩、小屋組其他同上	一	三六、〇〇	三六、〇〇
洗濯裁縫室	同上石叩及板張	一	一六、〇〇	一六、〇〇
欣事夫便所	同上	一	二、〇〇	二、〇〇
食器消毒室	同	一	二、〇〇	二、〇〇
消毒室	同	一	六、〇〇	六、〇〇
屍室	同	一	四、〇〇	四、〇〇
職員浴室	同	一	二、五〇	二、五〇
便所及患者浴室	同	一	一〇、〇〇	一〇、〇〇
便所	同	六	二二、五〇	一三五、〇〇
本館渡廊下	同	三	二四、〇〇	七二、〇〇
便所渡廊下	同	七	一四、五〇	一〇一、五〇
炊事場渡廊下	同	一	八、二五	八、二五
自動車々庫	同	一	四、五〇	四、五〇
洗濯及洗面所	同	九	二、九七	二六、七三
計		四〇	七五六、七二	一、九二七、九八

（附屬設備ヲ略ス）

（七）臨時小松川病院ノ建築

場所　南葛飾郡小松川町荒川放水路傍

棟數　本家四棟、附屬建物九棟

總建坪　七百七十七坪七合五勺

起工年月日　大正十二年九月二十五日

竣工年月日　大正十二年十月二十八日

工事請負人　水組

擔當員　主任長谷川技手

技手九名

本工事ノ用材中、木材ハ隅田驛構内及ビ芝浦ナル東京市配給所ヨリ供給ヲ受ケ、鐵板材ハ直接民間ヨリ購入シテ、九月二十五日工事ニ着手シ、十一月八日落成ノ上之ヲ衞生部ニ引渡シタルガ、此工程三十五日ニシテ其要員延數大工、人夫ヲ合セテ三千百五十九人ナリキ。即チ其明細書左表ノ如シ。

臨時小松川病院竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
第一號醫務室	木造平家生子板葺	一	一四四、〇〇	一四四、〇〇
第二號表玄關	同	一	四、五〇	四、五〇
第三號病室	同	一	一四四、〇〇	一四四、〇〇
第四號病室	同	一	一四四、〇〇	一四四、〇〇
第五號病室	同	一	一四四、〇〇	一四四、〇〇
第六號裏玄關	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第七號中大廊下	同	一	一〇、〇〇	一〇、〇〇
第八號中大廊下	同	一	一〇、〇〇	一〇、〇〇
第九號中大廊下	同	一	一〇、〇〇	一〇、〇〇
第一〇號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一一號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一二號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一三號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一四號廊下及便所浴室	同	一	一二、五〇	一二、五〇
第一五號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一六號廊下及便所	同	一	五、七〇	五、七〇
第一七號廊下及便所	同	一	一〇、七五	一〇、七五
第一八號小使室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第一九號看護婦室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第二〇號看護婦室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第二一號看護婦室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第二二號配膳室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第二三號配膳室	同	一	三、〇〇	三、〇〇

第二四號配膳室	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第二五號炊事室	同	一	三六、〇〇	三六、〇〇
第二六號消毒室	同	一	二、〇〇	二、〇〇
第二七號便所	同	一	二、〇〇	二、〇〇
第二八號洗濯場	同	一	一六、五〇	一六、五〇
第二九號消毒室	同	一	六、〇〇	六、〇〇
第三〇號屍室	同	一	四、〇〇	四、〇〇
第三一號自動車車庫	同	一	五、〇〇	五、〇〇
第三二號汚物置場	同	一	三、〇〇	三、〇〇
第三三號油庫	同	一	一、〇〇	一、〇〇
第三四號物置	同	一	四、〇〇	四、〇〇
第三五號渡廊下	同	一	六、〇〇	六、〇〇
計			七七七、六〇	七七七、六〇

（附屬設備ヲ略ス）

（八）三輪外來診療所ノ建築

場所　北豐島郡三河島町大字三河島二八一二番地

棟數　本家一棟　附屬建物四棟

總建坪　三十二坪二合五勺

起工年月日　大正十二年十月十二日

竣工年月日　同　年十一月二日

工事諸負人　清水組

擔當員　主任鯵坂技手

技手二名

警部一名

本工事モ亦本廳衛生部ノ直營ニシテ、保安部建築課之ヲ擔當シ、十一月二日ヲ以テ落成セリ、卽其明細書左表ノ如シ。

三輪外來診療所竣工明細書

名稱	構造	棟數	一棟ノ建坪	總建坪
本家	木造平家西洋、小家組切妻波形鐵板葺內部打上張天井床板張ラハロイト張外部下見板張床一部コンクリート叩	一	桁行四尺二　梁間二一	二四、五〇
玄關	木造平家化粧和、小屋波形鐵板葺床土間砂利敷內外共吹拔	一	桁行六　梁間九	一、五〇

渡廊下	木造平家和、小屋波形鐵板葺外部下見張、内部六尺通羽目張、床土間砂利敷	一	桁行梁間	六九	一、五〇
便所	右同床コンクート叩	一	同同	一九五	三、七五
井戸家形	葺卸波形鐵板葺床板張ノ上平亞鉛板張	一	同同	六六	一、〇〇
計					三二、二五

（附屬設備ヲ略ス）

（九）龜戸外來診療所ノ建築

場所　南葛飾郡龜戸町上水神
棟數　本家一棟、附屬建物三棟、
總建坪　三十二坪七合五勺
起工年月日　大正十二年十月十二日
竣工年月日　大正十二年十月三十一日
工事請負人　清水組
擔當員　主任　栗原技手
技手　二名
警部　一名

本工事モ亦本廳衞生部ノ直營ニシテ、保安部建築課之ヲ擔當シ、十月三十日落成セリ。

（一〇）淺草本願寺境内外來診療所ノ建築

場所　淺草區松清町東本願寺境内四十號
棟數　本家一棟、附屬建物三棟
總建坪　三十一坪二合五勺
起工年月日　大正十二年十月十二日
竣工年月日　同　年十一月一日
工事請負人　清水組
擔當員　主任　平澤技手
技手　二名
警部　一名

本工事モ亦本廳衞生部ノ直營ニシテ、同ジク保安部建築課ノ擔當セル所ナルガ、十一月一日落成セリ。

（一一）罹災獨身者收容バラックノ建築

建築場所其他

番號	建築場所	棟數	總建坪	起工年月日	竣工年月日
一	淺草玉姫町	五	三〇〇	十月二十三日	十一月二十四日
二	本所區材木町矯風會館跡	二	一二〇	十月二十二日	十一月二十一日
三	本所區回向院	二	一二〇	十月二十二日	十一月二十五日
四	本所區被服廠跡	四	二四〇	十月二十二日	十一月二十三日
五	深川區平久町埋立地	四	二四〇	十月二十二日	十二月十一日
六	本所區古川伸銅所内遊園地	三	一八〇	十月二十七日	十一月二十九日
七	上野公園	二	一二〇	十月十日	十一月二十三日
八	下谷區坂本戸田邸	二	一二〇	十月二十七日	十二月二十五日
九	深川區深川公園	二	一二〇	十月二十八日	十二月七日
一〇	京橋區月島二號地	三	一八〇	十月二十八日	十一月二十八日
一一	本所區林町三丁目	一	六〇	十月十日	十二月十三日
計		三〇	一、八〇〇		

一棟ノ建坪　六十坪

請負人　清水組

擔當員　主任小山技師

技手十九名

罹災者中、主トシテ自由勞働ニ從事スル獨身者ヲ、一般罹災者ノ集團バラック中ニ雜居セシムルハ、風紀上其他諸種ノ情弊ヲ釀スノ虞アルヲ以テ、之ヲ收容センガ爲ニ特殊ノバラックヲ營ミ、且簡易食堂ヲモ設クルト共ニ、相當ノ取締ヲ爲スベキ必要ヲ見タレバ、臨時震災救護事務局ノ同意ヲ得テ本廳之ガ建築工事ヲ受託スルニ至レリ。是ニ於テ保安部建築課ハ其工事ヲ擔當シ、且經營者タル東京市ト協議ノ結果、淺草區玉姫町外十一箇所ニ地ヲトシテ、清水組ヲシテ作業ニ着手セシメシガ、用材ハ關西府縣ノ聯合寄附ニ係ル所謂組立バラックニシテ、僅ニ内部ノ造作用材ヲ購入セルニ過ギザルヲ以テ、作業簡易ニシテ、十一月廿一日以降次第ニ落成スルニ伴ヒ、之ヲ同市ニ引渡シタリ。

（一二）罹災兒童保育園其他バラックノ建築

名稱場所其他

番號	名稱	建築場所	棟數	總建坪	起工年月日	竣工年月日
一	救世軍保育園	九段靖國神社境内	一	六〇	十月二十二日	十一月十三日
二	同	日比谷公園	一	六〇	十月二十五日	十一月十一日
三	西本願寺補習的林間學校	上野公園	一	六〇	十月二十一日	十一月十三日
四	希望社上野會館	同	一	六〇	同	同
五	罹災收容所	同	二	一二〇	同	同
六	托兒所	北豐島郡三河島町	一	六〇	十月九日	十一月二十二日
七	罹災者收容所	同	八	四八〇	同	同
計			一五	九〇〇		

一棟ノ建坪　六十坪

工事請負人　清水組

擔當員　主任小山技師

技手九名

本工事モ亦罹災獨身者收容バラツクト同ジク、關西府縣ノ聯合寄附ニ係ル組立バラツクニシテ、敷地ノ選定ハ東京市ト協議ヲ重ネ、保安部建築課監督ノ下ニ、清水組ヲシテ工事ニ着手セシメ、十一月二十三日落成ノ上、之ヲ東京市ニ引渡シタリ。

第二、罹災者收容ノ實施

(一) 新設バラツクノ罹災者ノ收容

本廳ハバラツクノ落成ニ先チ、九月十三日、罹災者ノ收容法ニ關シテハ、市當局ト協議シテ其方針ヲ決定シ、翌十四日笹井保安部長ヨリ麴町、日比谷、上野ノ各署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シテ罹災者ノ收容及ビ其整理ヲ爲サシメタリ。

本廳ニ於ケル建設中ノバラツク收容方針ニ關スル件（大正十二年九月十四日外號）

首題ノ件ニ就キ昨十三日東京市役所及ビ關係區役所ト協議決定セル事項左記ノ通ニ有之候間市役所ヨリ具體的方法ニ付協議ヲ受ケタルトキハ其實行方法ニ就キ齟齬ヲ來サヾル樣周密ナル打合セヲ遂ゲ、漸次現在避難民所在地區及ビ避難場所毎ニ整理ヲ遂グル樣努メラレ度

記

(イ) 先ツ主トシテ露天假小屋ニ居住スル避難者ニシテ整理ノ必要アルモノニ立退キヲ命ジ之ニ收容シ右露店假小屋ハ直ニ之ヲ除却スルコト

(ロ) 次ニ官公衙ニ收容中ノ者ニシテ事務執行上至急整理ノ要アリト認ムルモノニ立退キヲ命ジ之ヲ收容スルコト

第四節　罹災者收容

（ハ）一般申込ニ依ル收容ハ之ヲ爲サヽルコト

（ニ）收容ノ具體的方法ハ市區役所ニテ之ヲ定メ所轄署長ニ協議シ警察ト協同シテ實行ニ當ルコト

今各罹災者收容バラツクノ成績ヲ擧グレバ左表ノ如シ。

罹災者收容バラツク成績（至自大正十三年二月十日）

區別	日比谷公園 戸數	日比谷公園 人口	上野公園 戸數	上野公園 人口	九段靖國神社遙拜 戸數	九段靖國神社遙拜 人口	計 戸數	計 人口
十月	二、三五五	八、四四五	六二	二、八三五	六八八	三、〇四〇	三、五五五	四、六八九
十一月	二、三五五	八、六四五	六六	三、三八	六五三	三、〇九九	三、四四六	三、〇四九
十二月	二、二三	八、六六三	六四四	三、四〇八	六四〇	三、〇〇三	三、八二五	三、〇二九
一月	二、一九一	八、四三	六四八	三、三九	六六九	二、九五五	三、四〇八	四、六六六
二月	二、〇八二	八、六三	六四八	三、三九	六三五	二、八〇二	三、三五三	四、二九四
三月	二、〇六四	八、〇六三	六四八	三、三八	五九	二、三九	三、三二	三、七九
延計	三、〇九七	五〇、五二七	三、八八	一九、六七七	三、七八二	一七、六七七	二〇、七六七	七四六一

罹災獨身者收容バラツク成績表（自大正十三年一月至同年七月）

所在地	宿泊人員 一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	計	一月平均人員
玉姫町	八、六九一	八、二二三	八、一九一	五、三四八	四、六三二	四、四六六	四、四六六	四二、九六六	六、一六五
株町	三、七〇七	三、七〇〇	四、七九九	二、九五五	二、二六四	二、四四七	二、五二三	二二、二五四	三、一九九
元町	四、九八六	四、六〇一	五、二五九	四、一四六	三、九一七	三、四六六	三、一八六	二九、七五五	三、二四七
横綱町	六、六〇七	六、三六七	八、一二〇	六、一九五	五、四一七	五、一九四	四、八五五	四二、七一五	六、一〇一
花園町	八三	二、五八一	六、五三	三、五三三	二、二七〇	二、〇四〇	二、二二五	一〇、〇一四	二、八九九
御原町	五、〇〇二	五、六三八	五、八六六	三、六六九	一、六四五	一、四九九	一、七三四	一二、九三	三、五七〇
上野	四、九六八	五、〇〇四	五、四四九	四、一四三	四、〇六三	三、四四五	三、一二五	二〇、二二五	四、三二六
龍泉寺町	一	一、三三	四、六七	四、一一四	四、三六四	三、八〇	三、四六三	二一、八一	三、一二五
深川	三、九一〇	四、九八	五、六〇三	四、一一〇	三、三七六	二、四四四	二、二七八	六六、六九九	三、八〇五
月島	八四	三、〇一三	四、六一〇	三、一一〇	二、四七三	三、四〇二	三、四一七	一〇、八四九	一、九九八
太平町	八八	一五五	三七	四三一	四七七	三六八	四三一	二、一九四	三七
合計	三九、五四四	四五、五〇二	五六、六四四	四一、七四四	三四、九八	三二、六二一	三一、七七二	二六、七一五	四〇、八六六

（二）罹災者收容所ノ調査宣傳

本廳ハ、震火災ノ當日ヨリ各警察署ヲ督勵シテ、罹災者ノ收容ニ努力セシガ、之ヲ

收容セルハ僅々一小部分ニ過ギザルニ鑑ミ、九月四日笹井保安部長ハ、左記通牒ヲ各署長ニ發シテ、其收容ニ適スベキ家屋ヲ調査セシメタリ。

避難民收容家屋調査ノ件（大正十二年九月四日外）

罹災民中、附近ニ親戚故舊無ク居住スベキ住宅ナキ者ヲ臨時收容スル爲左ノ事項ヲ特急調査報告相成度依命通牒候也

一、學校、寺院、興業場、集會場其他ノ公共的營造物中收容ニ適スルモノノ名稱位置、坪數收容見込人員（既ニ收容セル）數及ビ收容餘力數ノ大約

（二）收容見込人員ニ對スル飲料水ノ情況

追テ避難民集合地ノ附近ニ於ケル前記營造物ハ即時開放セシムルニ努メラレ度

斯クテ同八日ニ至リ、更ニ罹災者收容所ノ實況ヲ調査スルニ、罹災者ハ概ネ其最初ニ避難セル場所ニ留リテ、他ニ移動セザルガ故ニ、收容人員ハ多數ニシテ、之ガ救護ハ其場所ニ依リテ極メテ困難ナルニモ拘ラズ、他方ニ於テハ學校、寺院等ニシテ、之ガ收容ニ適セル者尠ナカラザルヲ認メ、之ヲ一般罹災者ニ宣傳シテ、分散セシムルノ必要ヲ感ジ、即日正力官房主事ハ笹井保安部長ト共ニ、白井文書課長ニ命ジテ其任ニ當ラシメシガ、同課ニ於ケル事務分掌ハ左表ノ如シ。

事務分掌

事務別	擔當者	事務概要
總務	文書課 白井屬　兼警視 本警部	事務總括
調査	高等課、若村、川島、辻、小渡部、庄田各警部補	自動車三臺ニ分乘シ管内ヲ巡回シ收容所ノ實況ヲ調査シ且ツ收容可能ノ建物ヲ搜索選定之ヲ電話ニテ報告ス
報告蒐集	文書課 山本警部補、橋本警部補	調査係ノ實査結果ヲ蒐集シ之ヲ宣傳係ニ交付シ更ニ保安部ニ移牒スルコト
宣傳ビラノ作成	文書課 樽田警部 巡査一、書記二	報告セラレタル收容及救護可能ノモノニ就キ宣傳ビラヲ作成スルコト
宣傳ビラノ頒布	高等課、前記調査ヲ擔當セル警部、警務部宣傳隊	宣傳文ヲ一般罹災者ニ頒布スルコト

尋テ同十日各署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シテ之ガ督勵ヲ爲セリ。

罹災者收容所調査ニ關スル件（大正十二年九月十日外）

官廳公共團體其他各方面ノ努力ニ依リ罹災者ノ救濟稍ゝ効ヲ收メ、今ヤ人心漸ク兇々ノ域ヲ脫セルヲ認ムルモ此際更ニ一歩ヲ進メ罹災者ヲシテ其一時的避難所ヨリ繼續的住居ニ

移動セシムルハ給與衞生、救護ノ上ニ於テ喫緊ノ要務ト思料セラレ候ニ付テハ其署管内左記事項ニ關シ、毎日調査ヲ遂ゲ以テ罹災者ノ安堵ヲ得セシムル樣最善ノ措置セラレ度、

追テ右事務ハ當分ノ内官房保安部協力之ヲ管掌スルコトニ相成候條其調査ハ當日中ニ官房ニ報告セラレ度、尙本廳ヨリ調査員ヲ派遣致スベク候條便宜之ニ委託スルモ支障無之候。

記

罹災者收容情況調

(一) 建物ノ名稱
(二) 位置
(三) 現收容人員
(四) 前日收容人員
(五) 收容餘力
(六) 米、水ノ配給情況
(七) 罹災者ノ主タル避難場所
(八) 地方ニ避難スル情況

爾來本廳ハ此方針ニ基キテ、各警察署ト協同シ、九月九日ヨリ同十二日ニ至ル四日間ニ於ケル、市内二百十九ケ所、郡部百十四ケ所ノ調査ノ結果、新ニ十二萬二千六百餘人ヲ收容救護シ得ルノ事實ヲ發見シテ、直ニ宣傳ビラヲ撒布シ、又ハ之ヲ要所ニ掲載シテ罹災者ニ知ラシメタリ。

宣傳文ノ一斑左ノ如シ。

「芝浦ヘ!!!　芝浦ヘ!!!

芝浦埋立地ニハ、横川工場、高等工藝學校ニ約一萬人ノ收容力アリ。

尙其地ヨリ、關西方面ニ對シ、毎日避難民無賃軍艦輸送ノ便アリ。」

「本所相生署管内、國技館ニ、尙四千人ノ收容力アリ、食料ノ配給支障ナキニ付避難セラレタシ。」

「淀橋警察署管内、大久保電車々庫ニ、約二千人ノ罹災者收容力アリ、食料ハ町役場ヨリ配給スル筈ニ付避難セラレ度シ」

宣傳ノ結果、新收容所ニ移轉スルモノ漸ク多ク、之ガ爲ニ、從來ノ收容所ハ大ニ緩和セラレタルヲ以テ、同月十四日之ヲ中止セリ。

第五節　勞働者ニ對スル措置

震火災ノ激甚ナル慘害ハ、幾多罹災民ノ生業ヲ奪ヒ、生活資料ヲ失ハシムルニ至

レリ。無數ノ失業者ハ生業ヲ求メムト焦慮スレドモ、勞働需要ノ途一時杜絶シタルト、救濟機關ノ休止ノ爲、窮乏愈々切迫シ、災後ノ社會狀態ニ一層ノ不安ヲ加クルニ至レリ。東京市社會局及中央職業紹介所等ニ於テハ、時ヲ移サズ失業者ノ救濟ニ努メタリト雖、勞務請負業其ノ他求人ノ申込僅少ナル爲、連日門前市ヲ爲ス悲慘ナル求職者ニ對シ施スニ術ナキ狀態ニシテ、之ヲ放任スルニ於テハ如何ナル事端ヲ釀スヤモ測リ難キ情勢ニ在ルヲ以テ、當廳ハ正力官房主事及笹井保安部長協力シ、官房文書課及保安部人事相談課ヲシテ市社會局ヲ援助シ、廣ク求人ノ申込ヲ取纏メ、失業者救濟ノ途ヲ講ズルト共ニ、一面官房特別高等課勞働係ニ於テハ、災害ニ於ケル勞働ノ需給狀態及勞働者ノ歸趨等ニ就キ精査ヲ遂ゲ、叙上ノ不安狀態ヨリ惹起セラルヽコトアルベキ事端ノ防止ニ努メ、以テ治安保治上遺憾ナキヲ期セリ。

第一　災害ノ勞働者ニ及ボセル影響概要

一、職工ノ異動

災後特別高等課勞働係ニ於ケル調査ニ依レバ、大正十二年八月現在、管下工場數ハ二萬五千百二十五、其ノ使用職工數二十萬五千六百九十八名ナリシガ、震災ノ結果、工場數一萬四千二百十二、職工數十四萬七千九十一名ニ減ジ、工場數ニ於テ四割强ヲ減ジ、職工數ニ於テ三割四分强ノ減少ヲ見タリ。

次ニ工場法適用工場ニ就キテ見ルニ、震災前ノ工場數四千七十九、其ノ使用職工十七萬二千二百七十六名ナリシニ、震火災ノ結果、工場數二千四百八十七、職工十一萬五千八百四十四名ニ激減セリ。其後四ヶ月間ニ於ケル復舊情況ヲ見ルニ、工場法適用工場二千八百九十四、職工數十三萬一千七百十九名ニ增加セリ。更ニ之ヲ職業大別ニ依リ比較スレバ左表ノ如シ。

工場法適用工場職工異動調

業態別	月別	工場數	職工數 男	職工數 女	職工數 計
染織工場	八月末	六三二	一五、五五六	四一、三三〇	五六、七七六
	震災直後	五二四	二二、四九八	三六、四一〇	四八、九〇八
	十月末	五一六	二一、七四六	三四、二二九	四五、八七五
機械器具工場	八月末	一、九一九	五一、〇〇八	六、二二一	五七、二二九
	震災直後	一、〇一〇	二七、九二六	二、〇〇九	二九、九六五
	十月末	九五四	三二、四九二	三、二九四	三五、六八七

化學工場	八月末	七三〇	一六、五二四	六、〇四八	二三、五七二
	震災直後	五一四	一一、六〇一	四、五四四	一六、一五四
	十月末	四六一	一一、三八五	五、一八七	一六、五七二
飲食物工場	八月末	一一四	四、一六四	二、〇五二	六、二一六
	震災直後	六八	二、六五八	一、七九〇	四、四四八
	十月末	五六	二、五九七	一、八五三	四、四五〇
雜工場	八月末	六六二	二三、〇〇七	六、四八二	二八、四八九
	震災直後	三六八	一一、四五五	四、二九四	一五、七四九
	十月末	三四五	一一、四四八	四、二八二	一五、七三〇
時計工場	八月末	三	九八三	二	一、〇〇四
	震災直後	一三	六二六	三	六二九
	十月末	二	九四六	二四	九七〇
合計	八月末	四、〇七九	一一〇、二四二	六二、〇三四	一七二、二六六
	震災直後	二、四八七	六六、七七四	四九、〇七〇	一二五、八四四
	十月末	二、三四四	七〇、六二五	四八、六六九	一二九、二八四

二、勞働爭議

震火災ニ直接間接基因セル勞働爭議ハ左ノ十五件ニシテ、大正十二年中ノ爭議總數百六件ノ約一割ヲ占メタリ。

震災ニ基因セル勞働爭議表

主タル原因及要求事項	工場名	職工總數	參加人員	繼續日數
職工解雇（解雇手當要求）	六櫻社（角筈）	四〇〇	二〇〇	九
	瓦斯電氣工場大森工場	九五六	三六	八
	東京工具製作所（大崎）	七	七	七
	神谷棧橋會社王子工場	六八	六八	三
	神谷酒造會社（本所中ノ郷）	九五	九五	一
	東京瓦斯電氣珐瑯工場（本所中ノ郷）	九八	五五	七
	日本電話大森工場	三〇	二三	三二
收入減（增額要求）	電業社（幡ヶ谷）	四八〇	二〇〇	五
	大正製油會社（堀ノ内）	六六	六二	五
	日本光學工業會社（芝區豐岡町）	四五〇	二〇〇	四
	日本電氣會社（芝三田四國町）	八二三	五五〇	五
	京華社印刷所（麴町飯田町）	三六	三六	五

金融杜絶賃金不拂（支拂要求）	日本ホース會社（蟠ヶ谷）	一八	一八	三二
事業休止（賃金要求）	日本製靴會社（千住中組）	二四八	二四八	九
	羊毛整製會社（巣鴨新田）	六〇	六〇	五
計	一五	三、八三五	一、八五八	

第二、工場被害及職工歸趨情況

工場ノ被害及其ノ使用勞働者ノ歸趨ハ最モ重要ナル事項ナリシモ、當時全工場ニ就キ調査スルハ殆ンド不可能ナリシヲ以テ、九月二十日現在職工五十人以上ヲ使用スル工場ノミニ付、調査ヲ遂ゲタルニ左表ノ如シ。

工場被害調査表（職工五十人以上使用工場）（大正十二年九月二十日現在）

種別	工場別	工場數	殘存工場	倒潰工場	燒失工場	計
復舊ノ可否	復舊セルモノ	一五六	一〇八	九	四	一六九
	見込アルモノ	九四	九三	一三七	三一四	三一七
	見込ナキモノ	一	二	一四	一七	四〇
	未定ノモノ	二	四	四〇	四六	四六

職工歸趨情況（職工五十人以上使用工場）（大正十二年九月二十日現在）

職工歸趨別		工場狀態別 殘存工場	倒潰工場	燒失工場	計
損害見積高		九、四四〇、〇六三円	三九、〇七三、三四五	一〇八、六二一、〇〇〇	一五七、三四、四〇八
死亡者數	男	四四	二三三	一三六	三九三
	女	一九	一五一	五八	三三八
	計	七三	四六四	一九四	七三一
重傷者數	男	一	七一	三七	一一九
	女	三	三一	八	一六一
	計	三	一〇一	五五	二八〇
輕傷者數	男	六七	三七	九四	一九八
	女	三三	二六九	二六	三二八
	計	一〇〇	四〇六	一二〇	六二六
震災前職工總數	男	三六、七五八	二一、四〇八	三四、〇〇三	九二、一八八
	女	一六、八一五	三五、七六二	一三、三三七	六五、九一四
	計	五三、五七三	五七、一七〇	四七、三九九	一五八、一〇二
	男	四四	二三	一六	三九三

死亡者數			解雇者數			一時歸國セルモノ			使用セラルヽモノ工場ノ作業又ハ跡片付等ニ			ノ工場復帰ヲ待チツヽアルモ			所在不明其ノ他		
女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男
元	十三	四四四	一五七	九四	八、七四二	五三三	一、四〇〇	一、〇六九	一〇、一五三	二、五三一	四、八七四	五、五五九	一四〇六	九九	四五五	一〇、七七四	二、一〇四
二五一	一九四	七、二七三	二、九六八	一、四〇〇	一、〇四三	七、七七五	八、七七八	一、九四八	一一、九三	一一、五六一	五、二二六	五、五九九	一一、七七四	二、一〇九	二、九六四	一〇、七七四	二、一〇六
三六	一一、六三	八、六八八	二、九五五	一一、六三	六、二四七	四、三三三	一八、五九	四八、九八	二一、九〇一	七〇、八七九	一六、九九	二五、九九	三一、六四八	一一、二七三	二、九三九	一〇、四三五	二、四五五

第三章　救護

第三、職業紹介情況

震火災ノ、工場及勞働者ニ及ボセル影響竝職工ノ歸趨狀態ノ概要ハ上述ノ如クナルガ、此他一般ノ失業者ハ擧ゲテ數フベカラズ、之ニ對スル援職ハ最モ急務ナルモ、災害直後數日間ハ一般紹介機關ノ活動ナク、九月七日ニ至リ辛ウジテ東京市社會局其ノ他數ケ所ニ於テ事務ヲ開始シタルガ、同日ヨリ十五日迄ノ取扱ハ左ノ如クニシテ、當時ノ求職者中約三分ノ二ハ就職シ得ザルノ實況ナリキ。

震災直後職業紹介情況

月日	求人	求職	紹介
九月七日	一、〇六九	一、四一六	二八六
九月八日	一、九四八	三、三七〇	八三六
九月九日	四、六八四	六、五三〇	三、二六三
九月十日	二、九六四	五、五九〇	二、〇三
計	一、六三四	一一、三五一	一〇、九三五

九月十一日	二、九三四	五、二五五	二、九四五	
九月十二日	三、三五四	五、七一一	三、三四四	
九月十三日	三、五五六	六、八九六	三、九八四	
九月十四日	三、六五九	八、四九六	三、六四一	
九月十五日	五、六二〇	九、五一〇	五、六二九	
計	二九、七八八	五二、七七四	二六、七六〇	

備考　本表ハ市社會局、中央、芝、國橋、上野、四谷、玉姫ノ六紹介所ニ就キ調査シタルモノナリ（九月十五日迄ニ開始セルモノ全部）

然ルニ漸次秩序ノ恢復ト共ニ、各紹介所等モ執務ヲ開始スルニ至リタルト、一時的勞働ヲ求メタルモノモ次第ニ就職口ヲ得ルニ至リ、一方市内燒殘地域及隣接郡部ノ商工業ハ、急激ナル發展ヲ遂ゲ、年少者ノ求人多キニ至レル爲、求人者數ハ求職者數ヨリ多キ傾向ヲ示スニ至レリ。今九月十六日ヨリ十月十五日ニ至ル一ケ月間ニ於ケル十九紹介所ニ於テ取扱ヒタル數ヲ擧グレバ左ノ如シ。

職業紹介情況

種別	求人	求職	紹介
自由勞働者	一二二、七一六	一四八、七一九	一一四、八九四
其ノ他	三八、二二五	三〇、六二六	二〇、八四五
計	一六〇、九四一	一七九、三四五	一三五、七三九

第四、當廳ニ於ケル失業者ノ救濟施設

一、施設ノ概要

災後一般職業紹介所ノ休止ニ際シ、多數失業者ハ生計費ヲ得ル道ナク、倍〻窮乏ニ陷リ、求職者ハ連日東京市社會局、外數ケ所ノ紹介所ニ殺到スルモ、到底處理スル能ハズ、情勢刻々險惡ヲ加ヘタルヲ以テ、當廳ニ於テハ、東京市社會局及市營職業紹介所ヲ援助シ、求人者ノ募集及求職者紹介ヲ爲スコトヲ決シ、官房文書課及保安部人事相談課聯合シ、九月十四日各署長ニ左記通牒ヲ發シ、求人ノ申込ヲ取纏メ、之ヲ市社會局ニ廻送シテ求職者ノ救濟ニ努ムルト同時ニ、人事相談課及各署ニ職業紹介方ヲ申出ヅル者ニ對シテハ直接之ヲ紹介シタリ。

就職紹介ニ關スル件（官房主事、保安部長連名）

罹災者ニ對シ此際急速就職ノ途ヲ講ズルハ現下ノ救濟策トシテ尤モ緊要ノ事ト被認候ニ

付テハ之カ方法トシテ貴管内ニ於ケル勞働需用ノ向ヲ調査シ其ノ都度市社會局若クハ市營職業紹介所又ハ本廳人事相談課ニ通牒相成度、然ル時ハ右通報先ヨリ適宜勞働者ノ供給方手配可致又貴管内ニ於テ需要供給ノ兩向有之候節ハ貴署限リ便宜紹介方配慮相成度此段及通牒候也、

但シ其ノ成績ニ付テハ三日目毎ニ左記樣式ニ依リ人事相談課迄通報相成度

（樣式）

年　月　日　　署長名

申込月日	勞働者必要月日	申込者住所氏名	要員	追報先	備考

一面官房文書課ニ於テハ左記宣傳ビラ二萬枚ヲ印刷シ、之ヲ各署ニ配布スルト共ニ、九月十三日同十七日迄連日市郡各所ニ貼付又ハ撒布シ、一般ノ周知ヲ計レリ。

（宣傳文）

勞働者ヲ入用ノ方ハ當課ヘ申込下サイ御世話致シマス

警視廳人事相談課

二、勞働者紹介成績

前記施設ヲ實施シタル結果其ノ成績ヲ見ルニ左表ノ如シ。

勞働者紹介成績（自大正十二年九月十三日至同年十一月十四日）

取扱別＼種別	求職人員			就職人員		
	男	女	計	男	女	計
本廳人事相談課	一、六七七	四、四〇六	四七	四、四五三	一、六〇一	二六	一、六七七
各署	一、〇八八	四八	二	五〇	一、〇八五	三	一、〇八八
合計	二、七一五	四、四五四	四九	四、五〇三	二、六八六	二九	二、七一五

求職者中就職紹介不能者ハ市設職業紹介所ニ廻付セリ

第四章　衛生醫療

第一節　救療施設

九月一日ノ災變ハ、烈震ニ亞グニ未曾有ノ大火災ヲ以テシ、家屋ノ倒潰人畜ノ死傷擧ゲテ數フベカラズ。事態頗容易ナラザルモノアルヲ以テ、本廳衛生部ハ直ニ死傷者ノ收容救護ニ着手セリト雖、其慘害ノ大ナル、小數部員ノ能ク辨ズベキ所ニアラズ、況ヤ醫療器具及ビ材料等概ネ燒失セルニ於テオヤ、卽チ之ガ對策ノ如キハ一般救護機關ノ應援ヲ俟チテ徐々ニ實施セン事ヲ期シ、先ヅ全力ヲ應急措置ニ傾倒シタリシガ、管下並ニ他府縣來援團體ノ活動ヲ開始スルニ及ビ、始メテ衛生部ニ於テ之ヲ統括シ、以テ救護上遺憾ナキヲ期セリ。今九月一日ヨリ三日間ノ應急措置及ビ其後ノ救療措置ニ就キ活動ノ經過ヲ叙述セムトス。

第一項　災變第一日ノ救療

第一　救護本部ノ設置

是日震災直後、本廳衛生部ヲ以テ救護本部ト爲シ、卽時其事務ヲ開始スルヤ、構內小使室ノ倒潰ニ因ル數名ノ負傷者ヲ醫務課ノ診斷室ニ收容シタレドモ、有樂町方面ノ火勢來リ迫ルニ及ビ、午後零時二十分ヲ以テ本部ヲ日比谷公園有樂門內ニ移シタリシガ、幾モナク震火災ノ情勢ニ鑑ミ、應急措置ヲ講ゼンガ爲ニ、救護班派遣ノ議ヲ定ムルト共ニ、折シモ來援セル警察練習所敎習生三十名ニ命ジ、丸ノ內一帶ニ於ケル死傷者ノ收容救護ニ從事セシメタリ。

第二　救護所ノ開設

本廳ガ救護所ヲ日比谷公園有樂門內ニ開設スルヤ、忽チ死傷者ヲ以テ充滿セルノミナラズ、相繼テ護送シ來ルモノナホ甚ダ多シ、是ニ於テ午後一時第二救護所ヲ同公園動物小屋ノ前面ニ開始セリト雖、更ニ同二時ニ至リ市內各方面ノ情報ヲ綜合スルニ慘害ノ大ナルコトヲ豫期以上ニ達シタレバ、諸般ノ設備モ亦之ニ應ジテ擴張スル必要ヲ感ジ、再ビ本部ヲ府立第一中學校新館內ニ移シ、其敎室ヲ收容患者ノ病室ニ充當セリ。

第三　救護本部ノ事務分掌

午後二時救護本部ヲ府立第一中學新館内ニ移轉スルヤ、小栗衛生部長ハ醫務課並ニ衛生課員ヲ以テ、救護本部ノ事務分掌ヲ定メシガ、其後事務處辨ノ都合上、衛生、醫務ノ兩課ニ分チテ之ヲ改定セリ。卽チ左ノ如シ。

救護本部診療班事務分掌

衛生部長　小栗一雄
醫務課長　技師　龜岡慶治
衛生課長　警部　三宅正

係別	分擔事務	係員
救護係	一、救護班配置ニ關スルコト 二、傷病者收容移送ニ關スルコト 三、申通報ニ關スルコト	井口技師 星川技師 加藤衛生技師 矢野警部 窪田技師 柴村警部補 千衛警部補 外山警部補 防疫監吏 防疫監吏 防疫監吏 醫務課長技師 醫務課長技師 醫務課長技師

二、庶務ニ關スルコト	日暮警部	防疫監吏 雇書記 練習生 三一二五
三、飲食物ニ關スルコト		
一、經理ニ關スルコト	兼子防疫醫	防疫監吏 雇書記 一三二
一、藥品配給ニ關スルコト	柴山警部補	衛生檢査所全員
一、自動車ニ關スルコト	武本巡査部長	巡査 二

醫務課事務分掌

醫務課長技師龜岡慶治

分擔事務	主任	係員
一、計畫ニ關スルコト	井口技師	警部補 屬 一一
一、文書ノ立案編纂ニ關スルコト 二、情報發行ニ關スルコト 三、他ノ主管ニ屬セサルコト	矢村警部	屬 防疫監 巡査 雇書記 雇 一一一一二
一、救護班ニ關スルコト	横山警部	警部補 屬 衛生技手 一一一一二
一、傳染病豫防ニ關スルコト	窪山屬	衛生技師 防疫技師 衛生技師 屬書記 屬書記 一一一二三
一、診療班ニ關スルコト	加藤衛生技師	衛生技師 防疫監吏 巡査 醫務 屬 防疫監吏 雇書記 一一一一一三
一、消毒班ニ關スルコト	井口技師	衛生技師 防疫監吏 雇書記 一四一一
一、傷病者收容ニ關スルコト	星川技師	警部補 防疫醫 巡査 一一一

一、衛生材料供給ニ關スルコト	加藤衛生技師	衛生技手	二
		防疫監吏	三
		雇	五
一、乳肉給ニ關スルコト	池上技師	技師	一
		技手	三
一、細菌檢査ニ關スルコト	大河原技師	防疫醫	四
		防疫監吏	四

第四　救護班ノ派遣

是ヨリ先救護班派遣ノ議、決スルヤ、直ニ衛生部員ヲ以テ、救護班十班ヲ編成シ、午後三時三十分其出動ヲ命ズ。一班ハ醫員一名、防疫監吏若ハ雇書記一名警察官吏一名ヲ以テ組織シ、其部署ヲ定ムルコト左ノ如シ。

班別	擔當方面	從事者
第一班	神田錦町警察署管内	佐々木防疫醫、防疫監吏一、巡査部長一、
第二班	日本橋久松警察署管内	伊澤衛生技師、防疫監吏一、巡査一、
第三班	京橋築地警察署管内	金子衛生技師、防疫監吏一、巡査一、
第四班	本所相生警察署管内	高島防疫醫、書記一、巡査一、
第五班	深川西平野警察署管内	山本衛生技手、書記、巡査部長一、
第六班	淺草象潟警察署管内	美坂衛生技手、書記一、巡査一、
第七班	麹町日比谷警察署管内	田中防疫醫、防疫監吏一、巡査一、
第八班	丸ノ内内外ビルヂング	青木衛生技手、防疫監吏一、防疫雇一、
第九班	神田外神田警察署管内	小室防疫醫、防疫監吏一、巡査一、
第十班	小石川富坂警察署管内	荒木衛生技手、書記一、巡査一、

以上各班ノ中、本所、深川方面ニ向ヘル第四、第五ノ兩班ハ猛火ノ爲ニ其通路ヲ遮ラレテ目的地ニ到達スル能ハズ、臨機隨所ニ於テ死傷者ノ收容救護ニ從事シタレドモ、他ノ各班ハ皆其任務ヲ完クセリ。就中象潟警察署管内ニ向ヘル第六班(美坂衛生技手、川手書記、永山巡査)ガ猛火ヲ冒シ、辛ウジテ淺草觀音堂ニ到着スルヤ直ニ修羅ノ衢ニアリテ傷病者ノ救護ニ從フコト三日ニ亘リ、其間不眠不休、具ニ辛苦ヲ嘗メ、六百餘名ヲ救護シタルガ如キ、又丸ノ内、内外ビルヂングノ崩壞ニ因リ、折シモ建築作業ニ從事中ナリシ大工、土工、人夫等ノ死傷甚ダ多シトノ急報ニ接シテ、特派シタル第八班(青木衛生技手、千野防疫監吏、河村雇)ガ麹町日比谷警察署管内ニ派遣セル第七班(田中防疫醫、河田防疫監吏、土井巡査)及ビ警察練習所教習生ト協力シ、餘

震頻々トシテ危險言フベカラザルノ際、附近ニ散在セル金棒、木片等ヲ使用シ、木材瓦礫ニ埋沒セル死傷者ノ發掘ニ努メ、翌二日午前十時マデニ、辛ウジテ八名ヲ引出シ、其二名ヲ蘇生セシメタル後、更ニ他ノ傷病者二十餘名ヲ救護シタルガ如キハ、共ニ特筆ニ値セリト言フベシ。

第五　救護材料ノ蒐集

日比谷公園ノ救護所ニ於テハ、開設後未ダ幾モナク、傷病者輻輳スル所トナリ、醫務課藥室備用ノ救護材料、忽チ缺乏ヲ告グルニ至リシカバ、本廳構內衞生部倉庫ヨリ之ヲ搬出セントシタルニ、猛火既ニ迫リテ近ヅクベカラズ、權田、中川、坂野ノ各防疫監吏、池田巡査、江口書記、岡本防疫雇等卽チ全身ヲ水ニ浴シ、危險ヲ冒シテ倉庫內ニ入リ、救護用大行季及ビ衞生材料ヲ搬出セシカバ、之ニ依リテ僅ニ急ヲ辨ジタレドモ、午後五時三十分頃ヨリ傷病者著シク增加スルニ及ビ、再ビ其缺乏ヲ慮リ、之ヲ陸軍省ニ要求シテ讓與ヲ仰ギ、以テ、救療上ノ支障ナカラシメンコトヲ期シタリ。

第六　傷病者ノ收容

斯クテ九月一日夕、第一中學校內傷病者收容所ノ病室ハ、既ニ狹隘ヲ感ズルニ至リタレバ、午後六時陸軍省ト交渉シ、收容患者ノ內二十三名ヲ東京衞戍病院ニ依託シタルニ、午後六時三十分頃同病院ヨリ「類燒ノ虞アリ患者移送ノ必要ヲ認ム」トノ急報ニ接スルヤ、直ニ警察官其他職員ヲ派遣シテ、依託患者ヲ麴町永田町學習院女學部燒跡ニ移送セシガ、後又之ヲ陸軍戸山學校假病院ニ收容セリ。

第七、　應援救護班ノ活動

此時ニ方リ、帝都ノ火災ハ次第ニ擴張シテ殆ンド其底止スル所ヲ知ラズ、火災ニ原因スル負傷者モ亦多數ニ上リタレバ、本部ノ獨力ヲ以テ之ニ應ズルコトノ困難ナルヲ曉リ、午後一時三十分、東京府醫師會、東京帝國大學醫學部、慶應大學醫學部、濟生會、日本赤十字社東京支部、東京府醫師會、東京市醫師會、各區醫師會各方面ニ特使ヲ急派シテ應援ヲ請求セリ。然ルニ府市醫師會事務所ハ既ニ倒潰セルヲ以テ、更ニ使者ヲ金杉市醫師會長、西鄕麴町醫師會長ノ私宅ニ發シタレドモ、猛火ノ爲ニ命ヲ果ス事能ハズ、而シテ東京帝國大學醫學部ハ火災ニ罹リ、濟生會ハ死傷者ヲ以テ滿タサレ、共ニ交渉ノ餘地ヲ有セザリシガ、獨リ慶應大學醫學部ノミハ本廳ノ要求ニ應ジ、午後四時頃、大槻、高桑ノ兩醫員及ビ看護婦三名ヲ特派シタレバ直ニ赤坂、芝

兩區方面ニ派遣シテ其救護ヲ依賴セリ。

第二項　災變第二日ノ救療

九月二日ニハ、市内各方面ニ於ケル災害情況ニ鑑ミ、又本廳警戒本部其他ノ情報ニ基キ、其必要ニ應ジテ、或ハ既ニ派遣セル救護班ノ滯在ヲ命ジ、或ハ救護班及ビ應援救護班ヲ增派スルト共ニ、警察官吏其他ノ職員ヲシテ、市内ノ形勢ヲ視察セシメ、之ニ依リテ、又適宜配置ノ方法ヲ講ジ、更ニ府立第一中學校ト交渉シテ、病床ノ增置ヲ計ル等、救護事務ノ遺憾ナキヲ期セルノミナラズ、衛生部情報ヲ發行シテ活動ノ顚末ヲ發表シ、併セテ、衛生上一般ノ注意ヲ喚起スルニ努メタリ。今項ヲ分チテ細說セントス。

第一、　收容所病室ノ擴張

既ニ狹隘ヲ感ジ、病床ノ不足ヲ告グルニ至レル事、上文ニ述ベタルガ如クナレバ、是日、同校ト交渉シテ病室ヲ擴張シ、第一號ヨリ第八號ニ至ル八室ヲ設ケ、醫員、助手並ニ東京看護婦會聯合組合ヨリ雇傭セル看護婦五十名ヲ各室ニ配置シテ、救療上ノ施設ヲ完備セリ。

第二、　姙、產婦ニ對スル處置

日比谷公園内及ビ宮城外苑ノ避難者中ニハ、多數ノ姙、產婦アルヲ以テ、救護員ヲ派遣シテ應急措置ヲ爲サシメ、ナホ收容スルノ必要アリト認ムルモノハ、之ヲ府立第一中學校内傷病者收容所ニ送致シタルノミナラズ、又特ニ姙、產婦室ヲ設ケ、產婆二名ヲ雇傭シテ、其處置ニ從事セシメタル結果、分娩セル者二十七名ニ及ビ、經過頗ル良好ナリキ。

第三、　應援救護班ノ活動

二日午前九時、傳染病研究所ヨリ高木技師及ビ木積、井上、中島、後藤ノ各醫員來援セルヲ以テ、直ニ第一中學校内ナル傷病者收容所ニ配置シタリシガ、幾モナク同所ヨリ重ネテ小島、横井、袋野、草野、櫻井、鈴木、石井ノ各醫員、午前十時ニハ東京帝國大學醫學部ヨリ江村、寺尾、原田ノ各醫員及ビ看護婦三名、正午十二時ニハ慶應大學醫學部ヨリ本郷、齋藤、前田、小野、山下、町田、三宅ノ各醫員及ビ看護婦六名來援セルニ依リ、京橋、日本橋、下谷、深川、神田、淺草、本所、芝ノ各方面ニ分遣配置セリ。

第四　屍體ニ對スル處置

九月一日以來本廳ニ於テ收容セル壓死者ノ屍體ハ十五個ニ及ビタレバ、日比谷公園内一定ノ場所ニ存置シテ、遺族等ノ搜索ニ供シ、其引取人アルモノハ、小室防疫醫ヲシテ檢案ヲ行ハシメタル後之ヲ引渡シ、引取人ナキ者ハ、東京市ニ引渡シタリ。

第三項　災變第三日ノ救療

九月三日ニモ亦前日ト同ジク、本部ノ救護班ハ應援救護班ト共ニ傷病者ノ救護ニ力ヲ傚スト共ニ、患者ノ一部ヲ、傳染病研究所ニ依託スル等、極力救護ノ徹底ヲ期シツヽアリシガ、是日未明、群馬縣救護班ノ來援アリ、之ヲ他府縣來援ノ嚆矢トナス、今項ヲ分チテ細說セントス。

第一、應援救護班ノ活動

三日午前六時、群馬縣ヨリ高木衛生課長引率ノ下ニ、縣衛生職員救護班並ニ在鄉軍人團、青年團等救護班ノ來援アリタレバ、卽時高木衛生課長班ヲ今回ノ災禍ニ最モ悲慘ヲ極メタル、本所被服廠跡附近ナル御藏橋電燈會社倉庫内ニ、他ノ一班ヲ寺島警察署管内ニ配置セシガ、當時本所、深川方面ハ物資ノ供給未ダ完カラズ、時ニ或ハ一日一回ノ食事ニ餘儀ナクセラルヽガ如キ境遇ニアリテ、非常ナル困難ト戰ヒ、同月五日、本部編成ノ救護班ヲシテ之ニ代ラシムルマデ、能ク其救護ニ從事シ、施療セルモノ二千三百餘名ニ上レリ。

第二、傷病者ノ收容

傷病者ハ、震災當日ヨリ府立第一中學校内ナル傷病者收容所ニ收容セルモノヽ外、陸軍衛戍病院ニ委託シタル事アレドモ、今又患者激增シテ、其急ニ應ジ難キノ憾アルヲ以テ、九十一名ヲ傳染病研究所ニ移セルノミナラズ、更ニ本廳ノ依賴ニ應ジ、同研究所ノ醫師八名ハ、連日收容所ニ來リテ診療ノ大部分ヲ擔任スル事トナリテ、救護上多大ノ便宜ヲ得タリ。

第四項　災變第四日以後ノ救療

災後ニ於ケル救護事務中、最モ急速且普及徹底ヲ要スルハ、傷病者ノ救療ニアリ、故ニ衛生部ニ於テモ亦之ガ爲ニ全力ヲ傾注セリト雖モ、震火災ニ因ル慘害及ビ其區域ハ豫期以上ニシテ、九月四日ニハ更ニ其善後策ヲ講ジ、各方面ノ情勢ニ應ジテ救護班ノ普及ヲ計ルト共ニ、新タニ診療班ヲ編成シテ各區ニ派遣セルノミナラズ、傷病者ノ收容ニ關シテモ既ニ設置セラレタル收容所ト、其不足ヲ補ハンガ爲ニ臨

時病院ヲ設立シ、且傳染病ノ豫防並ニ風雨ノ災害等ニ對シテハ、特別巡回診療班ヲ編成出動セシムル等、救療上遺憾ナキヲ期セリ。以下項ヲ分チテ之ヲ詳述セントス。

第一、救護班ノ增設

震火災ニ伴フ傷病者ノ續出スルヤ、衞生部ニ於テハ救護班ヲ增設シテ其普及ヲ計ルト共ニ、管內各種來援團體、及ビ各府縣應援救護班ヲ樞要ノ場所ニ配置シテ、救護事務ノ完璧ヲ期シタリシガ、後、社會ノ秩序恢復スルニ從ヒテ漸次之ヲ廢シ、代フルニ診療班ノ組織ヲ以テセルハ後述ノ如シ。斯クテ本廳及ビ來援救護班ニ於テ救護シタル人員累計實ニ八萬八千四百七十六人ニ上ル、今其配置及ビ成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

警視廳衞生部救護班配置表

救護所設置場所	開設月日	同上日數	救護人員
神田錦町警察署附近	九月一日	一	六
日本橋久松警察署附近	九月一日	一	一三
本所相生警察署附近	九月一日	一	四八
深川西平野警察署附近	九月一日	一	四八
淺草象潟警察署附近	九月一日	一	五一
小石川富坂警察署附近	九月一日	一	二四八
神田外神田警察署附近	九月一日	一	九一五
(丸ノ內)內外ビルヂング構內	九月一日	一	一九二
牛込神樂坂警察署內	九月一日	一	一、一九〇
(麴町區)府立第一中學校內	九月一日	一	一、三一二
日本橋際	九月一日	二	一九二
深川西平野警察署附近	九月二日	二	二一四
本所相生警察署附近	九月二日	一	四三
淺草觀音堂境內	九月一日	一一	二、六四三
本郷本富士警察署內	九月一日	一	三四
下谷上野公園	九月二日	一	三二
(芝區)濱離宮附近	九月三日	一	一四
(深川區)岩崎邸內	九月四日	一七	七〇一
(本所區)御藏橋際	九月四日	三	四八五
寺島町役場附近	九月四日	一	二四三

應援救護班配置表

救護所設置場所	組織者	開設月日	同上日數	救護人員
小石川富坂警察署附近	慶應大學醫學部傳染病研究所	九月三日	一	一五五 一六二
日暮里川方面	三重縣赤十字社愛知縣支部	九月五日	一〇八	七、八、一四
小岩街道	和歌山縣	九月六日	一	一、四、一八
下谷中五塔附近	京都府醫師會	九月五日	一〇四	七七四
小川町植物園	佐賀縣	九月六日	一	六七七
日暮里方面	長野縣北佐久郡醫師會	九月五日	一〇八	一、四、一八
南千住	長野縣	九月五日	一〇八	一、四、一八
小石川植物園	群馬縣	九月五日	一〇八	一、四、一八
日暮里松川	三重縣赤十字社愛知縣支部	九月五日	一〇八	七、八、一四
日暮里	京都府醫師會	九月四日	一	一、七、一八
淺草本郷本富士警察署	千葉縣	九月四日	一二九	六八八
本所	千葉縣	九月四日	一二	四、三九〇
小石川駕籠町府立第五中學校	及海軍醫務局	九月四日	一二	三、七五二
本郷	良	九月四日	一二	一、〇六二
本富士	縣	九月四日	一二	二九三
本所	千葉縣	九月四日	一二	三、七五二
本郷	奈良縣	九月四日	一二	四四八
本富士警察署	千葉縣	九月四日	一二

巣鴨方面	宮城縣赤十社支部	九月三日	一二	七三六	
（本所向島）牛島小學校內	石川縣	九月六日	八	四四四	
（本所向島）牛島小學校內	金澤醫科大學	九月六日	一二	八七二	
品川方面巡回診療	愛知醫科大學	九月十四日	一四	一、八九六	
深川洲崎消防署內	栃木縣廳	九月八日	五	五六七	
深川扇橋警察署內	千葉縣廳	九月六日	三	六九八	
（上野）東照宮附近	北海道赤十字社支部	九月八日	五	五八四	
（上野櫻木町）安德院內	北海道六市醫師會	九月八日	一一	二、一五五	
（下谷坂本）國柱會內	長野縣南佐久郡醫師會	九月八日	七	五二〇	
（上野）帝室博物館內	福岡縣赤十字社支部	九月六日	二五	三、七一六	
龜戸警察署內	福島縣（長野縣東筑摩郡醫師會） 福島縣大沼郡醫師會	九月八日	七	四八六	
警視廳品川病院內	千葉縣長生郡醫師會 秋田縣廳 新潟縣醫科大學 長野縣下伊那郡醫師會	九月七日 九月六日	二四 一三	三、三七五 二、一〇二	
駒込警察署內	松本市醫師會	九月九日	五	一、三四六	
新宿御苑內	大阪府及市醫師會 同藥劑師聯盟	九月九日	一八	二、二五四	
警視廳新宿病院	長野縣上伊那郡醫師會	九月十日	五	四四六	
千住警察署內	德島縣廳	九月十日	九	一、三三一	
京橋月島警察署內	京都府廳	九月十一日	一一	六五六	
淺草本願寺內	本願寺團	九月十日	一三	九二三	
四谷四谷警察署內	愛知縣廳	九月十二日	一三	一、八三〇	
南千住第二尋常小學校	福井縣廳	九月八日	七	一、〇三〇	
（南千住）電解工業社內	大阪工場衛生研究會 金澤醫科大學	九月十二日	一九	二、四一三	
（砂町）持寶院	北海道廳赤十字社支部	九月十二日	一五	五、九六一	
（龜戸）光明寺內	北海道廳	九月十二日	七	二、八一四	
（芝浦）日の出橋際	高知縣醫師會	九月十二日	一一	二、五八三	
下谷谷中小學校	北海道岩見澤醫師會	九月十六日	八	四九三	
（上野）東照宮內	千葉醫科大學	九月十九日	一三	二、六七〇	
田端方面	青森縣廳	九月六日	九	一、〇一〇	
四谷新宿御苑	四谷醫師會	九月二十七日	四	二九三	
（龜戸砂町）持法院	赤十字社北海道支部	九月二十七日	四	一、〇二六	
合計			四七九	七〇、六六二	
計			六三一	八八、四七六	

第二、巡回診療班ノ編成

救護班ハ之ヲ管內一般ニ配置シテ、略〻普及セシムルヲ得タレドモ、此外ナホ特

殊ノ醫務ニ從事セシムベキモノヲ必要トセルガ故ニ、新ニ巡回診療班ヲ編成シ、九月六日ヨリ同十一日ニ至ルマデ、市郡各方面ニ出動セシメテ、四百六十名ノ診療ヲ爲シタリ。其成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

巡回診療班ノ成績

巡回月日	方面	班數	診療人員
九月六日	澁谷、麻布	二	一八
八月七日	小石川、早稻田、四谷、赤坂、上野、本郷	六	九六
九月八日	麻布、品川、大塚、淀橋、巢鴨	五	二六八
九月九日	王子、南千住、北千住、板橋	四	一一
九月十日	牛込、麻布、四谷、赤坂	三	三三
九月十一日	下谷、淺草、月島、小石川、本郷	五	三四
計		二六	四六〇

第三、傷病者收容所ノ增設

本廳ノ傷病者收容所ハ、府立第一中學校內ニ於ケル一箇所アルノミ、斯ノ如キハ救護ノ實ヲ完ウスルノ所以ニアラザルヲ以テ、上野公園ナル帝國博物館、同美術協會、府立第五中學校、向島牛島小學校內等ニ之ヲ增置シ、第五中學校內ノ收容所ハ、其診療ヲ海軍省醫務局ニ委託シタリシガ、ナホ又傳染病研究所、東京帝國大學醫學部附屬病院、慈惠醫科大學附屬和泉橋病院等ニモ患者ノ收容ヲ委託セリ。卽各收容所ノ成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

傷病者收容成績

收容所名	收容人員
府立第一中學校內警視廳收容所	一、三二八
府立第五中學校內警視廳收容所	九八五
本所向島牛島小學校內警視廳收容所	七一二
上野公園美術協會內警視廳收容所	四〇三
警視廳品川病院	二八五
警視廳新宿病院	二六三
上野博物館內警視廳收容所	一九二

東京帝國大學附屬病院	二一六
傳染病研究所	一一三
和泉橋慈善病院	六二
慶應大學附屬病院	二九
赤十字社病院	二六
東京第一衞戍病院	二三
計	四、六三七

第四、診療班ノ開設

(一)診療班ノ編成及ビ其配置

是ヨリ先、傷病者ノ救療施設トシテ救護班ノ普及ニ努力セリト雖、他府縣ヨリ來援セル、救護團體引揚ノ期日ハ目前ニ迫リ、而シテ傳染病續發ノ兆亦既ニ現ルヽヲ以テ、豫メ之ニ備ヘ、防疫併ニ傷病者ノ診療上遺算ナカラシメムガ爲ニ、新ニ診療班百班ヲ編成シテ、九月十二日以降之ヲ各方面ニ配置セシガ、一班ハ醫師二名、助手一名、看護婦二名ヲ以テ組織セリ。班ノ配置ハ其最初ニ於テハ避難者ノ輻輳セル市內山ノ手方面及ビ隣接郡部ニ重キヲ置キ、且、晝間ノミ之ヲ開設シタレドモ、燒跡ニ復歸スルモノ多キヲ加フルニ及ビ、之ニ順應シテ配置ヲ變更スルト共ニ、十月一日以後ニ於テハ日本橋、神田、淺草其他各地ニ夜間診療所ヲ開設セリ。

(二)診療班ニ關スル通牒

小栗衞生部長ハ、九月十日以降各署長ニ對シテ、左記通牒ヲ發シ、診療班ト、協調連絡ヲ保チテ其目的ヲ助成センコトヲ促シタリ。

(一)診療班配置ニ關スル件(九月十日發衞號外)(麴町外二十一警察署長宛)

罹災民ノ救療ハ、各地方救護班ノ應援ニ依リ大體ニ於テ普及ヲ見ツツアルモ之等應援團體ハ長ク滯在ヲ許サヾル事情モ有之候ニ付、近ク當部ニ於テ診療班ヲ組織シ罹災民ノ診療ト併セテ傳染病患者ノ發見ニ努メシムル爲漸次各警察署管內ニ二乃至四班ヲ配置スル計畫モ有之候條豫メ診療ニ適當ナル場所ヲ選定シ置カレ度。

追テ診療班ハ醫師二名看護婦二名、助手一名ニシテ、此際民家ノ一、二室ヲ使用スルヲ得ハ差支無之尙相當料金ヲ支拂フ見込ニ候條此段申添候

(二)診療班設置ニ關スル件(九月十五日發衞醫災第八號)(郡部警察署長宛)

震災後ニ於ケル傷病者救護竝防疫ニ從事スル診療班設置候條貴署管內適當ト認ムル場所ニ

設置シ之ガ事務ニ從事セシメ萬遺算ナキヲ期セラレ度。

追テ設置場所決定ノ上ハ報告相成度。

（三）傷病者救護及傳染病豫防ニ關スル件（九月十二日發衛第二號衛生部長、警務部長）

震火災後ニ於ケル傷病者ノ救護及ビ傳染病ノ豫防ニ關シテハ盡夜兼行、多大ノ努力セラレツツアルコトトハ被存候ヘ共、今後ニ於ケル施設ニ關シテハ尙一段ノ努力ヲ要スルモノト思慮セラレ候ニ付、本日當部ニ各郡區醫師會長ノ參集ヲ求メ、之ガ施設實施上ニ關シ、夫々協議致候處、此際各醫師會員ニ於テモ貴署ト連絡ヲ保チ、出來得ル限リ助力スル筈ニ有之候條、左記各項御了知上、之ガ措置遺憾ナキヲ期セラルル樣特ニ御配慮相成度。

（イ）救護ニ關シテハ本廳救護班及各府縣應援班ニ於テ、目下極力之ニ從事中ナルモ、各府縣應援班ハ不日漸次引揚ゲ、歸途ニ就ク筈ナルヲ以テ、曩ニ及通牒置キタル通本廳ニ於テ診療班百班ヲ組織シ、必要ト認ムル場所ニ配置シ專ラ傷病者ノ診療及傳染病患者ノ發見ニ從事セシムルニ依リ各署長ニ於テハ之ガ目的ヲ達成スル樣努ムルコト。

（ロ）各開業醫師ヨリ傳染病患者ノ屆出ニ關シテハ、此際ニ限リ繁雜ナル手續キヲ省キ、可成簡易ナル方法ヲ以テ便宜ノ取扱ヲ爲シ、勉メテ患者ノ早期發見ニ努ムルコト。

（ハ）目下各病院ニ於ケル患者ノ收容力ハ、左記上樣ノ通ナルモ、必要ニ應ジ順次バラツクヲ建設シ下樣ノ通患者ヲ收容スル豫定ナルヲ以テ、患者ヲ發見次第送致スルコト。

患者收容能力

病院名	既設建物收容力	バラツク建收容力
本所病院	一四〇	五〇〇
廣尾病院	二六〇	五〇〇
大久保隔離所	二〇〇	三〇〇
傳染病研究所		三〇〇
東京帝國大學醫學部附屬醫院		二、一〇〇
計	六〇〇	

郡部各病院ニ於テハ多數患者ノ收容力アリ、但シ郡部ニ於ケル病院ニシテ收容ニ不足ヲ生ジタル場合ハ前以テ其情況ヲ報告スルコト。

（二）罹災者避難所其他ノ場所ニ對シ消毒方法ヲ施行スル必要ヲ認メ、消毒班五十班ヲ組織シ、順次各署ニ配置ノ豫定ナルヲ以テ之ガ實施ノ場合ハ巡査ヲ配屬スルコト

（三）診療班巡視員ノ設置

市郡ニ亘リテ配置セル、診療班百班ノ統一連絡ヲ圖リ、且其監督ノ方法ヲ設クル事ハ、施設ノ完全ヲ期スル上ニ於テ、最モ必要ナルガ故ニ、小栗衛生部長ハ、同部ニ診

療班巡視員ヲ特設シ、九月二十五日、左記巡視員心得ヲ制定シテ、之ヲ實施スルト共ニ、卽日各警察署長ニ通牒シ、連絡上遺憾ナキヲ期セシメタリ。

診療班巡視員心得

(a)診療班巡視員擔當事項左ノ如シ。

(イ)診療班設置ノ宣傳ニ關スルコト。

(ロ)所轄警察官署郡部醫師會及本廳以外ノ各官公衙其他ノ團體等ニ於テ設置シタル救護班診療班トノ連絡ニ關スルコト。

(ハ)診療班員ノ欠勤其他異動ニ關スルコト。

(ニ)勤務日誌竝診療簿ノ整理及成績日報ニ關スルコト。

(ホ)防疫ノ措置ニ關スルコト。

(ヘ)現在配置場所ノ適否ヲ視察シ、不適當ト認メタルトキハ所轄警察官署長ト協議ヲ遂ゲ之ガ場所變更ニ關スルコト。

(ト)診療所醫務ノ都合ニ依リ便宜巡回診療ヲ行ハシムルコト。

(チ)診療所醫務ノ繁閑ニ依リ、所轄警察官署長ト協議シ、檢疫的健康診斷ヲ行ハシムルコト。

(リ)醫療材料及消耗品ノ配給ニ關スルコト。

(D)診療班巡視員ハ毎日各擔任方面內ニ於ケル診療所ヲ巡視シ、其情況ハ醫務課長ヲ經テ衞生部長ニ報告スルコト。

但シ班員ノ異動及場所ノ變更ハ歸廳後直ニ診療班主任ニ通告スルコト。

(C)診療班巡視ノ分擔區域ハ左ノ五方面トス。

第一方面

日比谷、麴町、神樂坂、富坂、早稻田、戸塚、大塚、巢鴨、駒込、本富士。

第二方面

四谷、淀橋、中野、世田谷、澁谷、大崎、高輪、品川、大森、三田。

第三方面

愛宕、鳥居坂、六本木、青山、表町、水上、月島、久松、上野、坂本、谷中。

第四方面

七軒町、象潟、日本堤、南千住、千住、日暮里、王子、板橋。

第五方面

洲崎、西平野、相生、小松川、龜戸、向島、寺島。

(四)診療班配置ニ關スル宣傳

診療班既ニ開設セラレタリト雖、罹災傷病者ニシテ、或ハ其趣旨ヲ誤解シ、或ハ其所在ヲ知ラズシテ、診療ヲ受ケザルガ如キモノアリテハ、救護ノ意ニ副ハサルヲ以テ、診療班巡視員ヲシテ宣傳ニ努メシムルト共ニ、十月二日ニ至リ、小栗衛生部長ハ更ニ各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シ、其開設ヲ民衆ニ周知セシメン事ヲ期セリ。

診療班設置宣傳周知ノ件(十月二日衛醫第四三號)

這般診療班編成配置ニ際シテハ、部員ヲ派遣シ諸事打合ヲ爲サシメタルニ依リ夫々御努力中ノコトヽハ信ズルモ、日々各班ヨリ提出スル診療人員ヲ調査スルニ其數極メテ僅少ノ個所有之、是等ノ班ニ於テハ罹災民居住其他ノ關係種々異ナル實狀モ可有之歟ト思慮セラレ候ヘ共、若シ萬一、罹災民ニ於テ診療班配置ノ趣旨及配置ノ場所不明ノ爲之ガ診療ヲ受ケ得ザルモノアリテハ甚ダ遺憾ニ堪ヘザル所ナルヲ以テ、此際衛生組合、町會青年團其他ノ團體等ト連絡ヲ保チ普ク罹災民ニ宣傳周知ノ方法ヲ講ジ、又診療班員醫療事務ノ繁閑ニ依リ、巡回醫療ヲ爲サシムル等、多數ノ罹災民ヲシテ診療ヲ受ケシメ速ニ健康ヲ恢復セシムル樣特ニ御配慮相成度

(五)診療班ノ閉鎖及ビ其成績

斯クテ十月下旬ニ至リテハ、罹災開業醫師ニシテ其業務ヲ開始スルモノ次第ニ多キヲ加フルト共ニ、赤十字社東京支部及ビ恩賜財團濟生會、其他公私立團體等ニ於ケル醫療機關亦漸ク充實シテ、診療班ノ如キハ、今ヤ殆ンド其存在ノ必要ヲ見ザルニ至リシカバ、十一月二十六日ヲ以テ、既設百班ノ内四十九班ヲ恩賜財團濟生會ノ經營ニ移シ、尋テ十一月三十日、殘餘ノ五十一班ヲモ閉鎖シ、十二月一日以降ニ於テハ診療班ノ一部職員ヲシテ本廳臨時病院並ニ附屬外來診療所ノ診療ヲ補助セシメタリ。而シテ診療班開設以來其治療ヲ施セルモノ人員累計實ニ四十四萬七千百十名ノ多キヲ算ス、今各班ノ成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

警視廳診療班成績表

所轄警察署	班名	設置場所	開設月日	開設日數	診療人員	一日平均
麴町	六八	靖國神社	九月十六日	五〇	二、二五八	四五
同	七二	(九段坂下)牛ヶ淵公園	九月十七日	六八	二、九二七	四三
同	七四	(紀尾井町)行政裁判所構内	九月十七日	六二	一、二八七	二一

同三同愛宕田	一〇〇	芝大隈公像	九月十九日
芝(新)浦町高等工藝學町校園前	一〇〇	(新)仙島)住吉神社	九月二十五日
同月北築新堀留	三六	新日富本橋附近際	十月十二日
同月紺屋地橋場	三六	(三號地)水道課セメント試驗事務所	十月十六日
同西鄉同比谷	三八	新大形町日正公地庫内	九月二十三日
同久外神田松	三八	(濱町河岸極東自動車々庫内	九月十五日
同外神田日比谷	三八	(藏前)神田橋隣)東洋生命保險會社敷地	九月十九日
同西鄉同日比谷	三九	(麻布)日本基督教青年同盟會館	九月十九日
同基督教青年會館	四〇	基督教青年會館	九月二十五日
同古河鑛業會社	四一	古河鑛業會社	九月十七日
同內務省衛生試驗所	四二	內務省衛生試驗所	九月十四日
同三同愛宕田	四三	愛宕二	九月十四日
芝(新)浦町高等工藝學町校	四四	(新)芝浦町高等工藝學校	九月十九日
同月紺屋地橋場	四五	紺屋地橋場	九月十二日
同月北築新堀留	四六	築地	九月十四日
同月紺屋地橋場	四七	紺屋地橋場	九月十六日
同西鄉同比谷	四八	西鄉比谷	九月十八日
同久外神田松	四八	久外神田松	九月十九日
同外神田日比谷	四九	(藏前)神田日比谷)東洋生命保險會社敷地	九月十九日
同西鄉同日比谷	四九	(麻布)日本基督教青年同盟會館	九月十九日
同基督教青年會館	五〇	基督教青年會館	九月二十五日
同古河鑛業會社	五一	古河鑛業會社	九月十七日
同內務省衛生試驗所	五二	內務省衛生試驗所	九月十四日

第一節　救療施設

同富同早同神同四同青裝同六同鳥同高	五六	植傳(富久稻可)物通	九月十三日
稻樂田坂谷木居	五七	早市新鮫青山師小範學	九月十三日
坂田谷山町木坂輪	五八	牛ヶ宿特殊小學	九月十四日
同月北築新堀留	五九	築地	九月十六日
同月紺屋地橋場	六〇	紺屋地橋場	九月十七日
同月北築新堀留	六一	新日富本橋附近際	九月十八日
同月紺屋地橋場	六一	(三號地)水道課セメント試驗事務所	九月十九日
同西鄉同比谷	六二	西鄉比谷	九月二十五日
同久外神田松	六二	久外神田松	九月二十六日
同外神田日比谷	六三	(藏前)神田橋隣)東洋生命保險會社敷地	九月二十七日
同西鄉同日比谷	六三	(麻布)日本基督教青年同盟會館	九月二十七日
同基督教青年會館	六四	基督教青年會館	九月二十八日
同古河鑛業會社	六五	古河鑛業會社	九月二十九日
同內務省衛生試驗所	六六	內務省衛生試驗所	九月二十九日
同三同愛宕田	六七	愛宕二	九月二十九日
芝(新)浦町高等工藝學町校	六八	(新)芝浦町高等工藝學校	九月二十九日
同月北築新堀留	六九	築地	九月二十九日
同月紺屋地橋場	七〇	紺屋地橋場	九月二十九日
同月北築新堀留	七一	新日富本橋附近際	九月二十九日
同月紺屋地橋場	七一	(三號地)水道課セメント試驗事務所	九月二十九日
同西鄉同比谷	七二	西鄉比谷	九月二十九日
同久外神田松	七二	久外神田松	九月二十九日
同外神田日比谷	七三	(藏前)神田橋隣)東洋生命保險會社敷地	九月二十九日
同西鄉同日比谷	七三	(麻布)日本基督教青年同盟會館	九月二十九日
同基督教青年會館	七四	基督教青年會館	九月二十九日
同古河鑛業會社	七五	古河鑛業會社	九月二十九日

同谷	同坂	同上	同駒
中本	野込	土塚坂	
七九	八九	八九	八九
瑞寛	(坂根	(上	(千
	本	野	駒込
	四丁目	公園	千駄木
輪永	小	小	小
	野	目	定
	學	入	學
	德	照神	德
寺寺	校校	社	院
九月十三日	九月二十日	九月二十五日	九月十三日

同大	同本	同同	同同
富			
土塚坂			
八九	八九	八九	八九
(初	(新	(大	(眞
音	坂	塚	砂
町	町	塚	町
藥	長	醫	櫻
蒟	青	院	四
蒻	木	察	四
園	泉	神	二
魔	院	署	鶴
堂	寺	內	山
九月十九日	九月十四日	九月二十五日	九月十四日

同根	同津	同宮	同永
本	坂	塚	塚
四丁目	町	町	町
公園	小	小	小
目入	定	泉	銀
照神	德	神	山
社	寺	寺	館
九月十四日	九月十四日	九月十四日	九月十四日

同本	同上	同駒	同駒
富			
土塚坂			
八九	八九	八九	八九
(初	(大	(眞	(千
音	塚	砂	駄
町	塚	町	込
藥	醫	櫻	木
蒟	院	四	前
蒻	察	四	町
園	神	二	宗
魔	署	鶴	美
堂	內	山	美
九月十九日	九月二十五日	九月十四日	九月十三日

同根	同津	同宮	同永
本	坂	塚	塚
四丁目	町	町	町
公園	小	小	小
目入	定	泉	銀
照神	德	神	山
社	寺	寺	館
九月十四日	九月十四日	九月十四日	九月十四日

同本	同上	同駒	同駒
富			
土塚坂			
八九	八九	八九	八九
(初	(大	(眞	(千
音	塚	砂	駄
町	塚	町	込
藥	醫	櫻	木
蒟	院	四	前
蒻	察	四	町
園	神	二	宗
魔	署	鶴	美
堂	內	山	美
九月十九日	九月二十五日	九月十四日	九月十三日

同根	同津	同宮	同永
本	坂	塚	塚
四丁目	町	町	町
公園	小	小	小
目入	定	泉	銀
照神	德	神	山
社	寺	寺	館
九月十四日	九月十四日	九月十四日	九月十四日

同西	同同	同原	同太
平野	島	麻平	生
二七	二八	二八	二八
(靈	柳	牛	牛
岸	下	町	島
町	天	孫	小
岩	神	元	學
崎	社	學	學
邸	內	町	校
九月二十一日	十月十八日	九月十六日	九月二十五日

同相	同七	同南	同日
原	軒	元	本
三四	三四	三四	三四
(外	(茅	(相	(貢
手	場	貢	猿
町	町	第	警
小	小	小	小
學	學	學	學
校	校	校	校
十月十六日	十月十七日	九月二十一日	九月十五日

同同	同同	同同	同同
堤	湯	富	淺
三四	三四	三四	三四
(抱	(新	(初	(眞
方	谷	音	砂
察	土	町	町
橋	町	藥	櫻
場	電	蒟	四
署	小	蒻	四
學	學	園	二
附	校	魔	鶴
校	校	堂	山
九月十八日	九月十四日	九月十九日	九月十四日

同日	同本	同大	同本
本	堤	富	
三四	三四	三四	三四
(抱	(花	(初	(新
方	谷	音	坂
橋	町	町	町
場	電	藥	長
署	小	蒟	青
學	學	園	木
附	校	魔	泉
校	校	堂	院
九月十八日	九月十二日	九月十九日	九月十四日

同南	同元	同相	同七
元	町	原	軒
三四	三四	三四	三四
(貢	(猿	(外	(茅
砂	警	手	場
町	小	町	町
櫻	署	小	小
四	學	學	學
四	學	校	校
二	校	バ	校
鶴	附	ラ	察
山	馬	ッ	場
九月十四日	九月十八日	ク	跡

同日	同同	同同	同同
本	堤	富	淺
三四	三四	三四	三四
(抱	(花	(新	(眞
方	谷	坂	砂
橋	町	町	町
場	電	長	櫻
署	小	青	四
學	學	木	四
附	校	泉	二
校	校	院	鶴
馬	々	察	山
九月十八日	九月十四日	九月十九日	九月十四日

同日	同本	同大	同本
本	堤	富	
三四	三四	三四	三四
(抱	(花	(初	(新
方	谷	音	坂
橋	町	町	町
場	電	藥	長
署	小	蒟	青
學	學	園	木
附	校	魔	泉
校	校	堂	院
九月十八日	九月十二日	九月十九日	九月十四日

寺	同	同	千住	同	日暮里
島	同	同	同	同	同
同（阿田川町）	同	同	同	同	同
正	同	同	同	同	同
福	小塚原	千住	千住	千住	日暮里
寺	一

寺島	齋寺島	警察署	九月十五日	六四	七、二三五	一三
龜戸	吾大島	島町	九月十五日	六四	三、五四〇	五五
同	齋吾	孺町	九月二十二日	七〇	七、九〇九	一三
小松川	兇	西小松川寄席丸三亭	九月十六日	四四	三、四二〇	七七
計				五、五三〇	四四七、二一〇	八〇

（附記）診療人員累計四十四萬七千百十人

内訳
- 内科　二十六萬六千三百二十四人
- 外科　十三萬四千百七十七人
- 傳染病　三百八十六人
- 其他　四萬六千二百二十三人

第五、特別巡回診療班ノ設置

震火災後、暴風雨ノ襲來シタルハ、九月二十四日ト、十月十一日トノ夜半ナリシガ、之ニ伴フ衛生上ノ施設亦等閑ニ附スベカラザルヲ以テ、兩回共ニ、其翌日假小屋居住罹災者ノ衛生狀態ヲ視察シ、且傷病者ヲ救護スルノ目的ヲ以テ、特別巡回診療班ヲ編成セリ。一班ノ編成ハ醫師一名、助手一名ヨリ成ル、斯クテ、九月二十五日ニハ、神田・淺草・深川・日本橋・芝・本所及京橋ノ各區內ニ、十月十二日ニハ、本所、深川及淺草ノ各區內ニ各一班ヲ配置セリ。就中本所、深川方面ノ如キハ、河川氾濫ノ爲ニ罹災者ヲ收容セル假小屋ニ侵水セルモノ、床上四寸乃至一尺餘ニ及ビ、汚物ノ流出等不潔甚シキモノアリシカバ、減水ト同時ニ消毒班ヲ特派シテ其消毒ヲ行ハシメタリ。

特別巡回診療班ノ成績（九月二十五日）

配置區名	班號	取扱患者數	同上病類別 外傷	胃腸病	感冒	傳染病	其ノ他
神田	第一班	九	一	一〇	六	一	二
淺草	第二班	一四	二	五	七		
深川	第三班	一四	四	一三	四		三
日本橋	第四班	三	四	七	二		七
芝	第五班	六	四	九	五	一	三
本所	第六班	一〇	四	一五	七		八
京橋	第七班	一四	四	八	四		三
計		八〇	三三	八二	三一	二	三三

特別巡回診療班ノ成績（十月十二日）

配置區名	班號	取扱患者數	同上病類別				
			外傷	胃腸病	感冒	傳染病	其ノ他
本所	第一班	九	三	一	一		四
深川	第二班	一〇	一	七	三		二
淺草	第三班	九		四	一		二
計		二八	四	三	五		七

第六、醫師會トノ連絡

醫師會トノ連絡ニ就キテハ、震災當時既ニ其應援ヲ需メタリシノミナラズ、九月三日、更ニ北里東京府醫師會長ト協議スル所アリタレドモ、ナホ又其後ノ情況ニ鑑ミ、傳染病ノ豫防其他ニ關スル協議ノ必要ヲ感ジ、同十一日東京府、市、郡、區醫師會長、同副會長ノ參集ヲ求メ、本廳ノ提案ニ就キテ審議シ、其同意ヲ得ルニ至リシカバ、之ヲ各署長ニ通牒シテ實行ノ任ニ衝ラシメ、藥品ハ醫師會ノ希望ニ基キ、本廳ヨリ適宜之ヲ分配スル事ト爲シタリ。本廳ノ提案セル協議事項ハ左ノ如シ。

醫師會協議事項

（一）傷病者救護ニ關スル件

震火災傷病者ノ救護ニ關シテハ、本廳員ノ外去ル一日以來市內ニ於テハ東京帝國大學醫學部附屬醫員慶應義塾大學醫學部病院員ヲ初メトシ、傳染病研究所員、陸軍衛生隊、海軍々醫學校職員及東京府赤十字社支部員ト一道、二府、十六縣ニ於ケル衛生部員、府、市、郡、區醫師會員ヨリ成リ應援救護班員續々來援、目下各方面ニ於テ救護ニ從事中ナルモ、應援班員ハ不日引揚ゲ歸國ノ途ニ就ク豫定ナルニ因リ、今後ニ於ケル救護上本廳ノミニテハ尙不足ヲ告グル場合ナキニ非ズト思慮セラルヽニ依リ、必要ノ場合ニ於テハ本廳ト連絡ヲ保チ、救護上支障ナキ樣助力セラレ度、又傷病者一時救護ヲ受ケタルモノニシテ、其後貴會員各位ノ下ニ治療ヲ乞フモノ尠カラサルベク、此ノ中ニハ治療費ノ負擔ニ堪ヘザルモノ多カルベク、推察セラルヽニ付、是等不幸ノ患者ニ對シテハ無料又ハ治療料ノ輕減ヲ爲シ、治療ヲ受ケシムルコトニ配慮セラレタシ。

（二）傳染病豫防ニ關スル件

震火災ノ慘害甚シカリシヲ以テ、罹災者ハ勿論其他ノ者ト雖飲食物其他物資缺乏ノ爲、自然不攝生ニ陷リ、健康ヲ害シタル結果、傳染病流行スルヤモ測リ難キニ付、各位ニ於テ充分注意シ、患者ノ早期發見ニ努力セラレ度、又飲料及雜用ニ供スル井戸ニ對シテハ、此際一齊ニ晒粉ヲ使用シ、井水ノ消毒ヲ施行スベキ計畫ニ付、之ガ實施ニ際シ、各個人ニ於テ誤解又ハ不安ヲ抱クモノナキ樣、豫メ消毒ノ効果ヲ懇示セラレ、實施上ノ便宜ヲ與フルコトニ助力セラレタシ。

(三)衛生醫療材料供給ニ關スル件

各郡、區醫師會ニ於テハ傷病者救護所ヲ特設シ、又ハ會員各自宅ニ於テ診療スル等、專ラ之ガ診療ニ努ムルコトヽシ、之ニ要スル材料等ハ出來得ル限リ補給スルコト

衛生部長ハ此協定ニ基キテ、九月十四日、二十八日ノ兩回、各郡、區醫師會ニ對シ、藥品ノ送付ニ關スル通牒ヲ發シタリ。

(一)藥品配給ニ關スル件（大正十二年九月十四日、衛生部長ヨリ各郡、區醫師會長宛）

拜啓陳者去ル十一日御會同ノ際、醫療藥品補缺方及御協議置候處、右ハ左記ノ藥品入手致候得共、此場合多數ノ數量ハ、御要求ニ應シ難ク、差當リ小量宛ニテモ應補給度ト存候間、右御了知ノ上、御入用ノ品目御取調ノ上、御申出相成候樣致度、此段取急得貴意候敬具

追テ此際當部ヨリ御送付可申上、人夫等ノ手配都合付キ難ク候間、受取特使御差出相成度、此段申添候

記

硼酸、イヒチオール、五倍用ロートエキス散、次醋酸鉛液、パンキタール、ヘプリン、燒製マグネシヤ、次硝酸蒼鉛、デヤスターゼ、健質亞那根末、重曹單舍、グリセリン、赤酒、鹽酸モルヒネ、亞鉛華、アスピリン、サルチルサン曹達、昇汞、ヒマシ油昇汞食鹽、過酸化水素液、（エキスペクト錠、ハドノフル散ノ代用）カンブル注射液、鹽酸モルヒネ注射液、礦砂茴香精、繃帶用木綿、精製綿、繃帶、酒精、

(二)藥品頒布ニ關スル件（大正十二年九月二十八日、衛生部長ヨリ各郡、區醫師會長宛）

拜啓左記ノ醫療藥品頒布可致候條、御入用ノ品目御申出相成度、取急得貴意候

追テ數量ハ御要求ノ通、應シ兼ヌルヤモ難計候條豫メ御含置相成度、尙御請求ノ際ハ特使御差出相成度

記

イヒチオール、絆創膏、硼酸、アセトアニリート、重曹、次硝酸蒼鉛、赤酒、フォルマリン、アエナセチン、鹽酸コカイン、鹽酸ヘロイン、亞鉛華軟膏、アンチピリン、硫酸マグネシウム、ワセリン、カンブル注射液、鹽酸モルヒネ注射液、甘汞錠、ヨード丁幾、阿片散

アマンニン油紙、昇汞食鹽錠、昇汞ガーゼ、ヒマシ油、オレーブ油、精製綿、精製ガーゼ、繃帶、晒木綿、抱水テルピン、抱水クロラール、オイヒニン、ヨードカリウム、タンニン酸、ウロトロピン、ブロジウム、コーラル銀軟膏、サルチル散、鹽酸コカイン注射液、

第七　衞生材料ノ蒐集及ビ其配給

救護用衞生材料ノ蒐集ハ本廳ノ最モ苦心セル所ニシテ、九月一日以來燒殘地域ニ就キテ之ヲ搜索セリト雖モ、遂ニ充分ナル能ハズ、而カモ各救護所ニ於ケル救護人員ハ市、郡ヲ通ジテ常ニ數千名ノ多キヲ算シタルガ上ニ、一人ニ一反ノ繃帶ヲ用キルモ、猶足ラザルガ如キ重傷者モ尠ナカラズ、斯クテ外科用材料ハ益々窮乏ヲ告ゲ、纔ニ零碎ナル貯藏品ノ蒐集ト、他府縣ヨリノ輸送トニ依リテ補充セルノミ、幾モナク、負傷者ノ減少スルト共ニ、內科的疾患殊ニ胃腸病、呼吸器病等之ニ代リテ續發シ、其材料ノ蒐集モ亦容易ナラザルモノアリ。各方面ノ要求ニ對シテモ其一部分ヲ割讓スルニ過ギザルノ狀態ナリシガ、日ヲ經ルニ從ヒ、他府縣ヨリノ援助輸送漸ク潤澤トナリ、玆ニ初メテ餘裕ヲ生ズルニ至リシカバ、之ヲ各市、町、村、各郡、區醫師會其他各種團體ニ配付スルコトヲ得タリ。

第八　臨時病院及ビ外來診療所ノ設置

(一)臨時病院開設　附、外來診療所

震災直後開設セル本廳傷病者收容所ハ一般醫療施設ノ復舊ト共ニ、漸次之ヲ閉鎖シ殘餘ノ患者ハ他ノ病院ニ依託シタレドモ、時季寒冷ニ向ヘルガ爲ニ、罹災者、殊ニバラック生活者ノ中ヨリ多數患者ノ發生センコトヲ慮リ、臨時病院及ビ外來診療所各三箇所急設ノ議ヲ決シ、地ヲ北豐島郡三河島町、南葛飾郡小松川町、東京市下谷區龍泉寺町ニトシタリシガ、龍泉寺町ニ建設ノ分ハ恩賜財團濟生會ト協定シテ之ヲ同會ノ經營ニ移シタリ。斯クテ三河島及ビ小松川ノ兩臨時病院ハ、十月十六日落成シテ、翌十七日開院セリ。而シテ臨時小松川病院ハ慶應大學ヨリ平井博士ヲ、三河島病院ハ東京帝國大學ヨリ福岡博士ヲ招聘シテ院長ト爲スト共ニ、三百名分ノ病床ヲ備ヘタリ。

外來診療所ハ其北豐島郡南千住町三ノ輪ニ設置セルモノハ、臨時三河島病院附屬三ノ輪外來診療所ト稱シ、南葛飾郡龜戸町ニ設置セルモノハ、臨時小松川病院附屬龜戸外來診療所ト稱シ、共ニ十一月一日ヨリ開始セシガ、市內淺草區松清町東本願寺境內ニ建設ノ分ハ、佛眼協會ノ經營ニ係ル眼疾診療所ニ充當セシムル事トナ

シ、之ヲ同協會ニ貸與セリ。

警視廳告示第百十號（大正十二年十月十三日）

震災ニ因ル傷病者ヲ診療スル爲左記場所ニ警視廳臨時病院ヲ建設シ、來ル十月十七日ヨリ開院ス。

一、北豐島郡三河島町大字三河島字荒木田
　　警視廳臨時三河島病院

一、南葛飾郡小松川町大字逆井字龜田
　　警視廳臨時小松川病院

（二）臨時病院ノ規程及廳員ノ配置

（a）臨時病院ノ規程

湯淺總監ハ大正十二年十月十三日警視廳臨時病院規程ヲ制定セリ。卽チ左ノ如シ。

廳警視廳臨時病院規程（大正十二年十月十三日訓令甲第五十二號）

第一條　警視廳臨時病院ハ、震災ニ因ル傷病者ヲ診療スル所トス。

第二條　警視廳臨時病院ニ左ノ職員ヲ置ク。

院長、醫員、調劑員、事務員、

第三條　院長ハ、衞生部長ノ指揮監督ヲ承ケ院務ヲ處理ス。

第四條　醫員ハ、院長ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス。

第五條　調劑員ハ院長ノ指揮ヲ承ケ調劑ニ從事ス。

第六條　事務員ハ院長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ從事ス。

第七條　院長ハ例規アルモノヽ、外、事重要ニ係ルモノハ、案ヲ具シ衞生部長ノ指揮ヲ承クベシ。

第八條　警視廳臨時病院ニ、左ノ簿册ヲ備ヘ之ヲ整理スベシ。

一、入院患者名簿

二、患者診療簿

三、日誌

四、規則及諸令達編册

五、往復書類編册

六、物品出納簿

（b）職員ノ配置

臨時小松川病院及ビ三河島病院ノ職員左表ノ如シ

臨時小松川病院

職名	氏名
院長	慶應義塾大學醫學部講師 醫學博士　平井文雄
醫員	ドクトル　松井虎雄
	ドクトル　石川仁一郎
	醫學士　三谷章次
	醫學士　長岐佐武郎
	醫學士　吉田眞
	附屬龜戸診療所勤務 醫學士　橋卓郎
	小田部家貞
	岡部生駒
調劑員	佐山芳郎
	原田豊
	豊島常造
	小坂健次
事務員	附屬龜戸診療所勤務 岡田廣治
	竹岡武夫
	山田英雄
	古暮誠治郎
	倉成儀三郎
	佐藤二雄
	川崎龜太郎
臨時雇	四十六名
雜使婦	九名
小使	十一名
夜警	一名

臨時三河島病院職員表

職名	氏名
院長	東京帝國大學醫學部囑託 醫學博士　福岡五郎

醫員	醫學士	松橋紋三
	醫學士	松井清成
	醫學士	祖父口勘文
	醫學士	赤塚秀夫
	醫學士	甘美義文
	醫學士	高野勉之助
	醫學士	飯田三郎
	醫學士	戸田一二
附屬三ノ輪診療所勤務		
藥劑員	藥學士	伊藤一雄
		新倉英夫
		藤野条治
		馬場忠
		柳瀬琳哉
		栗原達三郎
		藤田寛
附屬三ノ輪診療所勤務		
		神前大器彦
		鴨原伊馬治
事務員		足立明治
		岸野隆一
		加納彌太郎
		石原泰治
		小林八重
附屬三ノ輪診療所勤務		
臨時雇		三十五名
雜使婦		十二名
小使		十二名
夜警		二名

(三)診療成績

臨時病院ハ十月十七日ヨリ診療ヲ開始シタルニ、傷病者ノ來院スルモノ多ク、病床常ニ滿員ノ狀ヲ呈シタリシガ、十月二十一日、小栗衛生部長ハ、各署長ニ左記通牒ヲ發シテ患者ノ送致ヲ促シ、傷病者ノ救療上遺憾ナキヲ期セリ。

本廳臨時病院ニ患者送致ニ關スル件（大正十二年十月二十一日　衛醫第六七號）

本月十三日告示第百十號ヲ以テ警視廳臨時病院ハ去ル十七日ヨリ開院ノ旨告示セラレ候

處、同病院ニ收容スベキ患者ハ傳染病ト普通病トヲ問ハズ、大要左記各項ニ該當スル者ヲ收容スル儀ニ有之候條、右御了知ノ上患者送院方可然御取扱相成度。

記

一、罹災者タルコト、

二、貧困ニシテ療治料ヲ支辨スル資力ナキモノ、

三、醫師ノ紹介ニ係ルモノ

臨時病院及ビ附屬診療所ハ、災後醫療機關ノナホ不備ナルノ際、罹災者救護ノ責ニ任シ、能ク其任務ヲ盡シタリシガ、經費ノ關係上、臨時小松川病院ハ大正十三年二月二十九日、臨時三河島病院ハ同年三月三十一日ヲ以テ共ニ閉鎖セリト雖、三河島病院ノ事業ハ東京府醫師會ニ於テ繼續經營スル事トナリタレバ、即日其引繼ヲ了セリ。今臨時病院ノ診療成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

臨時小松川病院診療成績表其ノ一　（自大正十二年十一月一日　至大正十三年二月二十八日）

種別	入院			退院			死亡			轉院			患者			現在		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
內科	一四三	一七七	三一六	一四三	一七七	三一六	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
齒科	六三	二六	八九	六三	二六	八九	一	一	二	一	一	二	一	一	二	一	一	二
外科	六三	一八	八〇	一、二五七	四六八	一、七二五	五九	一八	七七	三	一	三	一	一	二	一	一	二
眼科	二	六	八	二〇	五六	七六	二	六	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
產婦人科	一	三二	三三	七六七	七六七	一、五三四	三三	三三	六六	一	一	二	一	一	二	一	一	二
小兒科	三七	三六	九三	九八八	八三五	一、八三	四九	三四	八三	八	二	一〇	一	一	二	一	一	二
耳鼻科	九	九	一八	九七	六〇	一五七	九	九	一八	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二〇四	一六二	三六六	四、一四九	三、六〇〇	七、七四九	一八	一五一	三三一	三	二	三三	二	二	一	二	二	一
腸チフス	一一二	一〇〇	二一二	三、三六二	三、三六六	六、七七七	八三	一五四	二八七	二七	一五五	二七二	二	二	二	二	二	二
パラチフス	七	一	八	二〇三	四六	二四八	六	一	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一
赤痢	一九	六	二五	一九九	九四	三九三	一四	四	一八	五	二	七	一	一	一	一	一	一
其ノ他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	一三七	一〇七	二四四	三、八六三	三、五〇六	七、三六八	一〇三	六六	一七九	三四	一九	六三	一	一	二	一	一	二
合計	三四一	二六九	六一〇	八、〇一二	七、一〇六	一五、一一七	二八三	三三七	五一〇	五六	四〇	九六	二	二	四	二	二	四

備考　現在患者ハ病院閉鎖ト共ニ普通患者ヲ四谷信濃町濟生會病院ニ、傳染病患者ヲ南葛飾病院ニ移送ス

科別＼區別	小松川病院來患者									附屬龜戸診療所來患者									計								
	新來患者			延數						新來患者			延數						新來患者			延數					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
內科	三四	六六	一、〇三	六、八10	一、七10	一、五五10	三五	六七	一、〇三	四、八九	六、一三九	一一、一三	一、10九	一、三五一	二、四六一	一一、七三	一四九九	二、六五三	一、四六	一、五六	三、一二	一、六二	一、六一	三、一三	一、六四	一、六二	三、二六
外科	四八	三六	八四	三、一四九	一、七五	四、九四	四八	三三	七〇	三、六八	三、一四七	七、一三	九六六	六八	一、五六八	七、一三	四八四	二、一三一	一、五四	一、一四	三、〇九	一、一四	一、一四	三、〇九	一、一四	一、一四	三、〇九
眼科	二五	二九	五〇	一四	一、四三	二、六一	二四	二二	五四	一、六六	一、九七三	三、五五	三五	四〇	七五	二、一一〇	三、二六	五、四六	一、一一	一、一一	二、二一	一、一一	一、一一	二、二一	一、一一	一、一一	二、二一
產婦人科	—	一〇一	二〇一	—	一、八九	一、八九	—	三	三	—	四二	四二	—	二四	二四	—	一、六二	一、六一	—	一、六二	一、六一	—	一、六二	一、六一	—	一、六二	一、六一
小兒科	四〇	五六一	八四一	五、三〇	四、四〇	九、八一〇	四一〇	四〇〇	八一〇	四、三五六	四、〇四六	八、四〇二	九〇〇	五二	一、六二	九、七五六	八、四四六	一、六二三	一、六二	一、六二	三、一二	一、六二	一、六二	三、一二	一、六二	一、六二	三、一二
耳鼻科	一六二	一九九	三四〇	六七二	九〇	一、六七二	二八	三三	五一	一、一七五	一、一六五	二、三四〇	二七九	三三	六〇一	一、六七七	二、一五五	四、〇二三	一、一七五	一、一六五	二、三四〇	一、一七五	一、一六五	二、三四〇	一、一七五	一、一六五	二、三四〇
計	一、六三四	一、九九二	三、六五六	一六、六九九	一、一七三	二、九六二	一、七五五	一、七五六	三、四六一	五、八七四	六、六四三	一二、五四七	三、五五五	三、七六七	七、二七二	三、六四三	三、五五五	七、二七一	六、七四四	六、七四三	一二、五四七	六、七四四	六、七四三	一二、五四七	六、七四四	六、七四三	一二、五四七

臨時三河島病院診療成績表其ノ一（自大正十二年三月一日至十三年三月一日）

種別	入院患者																	
	入院			延數			轉院患者			歸院患者			現在		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
普通 內科	三10	二三	五三	八、六〇	六、三10	一四、四〇	二〇四	一四六	三五〇	六六	五七	一二五	六六	二四	八〇
外科	二〇	四七	一七七	二、三四九	一、一〇五	三、四四四	100	三一	二三一	六	八	一四	二四	一四	三八
眼科	二	一	三	二五		二五	一	一一五	二	一	一	二	一	一	二

臨時三河島病院診療成績表其ノ二（自大正十二年三月一日至十三年三月一日）

科別＼區別	三河島病院來患者									附屬三ノ輪診療所來患者									計								
	新來患者			延數						新來患者			延數						新來患者			延數					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
內科	一、三五五	一、一六二	四、四三	三、三三五	一、〇三一	四、〇四四	八五五	八、七一一	一、七二一	九、六三五	九四九	二、三五一	一、九四四	一、八二	三、一四四	一一、四八三	一一、三六一	二、七五四	一、一四一	一、一四一	二、二八二	一、一四一	一、一四一	二、二八二	一、一四一	一、一四一	二、二八二
外科	四五五	九九	六六	七七	一五六	一、〇五五	六六	五六八	一、〇五六	四、四〇三	二、七六八	七、一一一	一、一一七	五七七	一、八四四	五五一	一、一〇〇	三、〇四四	八、一三四								
眼科	八	六四	一四七	一六七	八二五	二六五	二八	二六五	四八	一、四一三	一、六七七	三、〇八九	三〇一	三三九	六三〇	一、五九五	一、七九九	三、三三四									

備考　現在患者ハ病院引繼ト共ニ東京府醫師會臨時病院ニ移ス

合計	病			傳染病					病		
	計	其ノ他	テヂフリヤ	赤痢	腸チフス	計	耳鼻科	小兒科
六〇〇	二五	六	一八	六	二三	四七七	—	五
四五	二七	四	一四	六	10三	二六	二	二
一、〇〇五	一六〇	10	三	二二	二六六	七四四	二	七
四六二	三九四	二六	六、八二	五四	三、六二	一、六九	一	五
二、一二五	三、九〇五	二、九五	八七	五九	三、六〇	七四四	二	八
五、九〇	七、八九	一五七	二四八	九三	七、二四一	八、三五	二、三	九二
三九	今	今	八	五	六六	一、一七	一	一
六一	今	二	七	三	一	一、一七	一	一
六五〇	二六五	五	一五五	八	二六	二、四六	一	二
二四	五〇	三	八	二	一	一	一	一
一〇四	五九	二	七	三	二七	一、一七	一	一
二八	八五	八五	二五	四	八六	二、三五	一	一
七七	三	一	二	一	二	四	一	一
四〇	五	一	一	一	一	五	一	一
一一七	二六	一	二	一	二四	101	一	六

第一節　救療施設

産婦人科	一	四三	四三	一	七三	七三	一	四八	四八	一	三九四	三九四	一	九〇	九〇	一	四六六	四六六
小兒科	三六	三七	三三	二六	四〇	六八	三三九	三三六	六七五	四、六〇七	四、五二八	九、二二五	三六五	三六三	七二八	四、六三五	四、五五八	九、一九三
耳鼻科	八四	三六	一三三	一三三	三六	一八九	二〇三	二七四	三六六	一、二九四	一、〇五八	二、三五二	二六六	二二三	四九八	一、四二七	一、二二四	二、五四一
計	三、〇〇六	一、四八三	一、四九四	三四四	二、三六七	五、七八二	三、三二二	二、〇六四	三、三八二	五八七	一九、九九二	四一、五七九	四、三八三	五〇四七	八、三二五	一〇、〇〇一	一二、三五九	四七、三六〇

第九　生乳、煉乳、粉乳ノ配給及ビ獸肉ノ供給

(一)生乳ノ配給

罹災避難者中ニハ、流動物ヲ必要トスル患者アリ、又震火災ノ刺戟ト疲勞トニ依リテ乳汁ノ分泌停止シ、幼兒ニ授乳スル能ハザル婦女子アリ、斯ノ如キ病者ト哺乳兒トノ營養ノ爲ニ、牛乳ノ配給ハ最モ必要ナリシカバ、九月三日池上技師ヲシテ各地ノ牛乳搾取所ト交渉シテ、販賣ノ途ナキ餘乳ノ寄附ヲ求メ、一日約二石ヲ各避難者集團地ニ配給セシメタリシガ、需要日ニ增加スルヲ以テ、更ニ臨時震災救護事務局、農商務省、東京市等ノ援助ヲ仰ギ、九月九日柴内技師ヲ主任トセル配給事務所ヲ、小石川區氷川下町興眞舍牛乳店内ニ設ケ、一日約十三石ヲ配給スルコトヽ爲シ、十月十九日マデ之ヲ繼續セシガ、其配給量五百四十二石、受給延人員六十萬八千八百二十二名ヲ算セリ。

牛乳配給成績

班名	配給場所(救護所)	配給量	配給延人員
第一班	帝國大學病院、谷中救護所、上野公園、上野博物館、南千住救護所	一〇二、〇〇〇	一二四、一〇〇
第二班	淺草救護所、玉姫救護所、淺草公園、和泉橋病院、淺草軍人分會	八四、〇〇〇	一〇〇、二一〇
第三班	龜澤町、猿江小學校、錦糸堀救護所、深川公園、岩崎邸、青年會館、深川蛤町、同古石場	一〇五、〇〇〇	一三五、二一一
第四班	師表協會、九段救世軍、新宿御苑、旭小學校、明治神宮外苑	九三、〇〇〇	六七、四〇〇
第五班	愛國婦人會、東京府社會課、赤十字社、芝離宮、日比谷公園、芝增上寺	八六、〇〇〇	九七、七〇〇
第六班	植物園　市衛生課	七二、〇〇〇	八四、二〇〇
計		五四二、〇〇〇	六〇八、八二二

(二)煉乳粉乳ノ配給

生乳ノ配給ニ次イデ保存並ニ取扱上、一層輕便ナル煉乳、粉乳等配給ノ必要ヲ認メ、臨時震災事務局ト交渉シ、各地ヨリノ買上及ビ寄贈ニ係レルモノヲ、左ノ範圍及ビ順序ニ依リテ之ヲ配給スル事ト爲シタリ。

(a)配給範圍

煉乳ノ配給範圍ニ關シ、震災事務局ト協議決定シタル事項左ノ如シ。

(1)自己若クハ他人ノ力ニ依リテ生活スル事能ハザル者ニシテ、左ニ該當スル者タルヲ要ス。(本項ハ區役所警察署救護所等ノ證明ニ依ルコト)

(イ)乳幼兒(母乳ニ缺ケ又ハ是ニ不足スル者及營養上之ガ給與ヲ必要ト認ムルモノ)

(ロ)傷病者老衰者又ハ虚弱者、

(2)煉乳一罐(十四オンス入)ハ凡ソ三日分量トス、

(b)配給ノ系統

配給本部警視廳衛生部
- 救護所
  - 市内支部
    - 罹災者
    - 公共團體
  - 郡部支部(各警察署)
    - 罹災者
    - 町村役場

(c)配給ノ順序

配給本部タル衛生部ニ係員五名ヲ特設シ、九月十六日以降芝浦、汐留驛、築地明石町、其他ヨリ搬入セル煉乳、粉乳ニ對シテ檢査ヲ爲シタル後、受給者ノ數ニ應ジテ警察署又ハ救護所ニ配付シ、專ラ乳兒及ビ病弱者ニ配給セシメタリ。斯クテ翌大正十三年三月末日ニ至リテ之ヲ中止セシガ、配給セル數量、煉乳九十三萬六千五百七十六個、粉乳二十萬七百九十六個、受配延人員乳兒二百二十一萬二千百七十七人、病弱者百十萬八千六百一人ヲ算セリ、今其成績ヲ示セバ左ノ如シ。

煉乳粉乳配給成績(自大正十二年九月十六日至大正十三年三月三十一日)

配給場所	配給數量 煉乳	配給數量 粉乳	配給人員 乳幼兒	配給人員 病弱者
麹町麹町警察署	一四、一六三	四、二七二	三六、八七〇	一八、四六〇
麹町日比谷警察署	三、〇四〇	二、六八八	一九、四五八	一四、七二九
神田錦町警察署	一四、三六八	四、一八	三七、九五三	一八、九六六
神田西神田警察署	二、一六二	二、〇一六	一六、三五六	一三、一七八
神田外神田警察署	八、〇〇四	二、七九二	二一、九九五	一〇、七九三
日本橋久松警察署	七、二四〇	三、三六〇	二一、五一〇	一〇、一九〇
日本橋堀留警察署	八、三九八	四、五一三	二五、八三三	一三、八九二

| | | |

| | | |

營養研究所	九、六〇〇		九、八五〇	四、二一〇	
濟生會病院	三、八四〇	三、八四〇	一七、八四六	四、一九一	
傳染病研究所	九六〇	一、四四〇	四〇	六、九六〇	
東京府社會局	五、〇四〇		五、五五〇	二、六五〇	
東京市社會局	三、四五六	九六〇	八、九三五	四、三一三	
救世軍本營	一五、六七三	三、六九〇	三九、七八五	一八、三〇二	
計	九三六、五七六	二〇、七九六	二、三三、一七七	一、一〇八、六〇二	

(3)獸肉ノ供給

震火災ノ後十數日間ハ、交通全ク杜絶シタレバ、獸肉ノ如キハ容易ニ口ニスベクモアラザリシガ、會々青島牛二百頭ヲ横濱ニ輸送セラレシカバ、九月十日ヨリ同二十三日迄大崎屠場ニ於テ屠殺シ、一般民衆ニ之ヲ供給スルヲ得タリ。

第二節　皇室ノ恩惠

傷病者ノ救療ニ關シテハ皇室ニ於テモ、イタク御軫念アリ、宮内省ハ　皇后陛下ノ思召ニ依リ巡回救療班ヲ設ケラレ、姙、産婦及ビ乳、幼兒ノ保護救療ヲ主トシ、尚一般傷病者ノ診療ニ從事シタルヲ以テ、當廳ハ九月二十日各署長ニ命ジテ之ガ宣傳周知ニ努メタリ。

當廳ニ於テ各所ニ罹災傷病者ノ收容所ヲ開設シ、東京並ニ各地方ヨリ來援セル救護團體ト協力シテ救療ニ盡瘁スルヤ、民ヲ憐マセ給フノ大御心ヲ體シ、九月三日河鰭待從ハ府立第一中學校内本廳傷病者收容所ニ、同十四日三條宮内事務官及ビ鳥居待醫ハ府立第五中學校内本廳傷病者收容所ニ來リ、詳カニ其收容ト救護トノ情況ヲ視察シテ闕下ニ伏奏シ奉レリト言フ。

九月二十九日　皇后陛下ニハ災害地御視察ノ思召ヲ以テ、日光御用邸ヨリ御上京アリ、直ニ上野公園常盤華壇燒跡ニ臨マセ給ヒ、廣漠タル下町一帶ノ變化ニ暗涙ヲ催サセラル。ヤガテ博物館正門前ニ設ケタル宮内省巡回診療班救護所ニ行啓アリ、更ニ池ノ端ナル東京市臨時救護所及ビ御徒町ナル和泉橋病院ニ行啓アリテ親シク患者ニ對シ優渥ナル令旨ヲ賜ハリシカバ、感涙ニ咽ハザルモノナカリキ。斯クテ十二月二十日ニハ、病院ニ收容セル傷病者ニ對シ、木綿衣一着宛御下賜ノ恩命ヲ拜ス、其御沙汰書ニ曰ク

一、木綿衣一着宛

右ハ目下增寒ノ折柄今回ノ大震火災ニ罹リ各所ニ收容セラルヽ患者ノ情況ヲ御深憂遊バサレ思食ヲ以テ下賜相成候事、

湯淺警視總監ハ即時各病院長ヲ召集シテ御沙汰書ノ趣旨ヲ口達シ、更ニ左ノ傳達書ヲ交附セリ。

今般　皇后陛下ニハ罹災收容患者ニ對シ、木綿着一着宛ヲ御下賜相成タリ、之目下向寒ノ砌罹災傷病者ガ着衣ノ不足ヲ憐マセ給ヒタルト、一ハ新年ニ際シ晴衣トシテ着用サセタシトノ思食ニ出テタルモノナリ。

尙今回ノ御下賜品ハ御手許金ヲ節約セラレテ御調達遊バサレタルモノニ係リ、又之ガ裁縫ニ就テモ親シク御運針遊バサレ度思食ナルモ、何分多數ノ事ナルニ依リ　陛下ノ御心ヲ體シ得ル者ニ特ニ御下命相成調製セラレタリト拜承ス、以上ノ如ク　陛下ノ難有思食ヲ充分ニ體セラレ度。

越ヘテ同二十五日午前九時、各病院ニ於テ最モ嚴肅ナル傳達式ヲ擧行セリ、御下賜品分配ノ內容ヲ示セバ左ノ如シ。

御下賜品分配調査表

病院名	性別	一ツ身	四ツ身	本裁	計
警視廳臨時小松川病院	男		一〇	四二	
	女	一〇	七	三七	一〇六
警視廳臨時三河島病院	男		一二	八六	
	女	四	七	六三	一七二
荏原病院	男		—	一三	
	女	一	—	一一	二五
豐多摩病院	男	—	二	四	
	女	—	一	一〇	一七
南足立病院	男		一	五	
	女	—	一	二	九
和泉橋病院	男		八	四七	
	女	一八	八	四九	一三〇
合計	男		二三	一九七	
	女	二三	二四	一七二	
	計		五七	三六九	四五九

ナホ此外九月二十一日ニハ、閑院宮殿下・第四中學校内收容所ニ台臨シテ傷病者ヲ御慰問アラセラレシノミナラズ、同二十四日、賀陽宮妃殿下ニハ、各宮妃殿下ヲ代表セラレテ、第五中學校内ナル收容所ニ臨マセ給ヒ、御慰問ノ思召ヲ以テ、患者一同ヘ御菓子ヲ賜ハリ、十月四日、東伏見宮妃殿下モ亦、本所・深川・淺草等慘害ノ最モ甚シカリシ地域ニ於ケル、本廳ノ傷病者收容所ヲ巡視シ給ヒ、親シク御慰問アラセラレタリ。

第三節　防疫施設

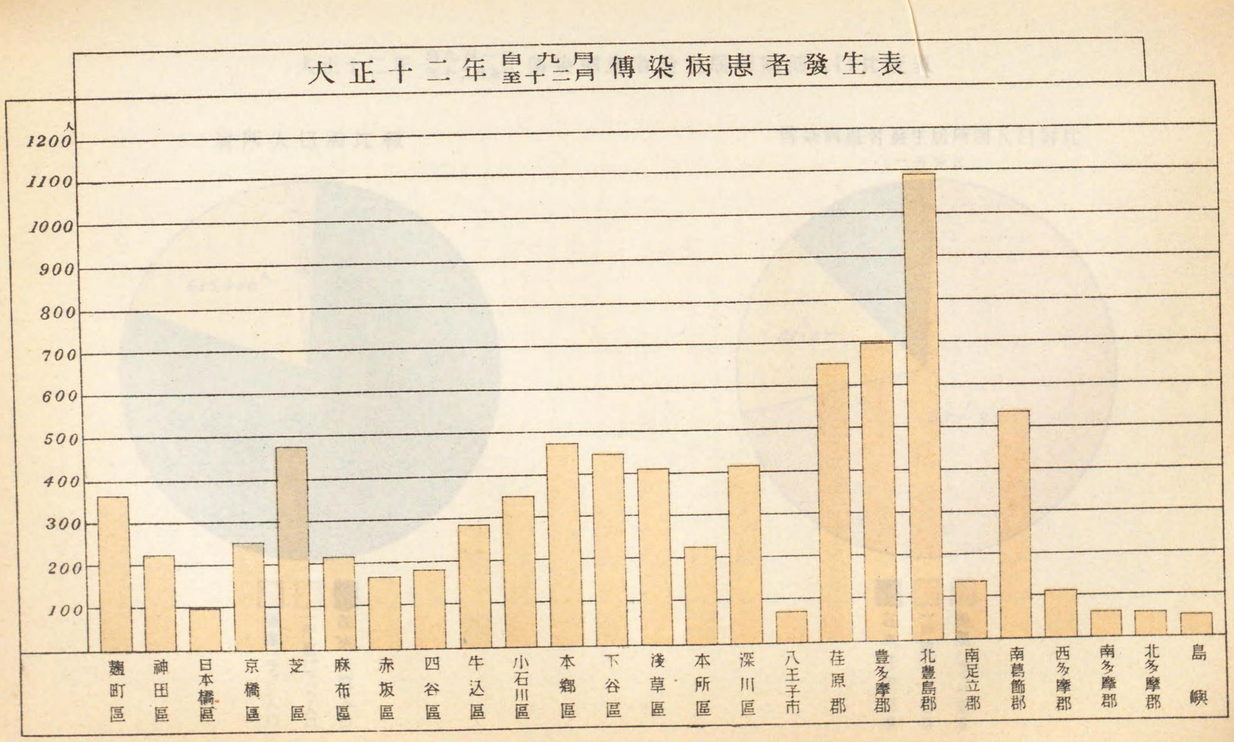
震火災ノ後、一般生活狀態ノ激變ニ因ル傳染病ノ發生ヲ豫防センガ爲ニ、九月七日巡回防疫班ヲ編成シテ、災害地ニ於ケル防疫事務ニ當ラシメ、尋テ又消毒班五十七班ヲ編成シテ之ヲ各所ニ配置シ、豫防消毒ニ努メ、更ニ檢病的調査ヲ勵行シテ、患者ノ早期發見ニ努ムルト共ニ、集團的バラツクニ對シテハ特ニ注意スル所アリキ。然ルニ、傳染病ハ災後幾モナク流行シテ、赤痢ノ猖獗ヲ見タリシガ、其漸ク衰フルニ及ビテハ、腸窒扶斯之ニ代リ、就中北豐島郡ノ如キハ、九月乃至十月ノ二ケ月間ニ於テ、既ニ七百餘名ノ患者ヲ出シ、管内總患者ノ七分ノ一ヲ占ムルノ狀態ヲ示セリ。

是等ニ對シテハ防疫措置ヲ講ズルノ外、特ニ各警察署配置ノ醫員ヲ召集シテ豫防ニ關スル事項ヲ指示スル等、災後ノ防疫上遺憾ナカラシメタリ。以下項ヲ分チテ之ヲ詳ニスベシ。

第一、震火災ノ傳染病發生ニ及ボシタル影響

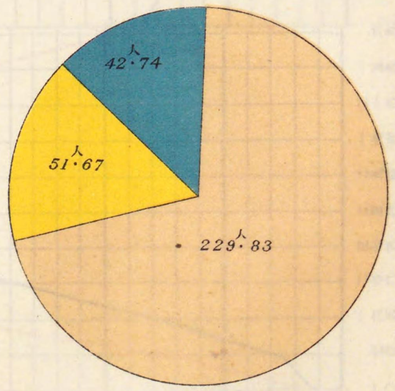
由來大災害ノ傳染病發生ニ及ボス影響著ルシキモノアルハ、歷史ノ敎フル所ニシテ、今回ノ事變亦之ヲ證明セルニ似タリ、卽チ前年度トノ對照ヲ案ズルニ、九月ニ於テハ約四百名ノ增加ヲ示シテ、千九百名ニ及ビ、十月ニ於テハ其二倍强ニ達シテ將ニ三千名ニ垂ントス、而シテ十一月以後ニ至リテモ尙常ニ倍數以上ニ上リタリ。

而シテ各種傳染病ノ發生ガ、特ニ集團バラツク生活者ニ多カリシ事モ亦一考ニ値スベシ、今傳染病ノ發生ニ關スル數種ノ統計ヲ擧ゲテ參考ニ供セントス。

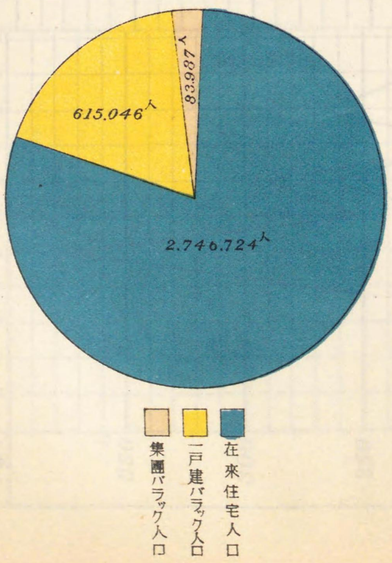

大正十二年自九月至十二月傳染病患者發生表
人
1200
1100
1000
900
800
700
600
500
400
300
200
100
麴町區
神田區
日本橋區
京橋區
芝區
麻布區
赤坂區
四谷區
牛込區
小石川區
本郷區
下谷區
淺草區
本所區
深川區
八王子市
荏原郡
豐多摩郡
北豐島郡
南足立郡
南葛飾郡
西多摩郡
南多摩郡
北多摩郡
島嶼

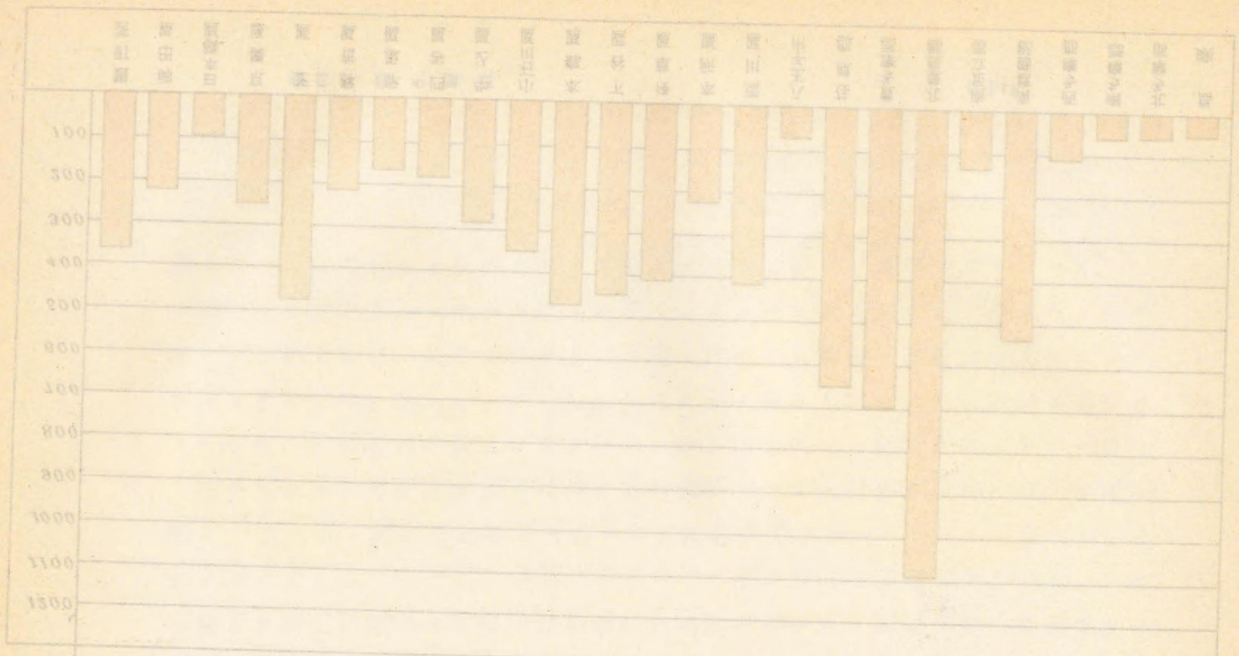
大正十二年 自九月一日至十二月末日 傳染病患者發生居所別並人口比較表

傳染病患者發生居所別人口對比
（一万分比）



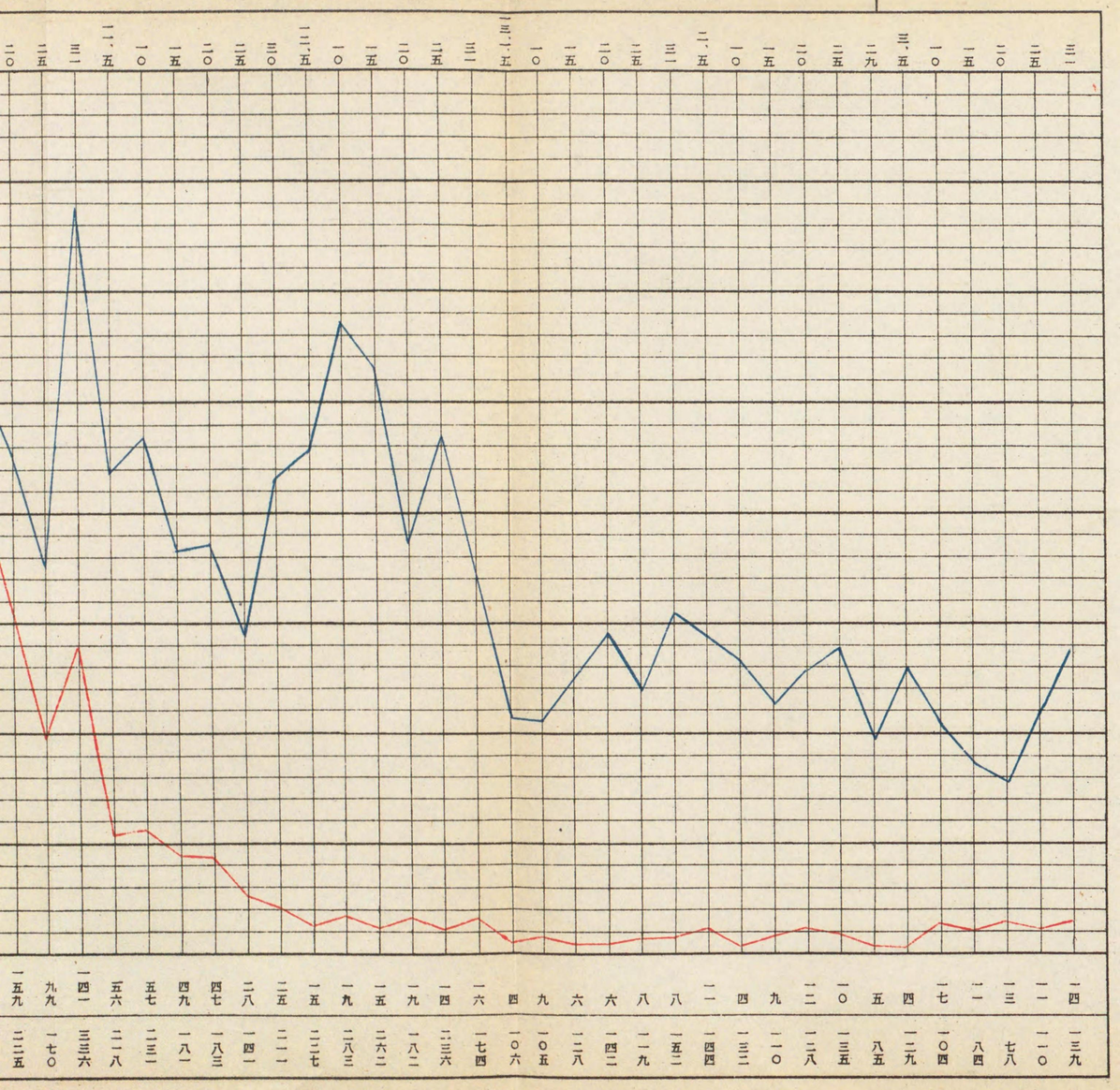
居所人口別比較



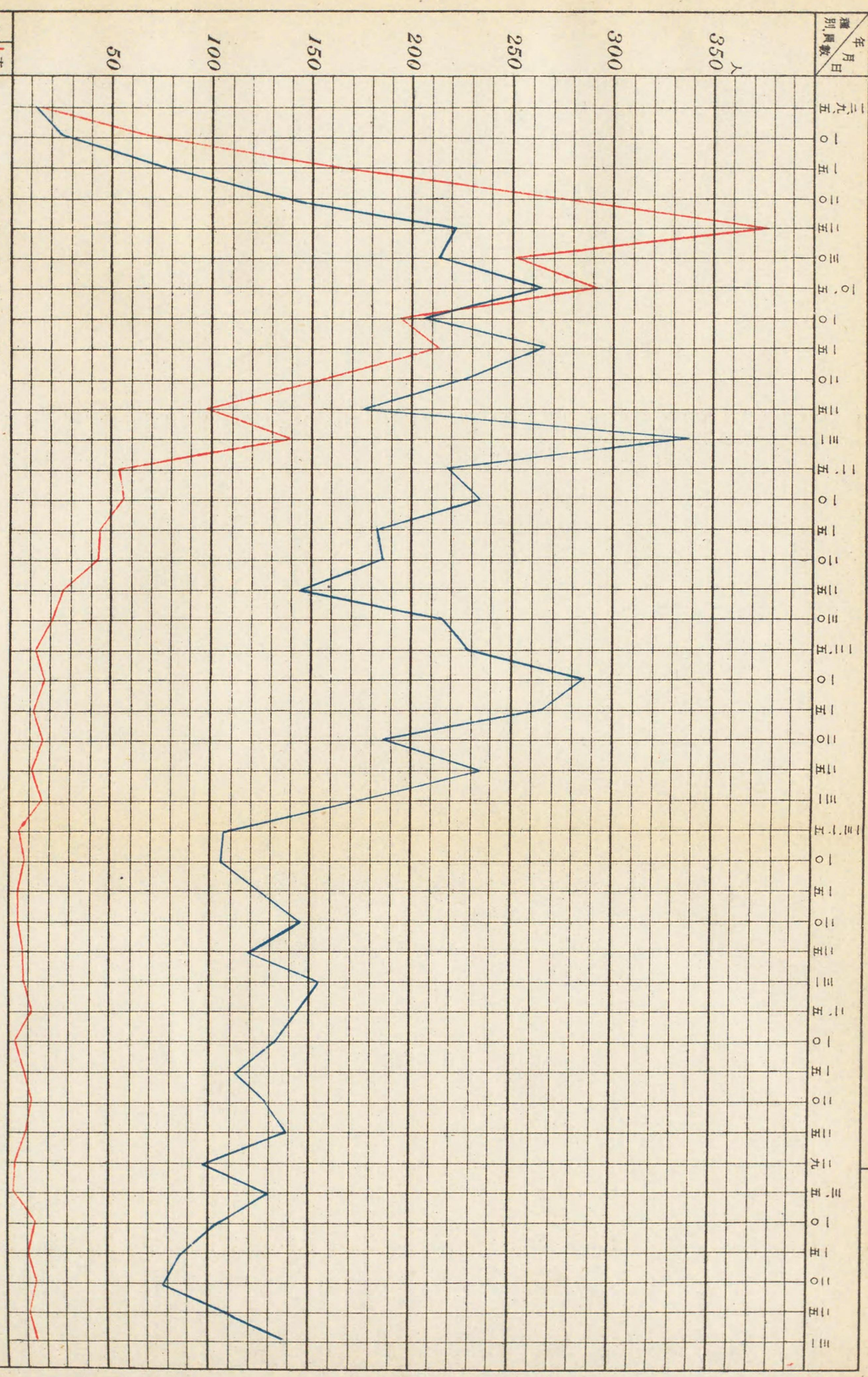


表主要傳染病發生數百分比百二十五人

震火災以來赤痢、腸窒扶斯患者發生表



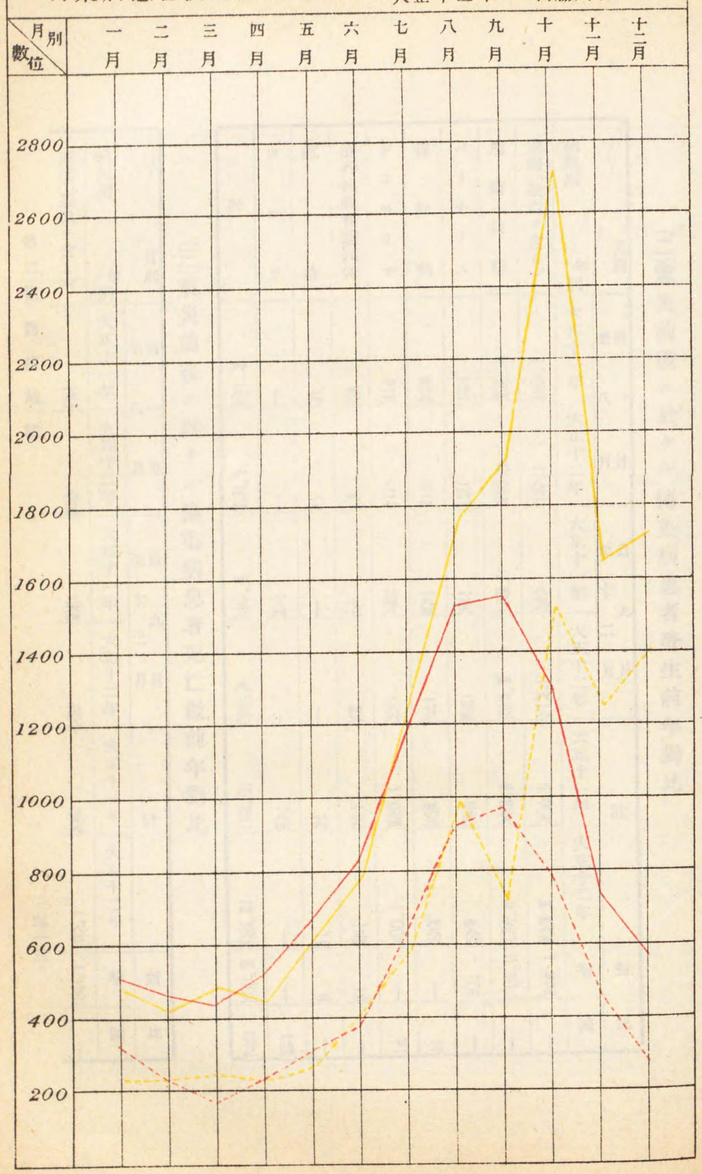
震火災以來赤痢、腸窒扶斯患者發生表



年月日 / 種別、員數	赤痢	腸窒扶斯	患者員數
二九、五、一〇	一〇	七〇	一九
二九、五、一一	一六五	一七六	二五九
二九、五、一二	三七六	三五四	三四六
二九、五、一三	二九四	二九六	二四〇
二九、五、一四	一九六	一二九	一五九
二九、五、一五	一五九	一九九	一四一
二九、五、一六	一三六	一二七	一四六
二九、五、一七	一〇二	一三六	一四九
二九、五、一八	一〇五	一三八	一四七
二九、五、一九	一〇二	一三二	一四二
二九、五、二〇	一〇〇	一八三	一八二
二九、五、二一	一〇六	一八二	一四一
二九、五、二二	一〇〇	一七四	一三七
二九、五、二三	一〇二	一六四	一三九
二九、五、二四	一〇〇	一七〇	一三一
二九、五、二五	一〇〇	一四二	一二九
二九、五、二六	一〇〇	一五四	一二一
二九、五、二七	一〇〇	一四三	一二〇
二九、五、二八	一〇〇	一二〇	一二八
二九、五、二九	一〇〇	一二五	一二〇
二九、五、三〇	一〇〇	一二四	一二〇
二九、五、三一	一〇〇	一二〇	一二〇

傳染病患者發生月別比較表

大正十一年 ——— 同腸チフス - - - - -
大正十二年 ——— 同腸チフス - - - - -



第三節　防疫施設

(三)震災前後ニ於ケル傳染病患者死亡數前年對比

病類別 ＼ 月別	至自 一月 八月		至自 九月 十二月		計		對比	
年別	大正十一年	大正十二年	大正十一年	大正十二年	大正十一年	大正十二年	增	減
赤痢(疑似ヲ含ム)	一三五	八六	二六五	二六六	三九六	三九二		一

(三)震災前後ニ於ケル傳染病患者發生前年對比

病類別 ＼ 月別	至自 一月 八月		至自 九月 十二月		計		對比	
年別	大正十一年	大正十二年	大正十一年	大正十二年	大正十一年	大正十二年	增	減
赤痢(疑似ヲ含ム)	一六三〇	一八六六	八三	二六六九	二四九三	二九六六	一七九九	—
腸窒扶斯	三〇〇六	三〇六六	四三三	四六七五	五四九九	七七四一	二三〇二	—
パラチフス	三三二	三六二	二九九	二三五	五六〇	四九六	一〇六	—
猩紅熱	三〇八	三四一	二九五	二三二	四三三	四八六	—	七
ヂフテリヤ	七六六	七七一	三六六	六六	一〇〇四	一〇〇三	—	七
流行性腦脊髓炎	九三	九一	三七	四三	二九	二四一	三五	—
痘瘡	六	九	—	—	六	九	三	—
コレラ	—	—	六四	—	六四	—	—	六四
計	六、九六	六、三四	四、三三	八、〇三〇	一〇、四三	一四、三六四	四、一〇五	三七三

病類	在來住宅居住者			一戸建假小屋居住者			集團バラック居住者			合計		
	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他
腸窒扶斯			六八三			六七七			一、三二九			一、六二四
パラチフス		三	三		三六	六六		四六	四六		八	三〇五
猩紅熱		二〇	二〇		三	二四		二五	二五			
ヂフテリヤ		二一	二一		二二八	五		二	二		八	八
流行性腦脊髓膜炎		四	四		三三	九四		三〇五	三〇五			
痘瘡		二	二		八	一七		一六	一六			
コレラ								五九	五九			
計		一、二五	一、二五		一、八四六	一、一五三		一、八七七	一、八七七		二、六八	三、六七三
市區郡名	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他	赤痢	腸チフス	其ノ他
麹町	四	三六	九	八六	一〇九	四七		一六二	一六二		一二三	一、五六一
神田	四三	二六	四	七三	六四	四九		二〇〇	二〇〇		二八	二四
日本橋	一	五	四	九	二八	三三		一四	一四		六	二五六
京橋	二	三	一	一五四	一五一	一七		二二三	二二三		七	八
芝	二九	一四五	三三	二九七	五三	五四	八	一一五	一一五	三五	三三	四七五
麻布	八八	一〇六	一八	二二三	一三	三		三	三			二一五
赤坂	五五	六四	三三	一四一	一三	六		一九	一九		二	一六五
四谷	三六	七四	三	一三三	一	二		三	三	二八	三三	一八七
牛込	二九	三三	三六	二八八								
小石川	一四二	一四八	四四	三三四	八	六		一五	一		二	三五二
本郷	一四〇	二二六	三五	四〇一	二六	三九	六	七二	四		七	四七九
下谷	四四	六六	一〇	一三〇	六四	一〇九	一三	一八五	六〇	六五	五	二二〇
淺草	四	三	二	一〇九	三八	二八	三六五	五	二〇	二		四一〇
本所	九	一六	三	二八	四二	八六	二三	一五一	二四	二五		二八
深川	七	三	二	二九	二五	三	三三五	二	一九	三八	七	六四
計	八九九	一〇七九	二四六	二、一八四	六四〇	一〇四八	一四二	一、八三〇	二六四	二八〇	三六	五八〇
八王子	三五	四〇	五	七〇								四、五九四
荏原	一〇五	四八二	四九	六三六	二	四		六				六四二
豐多摩	二〇五	四〇五	七三	六八三	一	五		六	四	一	五	六九四
北豐島	二八五	六六八	八八	一〇〇二	一〇	五三	二	六五	三	七		一〇八六
南足立	二〇	一〇三	一〇	一三三	二			二				一三五

(四)大正十二年自九月至十二月傳染病患者發生居所別並人口對比

郡部	患者數	人口	二人付口患者萬	市部	患者數	人口	二人付口患者萬	總計	計	烏嶼	北多喉	南多喉	西多喉	南葛飾
	三、二五六	一、八九二、六四一	一七・一七		二、一八四	六四四、一四〇	二五・五七	一、六六八	七九、六二六	一	八	二一	三	二五
	一、三九〇	四四、四一〇	一九・〇五		一、八三〇	四六〇、九七二	一九・四七	一、三三五	二一、一六六	四一	二九	九	九	二九
	一、三三四	一、一六四、一三五	一七・一七		二、一六四	六四四、一四〇	二五・五七	三、二五〇	三五、五四二	一〇	一三	九	四	三五
	一、一七〇	一、六四四	一七・一四		一、七四四	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一二九	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一二九	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一三三	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一
	一、一四四	一、一六四、一三五	一七・一七		一、一七〇	一、九六六	一七・一四	一、一九六	一、一九六	一	一	一	一	一

(五)自大正十一年三月傳染病患者發生月別比較

種別 ＼ 月別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
大正十一年 患者總數	五七	四六	四六	五五	六五	七九	一、一九	一、三〇	一、六〇	一、三三	七六	六二	一〇、四三一
同上 内務省扶助	三一四	二一四	二一四	二一二	二一四	三五二	六〇三	七九六	六九一	七四四	六九一	四七二	五六、四九二
大正十二年 患者總數	四六	四三	四六	四六	六六	七五	一、一九	一、六四	一、九六	二、七〇	一、六四	一、三四	一四、三六四
同上 内務省扶助	三一四	二一三七	二一七三	二一二〇	二一三五	二五〇	六三五	八六〇	六九二	一四一	六九一	四七二	七四、四七二
大正十三年 患者總數	一、一〇一	一、一四六	一、一一一										
同上 内務省扶助	七二五	七四四二	六四七二										

越患者	四四五	一、三〇〇			

第二　巡回防疫班ノ設置

震火災ノ後、管内到ル所ニ避難者ノ收容所開設セラレテ集團的生活ヲ爲スモノ俄ニ多キヲ加フルヤ、生活狀態ノ激變、衛生設備ノ不完全、其他ノ原因ニ基キテ、傳染病發生ノ虞ナキニアラザルガ故ニ、之ニ對スル防疫上ノ措置ヲ爲スト共ニ、其患者ノ收容並ニ消毒ノ施行等ヲ遺憾ナカラシメンガ爲ニ、九月七日、衛生部ニ巡回診療班五班ヲ編成セリ。一班ハ醫員一名、防疫監吏一名ヲ以テ組織シ、簡易ナル診療消毒用器ヲ携ヘテ、專ラ避難者收容所ヲ巡回セシガ、赤痢患者三十八名、腸窒扶斯患者四名ヲ發見セルナド良好ナル成績ヲ示シタレドモ、他ノ施設ノ漸次完備セラルヽニ及ビ、十月一日之ヲ廢止セリ。

第三　檢病的調査ノ勵行

病毒ノ傳播ヲ防止セントセバ、檢病的戸口調査ヲ勵行シ、患者及ビ疑似患者ノ早期發見並ニ之ニ對スル細菌學的檢査ヲ迅速ニシ、且其消毒ノ完全ヲ期セザルベカラズ、是ニ於テ本廳衛生部ガ、醫師及ビ防疫監吏其他ノ職員ヲ以テ、診療班百班ヲ編成シ、之ヲ各地ニ派遣セル事ハ、既ニ、上文ニ述ベタルガ如シ。而シテ之ト同時ニ各警察署長ニ對シテモ、傳染病ノ豫防、消毒ノ施行並ニ檢病的戸口調査ニ關シ屢々通牒ヲ發シテ之ヲ勵行セシメタリ。卽チ左ノ如シ。

（一）傳染病豫病ニ關スル件（大正十二年九月七日號外）

震火災避難者ハ勿論其他一般住民ニ於テ物資供給其他ノ關係上、自然不攝生ニ陷リ健康ヲ害スルモノ多々可有之候、此機會ニ於テ傳染病發生流行スルヤモ難計候條此際充分注意警戒ヲ加ヘ、豫防上遺策ナキ樣御措置相成度

追テ細菌學的檢査ヲ要スルモノハ此際傳染病研究所（芝白金臺町）ニ送付相成度申添候

（二）傷病者救護及傳染病豫防ニ關スル件（大正十二年九月十二日發衛醫災第二號衛生部長・警務部長通牒）

（第一項第四ニ掲載シタレハ略ス）

（三）檢病的調査施行ノ件（大正十二年九月十九日發衛災第一八號）

囊ニ及通牒置候通震火災後ニ於ケル傳染病患者ハ日々續發ノ傾向有之候ニ付之ガ豫防上患者早期發見ノ方法トシテ既ニ檢病的調査ヲ施行セラレ居ルコトヽ思料セラレ候得共、這般ノ大災害ニ次ケニ萬一傳染病流行シ慘狀ヲ來スカ如キコトアルニ至リテハ帝都復興ニ關スル大計畫ハ勿論、其ノ他各般ノ施設ニ障碍ヲ來スベキニ依リ此際極力傳染病ノ豫防ニ關スル施設ニ努力シ人心ノ安定ヲ圖リ、次テ經濟上ニ及ボス障碍ヲ除去スルノ必要ヲ認メ

ラレ候條之カ施設ニ關シテハ從來實施ノ經驗ニ鑑ミ可成迅速ニ施行シ其情況報告相成度
尙目下派遣中ニ係ル診療班ニシテ醫務ノ繁閑ニ依リ都合ノ容ス限リ必要ト認ムル地域內ニ對シ檢病的健康診斷ヲ實行セシメ其成績ハ併テ御報告相成度

第四　豫防宣傳

傳染病ノ豫防ニ關シテハ、民衆ノ注意ヲ喚起スルコト極メテ緊要ナルヲ信ジ、殊ニ、罹災後、赤痢腸窒扶斯ノ發生情況ニ鑑ミ、消化器系傳染病豫防ノ爲ニ「地震後ノ傳染病豫防」ト題スル注意書五萬枚及ビ井水ノ持續的消毒奬勵ノ爲ニ「簡易ナル井水ノ消毒法」ト題スル注意書十三萬枚ヲ印刷シテ、各方面ニ頒布セリ。

宣傳文ノ一

地震後の傳染病豫防

(一)井戸水は簡易なる消毒をして用ふるやう。

(二)成るべく生物や消化のわるいものを喰べぬやう。

(三)寢冷せぬやうキット腹卷をしてやすむやう。

(四)飲み過ぎ喰べ過ぎせぬやう。

(五)蠅をとるやう。

(六)熱が出たり下痢したらすぐ醫師の診療をうくるやう。　警視廳

宣傳文ノ二

井水の簡易な消毒法

(一)藥のこしらへ方

漂白粉十匁をビール瓶に入れ水を加へて能く振りませ堅く栓をしておくこと

(二)分量

一度ガーゼの如きもので濾せば尙よろしい

井戸水が五石位なれば漂白粉一匁(前記の方法でビール瓶に拵へたものなれば十分の一)を入れ釣瓶を動かしてまぜること

(三)効果と害

藥品を入れて三十分經てばチフス菌赤痢菌コレラ菌等すべて殺菌されますから飲んでも差し支なく然も人體に少しも害はありませぬ

(四)回數

一日二回(午前九時、午後九時)入れゝば確實です。　警視廳

ナホ、九月十五日、臨時震災救護事務局衛生醫療部ヨリ傳染病豫防ニ關スル宣傳ビラ及ビ飲料水ニ關スル注意書ノ送付ヲ受ケタルヲ以テ、即時各警察署ニ配付シテ普及ノ方法ヲ講ゼシメタリ。

宣傳文ノ三

傳染病の襲來に備へよ

一、少しでも具合の惡い者はすぐ醫者か救護班に行くこと
一、熱、下痢、嘔吐等のある者は殊に注意すること
一、腐れかかつたものを食はぬこと
一、水道の外生水を飲まぬこと
一、穢ないものは地中に埋めること

臨時震災救護事務局衛生醫療部

宣傳文ノ四

飲水ノ注意

一、惡疫豫防ノ爲飲ミ水ハ是非煮沸シナサイ
一、井戸水ハクロールデ消毒ナサイ
一、クロールハ神田區和泉町內務省東京衛生試驗所デ井戸ノ直徑ト水ノ深サニ應ジテ必要料ヲ無料デ分與シマス。
一、配給申出ハ成可ク町ノ組合青年團、在鄕軍人會分會其他ノ團體ニ御纏メヲ願ヒマス。

臨時震災救護事務局衛生醫療部

第五　防疫職員ノ配置

(一)防疫職員ノ配置

市部燒殘地域及ビ郡部ノ各警察署ハ災後俄ニ戶口ノ增加ヲ促セルト共ニ、衛生事務ノ如キモ亦自ラ繁劇ヲ加フルニ至リシカバ九月十三日警察醫及ビ防疫醫十六名ヲ高輪・表町・靑山・早稻田・大塚・駒込・相生・大平・大崎・中野・戶塚・澁谷・巢鴨・日暮里・寺島・小松川ノ十六署ニ配置シテ、之ヲ援助セシメタリト雖モ、其後傳染病患者ノ發生漸ク多キニ及ビ、更ニ其設備ヲ擴張スルノ必要ヲ感ジ、十一月一日以降防疫醫五十八

名、防疫監吏百十六名ヲ增員シテ、各警察署ニ配置ス、然レドモ、斯ク多數ノ防疫職員ヲ得ル事ノ困難ナリシガ爲ニ、前後三回ニ渉リ、短期間ノ講習ヲ開キテ之ヲ養成シ、業ヲ卒ルニ從ヒ、順次其任ニ就カシメタリ。

(二)防疫職員ノ執務事項並ニ勤務心得

(A)執務事項

(a)消毒方法施行立會及之ニ關スル指導（傳染病患者發生時ノ消毒豫防的ニ行フ井水其他ノ消毒）

(b)細菌學的檢査材料ノ採取

(c)傳染系統調査

(d)病源體保有者ニ對スル視察

(e)假小屋居住者ニ對スル衛生狀態視察（殊ニ傳染病豫防ニ關スル指定）

(f)前各項ノ外警察署長ニ於テ必要ト認ムル事項

(g)前各項ノ外特ニ防疫醫ヲシテ取扱ハシムル事項

(イ)健康診斷

(ロ)屍體檢案

(ハ)傳染病ノ疑アル患者ノ診斷

(B)勤務心得

小栗衛生部長ハ防疫職員ノ勤務心得ヲ制定シ、十一月六日左ノ通、各署長ニ通牒シ、其監督ヲ爲サシメタリ。

防疫職員勤務心得ニ關スル件（大正十二年十一月六日發衛醫災第一〇〇號）

今回貴署ニ配置セラレタル防疫職員ニ對シテハ別紙勤務心得ニ依リ勤務セシムル樣可然御取計相成度。

（別紙）

警察官配置ノ防疫職員勤務心得

(一)勤務ニ關シテハ警察官署長ノ監督ヲ受ケ一面警察官吏及警察醫ト連絡ヲ保ツコト

(二)出勤時間ハ特ニ嚴守スルコト但シ病氣其他已ムヲ得ザル事故ノ爲缺勤遲刻ヲ爲ス場合ハ定刻前必ズ電話其他便宜ノ方法ヲ以テ署長ニ申出ヅルコト

(三)民衆ニ接スルニハ凡テ言語動作ヲ愼ミ苟モ驕傲ノ行爲ナキ樣注意スルコト

(四)營業者其他民衆ニ對スル指示交渉等凡テ警察官吏ニ於テ之ガ任ニ當ルベキヲ以テ防疫職員ハ之ニ對シ說明ヲ加フルノ外直接其衝ニ當ラザルコト

(五)日誌ヲ作成シ勤務ノ情況ヲ記入シ置クコト

（六）毎日退廳前別紙様式ニ依リ勤務日報ヲ作成シ署長ノ檢閲ヲ受ケ衞生部長ニ報告スルコト

月　日勤務日報

何々警察署配置

防疫醫
防疫監吏　氏　名印

勤務事項	數	成績

記載注意事項

一、勤務事項ノ欄ニハ執務事項ノ種類ヲ記載スルコト

二、數ノ欄ニハ何ケ所何人等ト記載スルコト

三、成績ノ欄ニハ其觀察ノ大要ヲ記シ殊ニ第二回以降ハ前回ト比較シタル成績ヲ記載スルコト

(C)防疫職員監督者ノ配置

以上配置シタル防疫職員ハ概ネ事務處理ノ經驗ニ乏シキヲ以テ、警察署長ノ監督ヲ受ケシムルノ外、ナホ多年ノ同事務ニ經驗ヲ有スル醫員及ビ防疫監吏各一名宛ヲ左記六方面ニ配置シ、其指導監督ノ任ニ當ラシメタリ。

防疫職員監督者配置表

警察署名	市部郡部	監督醫員	防疫監吏
愛宕	品川		
三田	大森	一	一
高輪	蒲田		
鳥居本	大崎		
六本木	大橋		
麹町	淀橋		
日比谷	千駄ヶ谷	一	一
久留松	代々幡		
堀切	中野		
新橋	世田谷		
築地	目黒	一	一
北紺屋			
月島			
表町			
青山	澁谷		
四谷	鴨田		
錦集	高塚		
西町	戸橋		
外田	板		
神田			
神樂坂			
早稲田			
富塚			
大塚			

本駒込	王子		
上野	滝川		
坂本	尾久		
谷中	南千住		
象堤	日暮里		
日本堤	千住	一	一
相生	太平寺		
太平	原亀		
向島	向亀		
西平	西有		
扇橋	扇戸		
洲崎	洲川	一	一

第六　消毒班ノ編成

(一)消毒班ノ編成配置

本廳ハ、曩ニ、巡回防疫班ヲ設置シテ、專ラ避難者ノ收容所ヲ巡回セシメタレドモ、固ヨリ一時ノ應急手段ニ過ギズシテ不備ヲ免レザリシカバ、九月十三日ヲ以テ、更ニ消毒班五十七班ヲ編成セリ。一班ハ巡査一名、防疫監吏一名、人夫十名ニ手押車一臺ヲ附シテ組織シ、市部燒殘地域十三萬戸、隣接郡部十四萬戸ニ對シテ完全ナル消毒ヲ施行セントス、斯クテ、其消毒劑ハ井戸ニハクロール石灰、流シ場、下水、便所等ニハ石灰乳ヲ用ヒタルガ、其數量クロール石灰ハ四萬ポンド、假性石灰ハ二萬二千五百罐ヲ要シタリ。而シテ、毒班ノ活動ニ就テハ、左記通牒ヲ各署長ニ發シテ其注意ヲ促シ、併セテ民衆ノ協力ト、其諒解トヲ求メシメタリ。

消毒班編成ニ關スル件（大正十二年九月十三日　衛醫發第三號）

本月十二日附發衛醫災第二號ヲ以テ傷病者救護及傳染病豫防ニ關スル件及通牒置候處、消毒班ノ編成並作業ニ就テハ左記要項ニ依リ御取計相成度

記

消毒班編成ニ關スル件

(一)班編成

防疫監吏一名人夫十名ヲ以テ組織シ之ニ巡査一名ヲ配屬スルコト

(二)消毒區域

管内一般民屋ニ對シテ行フ但シ避難民多キ場所ニ重キヲ置キ又郡部ニシテ市郡ニ近接セザル特ニ散在的ノ村落ハ之ヲ省略スルコト

(三)消毒場所

(イ)井戸

別紙説明書ノ如キ晒粉（クロール石灰）ノ消毒ヲ行フ

(ロ)臺所流シ下水（主トシテ地先下水）便壺、塵箱、

(四)藥品

十倍石灰乳ヲ用フ大凡一戸當一升平均

(五)消毒回數

一班一日ノ施行豫定ハ六百戸トシ管内必要ナル地域ヲ區分シ、一巡(少クトモ十日以内)シタル後ハ更ニ反覆スルコト

(六)注意

(イ)井戸ノ消毒ハ消毒班ニ於テ其方法ヲ指示スベキモ其後ハ持續的施行ヲ必要トスルニ依リ町會衛生組合等ニ理解セシメテ毎日實行セシムルコト

(ロ)消毒班ノ活動ニハ成ルベク町會、衛生組合ノ役員有志ノ協力ヲ促シ殊ニ井戸消毒ノ際ニハ此際民衆ノ誤解ヲ防ゲ爲必ズ同行ヲ求ムルコト

(二)消毒班員勤務心得竝消毒班巡視員心得制定

(a)消毒班員勤務心得

小栗衛生部長ハ、九月三十日、消毒班員勤務心得ヲ制定シ、即日ヨリ實施セリ。即チ左ノ如シ。

消毒班員勤務心得

(一)民衆ニ接スルニハ言語ヲ叮嚀ニシ動作ハ靜肅ニシ驕傲ノ振舞スベカラズ

(二)毎日午前九時迄ニ所定ノ場所ニ到着シ直ニ作業ニ從事シ午後六時解散スベシ

(三)缺勤セムトスルトキハ午前九時迄ニ所屬警察署長ニ屆出ヅベシ

(四)毎日終業後勤務日報ヲ調製シ、所轄警察署長ヲ經テ衛生部長ニ報告スベシ

(五)勤務日誌ヲ備ヘ人夫ノ勤怠、作業狀況、藥品ノ使用程度等ヲ記載スベシ

(六)勤務中ハ必ズ所定ノ腕章ヲ帶ブベシ

(七)所要ノ藥品ヲ請求スルニハ前日中ニ所要數量ヲ申出置クベシ

(b)消毒班巡視員心得

九月二十三日、衛生部ニ消毒班巡視員ヲ設ケ、勤務心得ヲ制定シ、即日ヨリ各擔當方面ニ於ケル消毒班ノ活動ヲ監督セシメ消毒ノ完全ヲ期シタリ

消毒班巡視心得

(一)消毒班巡視員擔當事項左ノ如シ

(イ)消毒作業ノ適否ニ關スルコト

(ロ)備品及藥品ノ配給ニ關スルコト

(ハ)消毒作業ノ宣傳ニ關スルコト

(二)消毒班巡視員ハ毎日各擔任方面内ニ於ケル消毒班ノ場所ヲ巡視シ其情況ハ醫務課長ヲ經テ衛生部長ニ報告スルコト

(三)消毒班巡視員分擔區域ハ左ノ四方面トス

第一方面

麹町・日比谷・愛宕・三田・高輪・鳥居坂・六本木・品川・大崎・大森

第二方面

表町・青山・四谷・神樂坂・早稲田・世田谷・澁谷・淀橋・戸塚・中野

第三方面

大塚・富坂・本富士・駒込・上野・坂本・谷中・巢鴨・王子

第四方面

象潟・日本堤・相生・向島・洲崎・南千住・日暮里・千住・寺島・龜戸・小松川

(三)消毒施行ノ成績

消毒班ノ開設以來、班員及ビ巡視員ノ努力ニ依リ、成績見ルベキモノ多カリシガ、十月三十日、之ヲ縮少シ、十一月十五日、全ク之ヲ廢止セリ。此ノ間消毒ヲ實施セル戸數ノ累計ハ百八十二萬七千五百八十一戸、消毒井戸ノ累計ハ十八萬四千九百五箇所ニ及ビ、而モ一般民衆ノ之ニ對スル感想頗ル良好ニシテ、漸次進ンデ消毒ヲ希望スルモノ尠ナカラザルニ至レリ。

消毒施行成績表

警察署別	班號	累計 戸數	累計 井戸
麹町警察署	二一	三七、〇六六	二六三
日比谷警察署	三一	一、四九〇	—
錦町、西神田、外神田各警察署	二七	一七、三〇三	一九八
久松、堀留、新場橋警察署	五二	二二、五〇四	—
築地、北紺屋、月島警察署	五一	一八、八八〇	—
愛宕警察署	二二	四六、五二八	五四一
三田警察署	一	三七、九六一	九二七
高輪警察署	二	三一、一一六	一、五三九
鳥居坂警察署	三	二三、〇二一	一、二四五
六本木警察署	二三	二六、一九二	一、〇三二
表町警察署	四	二四、二九一	四五七
青山警察署	二四	二三、一三一	一、五四六

| | | |

第七　消毒指導

市隣接郡部ノ町村ニ於テ、傳染病患者發生ノ際、施行スル消毒方法ハ、設備ノ不完全ナルト、從事者ニ特殊ノ教養ヲ施セルモノ尠ナカリシト、震災後町村ノ事務多端ナリシ等ノ諸原因ニ基キ、適法ナラザルモノ多キヲ認メ、九月二十七日、品川・澁谷・淀橋・巣鴨・南千住・龜戸ノ六警察署ニ防疫監吏各一名ヲ配置シ、消毒ノ指導ト監督トニ當ラシメタリ、隣郡部ノ各署長ニ發シタル通牒ヲ擧グレバ左ノ如シ。

消毒指導ニ關スル件（大正十二年九月二十五日　發衛醫災第二七號）

各町村ニ傳染病患者發生ノ場合、之カ消毒方法ヲ指導セシムル爲、擔當區域ヲ定メ、本月二十七日ヨリ當分ノ内、防疫監吏左記ノ通配置候條主トシテ本區内ノ傳染病患者發生ノ際貴署員ト連絡ヲ保チ、消毒方法指導ニ從事セシムル樣可然御取計相成度

尙配置監吏ニ對シ、別紙勤務心得ニ依リ執務指示候ニ付御了知置相成度

配置表

配置署名	擔當區域	指導員
品川	品川、大森、大崎、	長谷川防疫監吏
澁谷	澁谷、世田谷	菊地防疫監吏
淀橋	淀橋、中野、戸塚	山田防疫監吏
巣鴨	巣鴨、板橋、王子	國分防疫監吏
南千住	南千住、日暮里、千住	井上防疫監吏
龜戸	龜戸、小松川、寺島	山脇防疫監吏

消毒指導員心得

（一）消毒指導員ハ擔當區域内ノ町村ニ發生セル傳染病ノ消毒施行ヲ指導スルコト

（二）消毒指導員ハ左ノ事項ヲ視察スルコト

（イ）消毒器具設備ノ良否

（ロ）消毒藥品貯藏ノ情況

（三）消毒指導員ハ必要ニ應シ細菌檢査材料採取其他防疫事務ニ從事スルコト

（四）消毒指導員ハ左記樣式ニ依リ勤務日報ヲ作リ配置警察署長ヲ經テ衛生部長ニ報告スルコト

（五）消毒指導員ノ勤務時間左ノ如シ

事務ニ支障ナキ場合ハ午前八時ヨリ午後五時當分ノ内日曜祭日休暇ヲ與ヘズ

勤務日誌

大正十二年九月　日　何々警察署配置消毒指導員
防疫監吏　何　某

件名	事由

消毒指導報告

大正十二年　月　日　何々警察署配置消毒指導員
防疫監吏　何　某

病名		住所	
發病月日		氏名	
決定月日		年齢	
移送月日		職業	本人
消毒月日			家計主
傳染系路			
家族及同居人ノ數並健康情況			

消毒器具ノ適否		消毒衣	
消毒藥製法ノ適否		消毒藥消費量	
消毒施行者		看護人及家人	
消毒方法	患者(屍體)	便所尿壺	
	病室		
	被服	被服類ニシテ他ニ搬出シテ消毒シタルモノ	
	家屋及家具其ノ他	塵芥	
	井戸	下水	
所感			

第八　バラック居住者ニ對スル防疫措置

(一)バラック居住者ノ衛生狀態視察

各所ニ建設セラレタルバラックハ、衛生上不備ノ點多キガ故ニ、特ニ主任者ヲ定メテ之ヲ視察セシメ、施設ノ改善ヲ要スルモノハ、經營者ト交渉シ、其他ハ居住者ニ對シテ、夫々注意ヲ加ヘタリ。殊ニ塵芥箱ノ整理、便所ノ清掃、井水ノ消毒等ハ、バラ

ツク居住者ニ於テ、毎日當番ヲ定メ、實行スル等、力メテ自衞的ニ行ハシムルコトニ指導セリ。

(二)集團バラックニ對スル消毒

集團的バラックハ急設ニ係ルガ故ニ、其構造極メテ不良ニシテ、衞生上ノ缺陷尠ナカラズ、加之居住者ノ大部分ハ、衞生思想ノ幼稚ナルモノ多キガ故ニ、努メテ其清潔ヲ期シ、且、消毒ヲモ行フ等、防疫ノ手段ヲ講ゼンガ爲ニ、十一月六日消毒班二十班編成ノ議ヲ定メ、其實施以前卽チ同十三日、小栗衞生部長ハ、豫メ、各署長ニ對シテ左記通牒ヲ發シタリ。

假小屋地域內消毒ニ關スル件（大正十二年十二月十三日　發衞醫災第一一四號）

傳染病豫防上假小屋地域內ノ井水下水塵芥箱便池等ニ對シ消毒ヲ施行スルノ必要ヲ認メ左記要項ニ依リ消毒班ヲ編成シ本月十六日ヨリ配置ノ見込ニ有之候條之ガ施行ニ關シ可然取計相成度

消毒班配置表

假小屋地域內消毒ニ關スル要項

(A)消毒班ノ編成

二十班ヲ編成ス一班ノ內容左ノ如シ

防疫監吏（又ハ防疫雇）一名

人夫（車、人夫ヲ含ム）五名

（人夫ハ地域ノ情況ニ依リ增減スルコトアルベシ）

班名	警察署名	班名	警察署名
一	麴町	一一	表町、鳥居坂、六本木
二	日比谷	一二	富坂、大塚、本富士
三	錦町、西神田、外神田	一三	上野、坂本
四	久松、堀留、新場橋	一四	同
五	築地	一五	象潟
六	北紺屋、月島	一六	日本堤、南元町、七軒町
七	愛宕	一七	向島、原庭、太平
八	同	一八	相生
九	四谷、青山	一九	西平野
一〇	千駄ケ谷	二〇	扇橋、洲崎

車一臺ヲ附ス

必要ニ依リテハ警察官ヲ配屬スルコト

(B)施行場所

主トシテ集團的假小屋地域内ニ對シ行フ

消毒班配置場所別紙ノ通(略)

(C)消毒方法

(イ)井水　クロールカルキヲ使用ス

(ロ)下水

(ハ)塵芥箱便池

主トシテクレシンヲ使用スルモ場所ニ依リテハ石灰乳ヲ使用スルコトアリ

(D)消毒藥品使用量

地域戸數約二萬戸

地域ヲ一巡スルニクレシン二十罐ヲ要ス

(二日ヲ以テ一巡スルモノトス)

一日使用量十罐

以上一ヶ月使用量三百罐ノ見込トス

附、クレシン一罐即チ一斗ヲ五十倍トシテ五石一戸五合平均トシテ千戸分使用ス

斯クテ一班ハ防疫監吏一名、巡査一名、人夫五名ヲ以テ組織シ、十一月十六日ヨリ之ガ作業ニ當ラシメ、集團的バラック八萬餘坪ニ對シ、隔日ニ消毒ヲ施行セシメタルガ、翌十三年三月三十一日迄ノ成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

消毒施行成績表(自大正十二年十一月十六日至大正十三年三月三十一日)

班號	所轄警察署名	消毒成績 戸數	井戸	便池	塵芥箱
一	麹町	七八、五二七	—	三七、二七〇	三九、六三九
二	日比谷	一〇二、二四六	—	四五、〇〇九	三一、九三五
三	錦町、西神田、外神田	八六、八〇三	二一〇	二七、九六三	五、七八八
四	久松、堀留、新場橋	六五、六四三	—	二六、一九八	一七、六六二
五	築地	三八、四三八	—	三三、八八〇	一七、四六九
六	北紺屋、月島	五〇、八三	二六九	二六、〇八〇	一二、四五四
七	愛宕	七七、六〇一	二	三三、七八〇	二六、七三八
八	同	六八、〇五四	三	三三、七八七	二八、六八一
九	四谷、青山	七四、五九九	九一〇	二九、九三七	三二、五七二
一〇	千駄ヶ谷	六二、八〇三	三八四	三〇、一二三	一九、九二五
一一	表町、鳥居坂、六本木	三六、二八二	一二四	一四、〇七一	八、五三一

一二	富坂、大塚、本富士	七三、四二六	三	三〇、六四七	三四、七九二	六八、四一七	七七、三五四	一四	同
一三	上野、坂本	六八、四一七	三	三九、六七四	二七、九五一	三三、九二二	三五、二三九	六	
一四	同	七七、三五四	六	三二、二三九	三三、九二二	三五、一三四	三五、〇六	二六九	一五
一五	象潟	七七、八二三	二六九	三二、〇六	二五、一三四	二、七五〇	三二、八五九	一	一六
一六	日本堤、南元町、七軒町	八六、二四七	一	三二、八五九	二、七五〇	二七、〇三三	二五、三三四	一四	一七
一七	太平、原庭、向島	八四、一〇〇	一四	二五、三三四	二七、〇三三	六、四一三	三七、一九三	一四六	一八
一八	相生	七二、八〇八	一四六	三七、一九三	六、四一三	二三、五三四	二四、四六四	二六	一九
一九	西平野	六〇、六二二	一六	二四、四六四	二三、五三四	三三、三三〇	五〇		二〇
二〇	扇橋、洲崎	八三、一二三	五〇	三三、三三〇	三三、五三五	二、九二〇	一七、五七五	一、四四一、二六二	特別班
特別班	馬場先一圓	一七、五七五		二、九二〇	一五、七二二	四五〇、一九〇	六二七、二二二	二、四四〇	累計

(三)集團バラツク居住者ノ建康診斷

集團バラツクノ消毒ヲ續行スル傍、其居住者ニ對シテハ、十一月二十六日ヨリ各所屬警察署ヲシテ健康診斷ヲ行ハシメ、患者ノ發見竝豫防消毒上遺憾ナカラシメタリ。

集團バラツク居住者健康診斷施行ノ件（大正十二年十一月二十六日　發衛醫第一三六號）

貴管内集團的バラツク居住者ニ對シ健康診斷施行ノ上其結果當分ノ内別紙樣式ニ依リ御報告相成度

（第一表）

集團的バラツク居住者健康診斷施行報告

月　日　　警察署

場所	居住人員	健康診斷施行人員	發見患者				
			普通病	傳染病（疑ヲ含ム）	妊婦	乳兒	幼兒

一、乳兒ハ生後一年未滿、幼兒ハ一年以上五年迄

二、本表ノ發見患者ハ第二表中ニ洩レナク記載ノコト

第二表

集團的バラツク居住者患者報告

月　日　　警察署

病名	發病月日	治療方法	住所	氏名	年齡

一、本報告ハ毎日之ヲ施行シ翌旬第一日中ニ衛生部ニ提出スルコト
二、パラツク毎ニ區別シ記載スルコト
三、治療方法ハ何々診斷所ニ於テ、何々病院入院開業醫ニ於テ等記載スルコト
四、本調査ハ主トシテ今回配置ノ防疫職員ヲシテ之ニ當ラシムルコト

第九　北豐島郡ニ於ケル豫防施設

管内北豐島郡ハ傳染病患者續發ノ傾向ヲ有シ、災後僅カニ二ケ月有餘ノ間ニ警視廳管内發生數ノ七分ノ一ヲ占ムル狀ヲ示シタリ、惟レ種々ノ原因ニ基ケルモノナルベシト雖、井戸ノ構造ノ不完全ナル事ガ其主因タルヲ以テ、十二月一日以後、特ニ同郡内流行地域ノ井戸ヲ消毒スルコトヽ爲シ、特別井水消毒班九班ヲ編成セリ。一班ハ防疫監吏一名、警察官吏一名、人夫二名、及ビ手押車一臺ヲ附シテ之ヲ組織シ、井戸總數一萬五千五百八十五個ニ對シテ數回ノ消毒ヲ實施シ、累計飲用井戸四萬三千六十三、雜用井戸三千三百八個所ニ及ベリ。右實施ニ當リ、十一月二十五日小栗衛生部長ヨリ關係警察署長ニ對シ、左記通牒ヲ發シタリ。

井水消毒ニ關スル件（大正十二年十一月二十五日　衛醫發第一三五號）

震災後ニ於ケル傳染病豫防ニ關シテハ鋭意努力セラレ居ルコト、信ジ候ヘ共貴管内ニ於ケル傳染病患者ノ發生數著シク增加ノ傾向ヲ示シ特ニ豫防警戒ノ必要ヲ認メ候ニ就テハ左記要項ニ基キ井水消毒班ヲ編成シ左記ノ通配置候條警察官吏ヲ配屬セシメ實施上遺算ナキヲ期セラレ度

左記（抄錄）

井戸消毒ニ關スル要項

（一）消毒ヲ必要トスル井戸ノ個數

巢鴨警察署管内	六、一六九
高田分署管内	二、五二二
瀧野川分署管内	一、八二四
尾久分署管内	三三二
南千住警察署管内	一、〇四一（内五〇〇ハ三河島）
日暮里分署管内	一、一八二
王子警察署管内（王子町）	一、五四九
板橋警察署管内（板橋町）	九六六
計	一五、五八五

（二）井水消毒班ノ編成

井水消毒班九班ヲ編成ス之ガ一般ノ内容左ノ如シ

防疫監吏　一名

警察官吏　一名
人夫　二名
（手車一臺ヲ附ス）

（三）井水消毒班ノ配置

巣鴨警察署管内　四班
高田分署管内　二班
滝野川、尾久分署管内　一班
南千住警察署日暮里分署管内　一班
玉子、板橋警察署管内　一班

（四）消毒施行順序

各班ハクロールカルキ原液二百戸分ヲ一日ノ施行量トシテ車一臺ニ積載シ各戸ニ配付ス
原液ヲ配付スル容器（ビール瓶）ハ各戸ニ於テ提供セシムルコト
各班ハ受持區域ヲ凡ソ十日間ヲ以テ一巡スルコト

右施設ハ、大正十三年二月二十八日ヲ以テ終了ヲ告ゲタリシガ、其成績ヲ擧グレバ左ノ如シ。

井戸消毒施行成績表（自大正十二年十二月一日　至大正十三年二月二十八日）

班號	所轄警察署	消毒成績 飲用	消毒成績 雜用
一	巣鴨警察署	四、三五七	四一
二	同	四、四七八	一九
三	同	四、六二八	二四
四	同	五、二九三	九三
五	高田分署	四、五〇一	一七七
六	同	四、五五四	一一三
七	滝野川・尾久分署	七、一九〇	二一二
八	南千住警察署日暮里分署	二、三五一	二、五八〇
九	玉子、板橋警察署	五、七一一	四九
累計		四三、〇六三	三、三〇八

第十　消毒藥ノ配布

災後ニ於ケル傳染病ヲ撲滅スル一助トシテ、十月十一日各警察署ニ消毒藥クレシン一萬七千二百個及ビデシン二萬個ヲ分與シ、之ヲ各種團體其他適當ト認ムル

モノニ配布セシメ、以テ防疫上有効ニ使用セシメタリ。

第十一　傳染病院ノ新設並ニ增築

傳染病患者ノ發生情況ハ、前述ノ如ク、頗ル憂慮スベキ狀態ニ在リ、加フルニ其收容場所タル、東京市本所病院ヲ始メ、私立病院、傳染病室二十三個所ノ燒失セルガ爲ニ、傳染病院ノ新設增築ハ當時ノ要務タリシカハ、郡當局ヲ督シテ、廣尾病院、大久保隔離所及ビ豐島病院ヲ增築セシメタリ。其他帝國大學構內ニ假病舍ヲ建築シテ、患者ノ補充ヲ圖リシノミナラズ、協調會傳染病院ノ私設等ニ依リ、漸ク病床ノ收容餘力ヲ有スルニ至レリ。

各傳染病院病床數調

病院名	所在地	既設病床數	臨時病床數	新設	既設病院增加病床數	計
東京市駒込病院	本郷區駒込動坂町	三二〇	—	—	—	三二〇
東京市大久保病院	豐多摩郡大久保町東大久保	七〇	—	—	二八〇	三五〇
東京市廣尾病院	豐多摩郡澁谷町廣尾	一三〇	—	—	三〇〇	四三〇
世田ヶ谷病院	荏原郡世田ヶ谷町	五〇	—	—	—	五〇
豐多摩病院	豐多摩郡淀橋町柏木	一〇〇	—	—	—	一〇〇
豐島病院	〃豐島郡板橋町	一七〇	—	—	二〇〇	三七〇
南葛飾病院	南葛飾郡小松川町西小松川	五〇	—	—	—	五〇
南足立病院	南足立郡千住町五丁目	四四	—	—	一八六	二三〇
帝大附屬病院	本郷區本富士町	四〇	—	—	—	四〇
傳染病研究所	芝區白金臺町	一〇〇	—	—	—	一〇〇
赤十字社病院	豐多摩郡澁谷町下澁谷	五〇	—	—	—	五〇
慶大附屬病院	四谷區西信濃町	—	—	—	—	—
警視廳三河島病院	北豐島郡三河島町三河島	—	三〇〇	三〇〇	—	三〇〇
警視廳小松川病院	南葛飾郡小松川町逆井	一、一七四	六〇〇	九六六	—	二、七四〇
計						

第四節　保健衛生施設

第一　屍體ノ處分

九月一日、震災ノ爲ニ壓死セルモノ多ク、未ダ其收容ヲ爲スニ遑ナキニ、更ニ延燒三日ニ亘ルノ大火災ニ遭遇シ、之ガ爲ニ、燒溺死ヲ遂ゲタルモノ亦尠カラズ、而モ概シテ一家離散ノ結果、其引取人ナク、就中、燒死者ノ如キニ至リテハ、其何人ナルカヲモ識別シ能ハザルモノアリ、加フルニ殘暑ナホ强ク、糜爛腐敗ノ虞アルヲ以テ、速ニ其處分ヲ講ズベキハ保健衛生上ノ急務タルト共ニ、人道上一日モ忽ニス可カザル重大問題タリ。是ニ於テ本廳衛生部ハ同二日ヲ以テ市當局ト協議シ、其協同監督ノ下ニ、市ノ雇傭セル人夫ヲ使役シテ之ヲ實施シ、溺死者ノ收容、壓死者ノ發掘、火葬場ノ增設等ニ從ヒ、遂ニ其作業ヲ完了スルヲ得タリ。今項ヲ分チテ之ヲ細說セントス。

(一)屍體處分ノ方針

九月二日午前十時、小栗衛生部長ハ東京市當局者ヲ招キ、鎭火後速カニ着手スベキ緊急事業ノ一ナル、屍體收容處置ニ關シテ協議スル所アリ、其引受人ナキモノハ、左ノ方針ニ從ヒ、市ニ於テ收容及ビ火葬ヲ實行スベキニ決定セシカバ、翌三日之ヲ各署長ニ通牒セリ。

(A)東京市ハ引取人ナキ屍體收容ノ爲ニ所要人夫ヲ派出シテ急速收容作業ヲ實行スルコト

(B)各區ニ屍體收容所ヲ設ケ且搜索者ノ便ニ供スル爲二日間之ヲ存置スルコト

(C)屍體收容ノ際ハ左ノ方法ヲ講スルコト

(イ)屍體ノ腕ニ發見場所ヲ記シタル布ヲ附スルコト

(ロ)特徵ヲ記シ置クコト

(ハ)着衣携帶品及ビ毛髮ヲ保存シ置クコト

(ニ)出來得ヘクハ寫眞ヲ撮影シ置クコト

(D)臨時私設火葬場ヲ臺場及深川區平久町地先埋立地ニ設ケ尙不足ノ場合ハ所轄警察署ト協議ノ上警視廳ノ許諾ヲ得市有地ニ增設ノコト

(E)收容作業ニハ警察官ノ立會ヲ求ムルコト

本廳ハ又火災ニ因ル燒死者及ビ溺死者ガ多數ニ上レル實狀ニ鑑ミ、火葬場ノ不足ヲ慮リ、臨機處分ノ必要ヲ認メ、火葬爐ノ晝夜使用ハ勿論、適當ノ場所ヲ擇ミテ之ヲ增設スベキ事ニ關シテ、郡部各署長ニ左ノ通牒ヲ發シタリ

屍體火葬ニ關スル件（大正十二年九月二日外號）

今次ノ變災ニ際シ臨機屍體火葬方左記ノ通御取扱相成度

（一）從來許可ノ火葬場ニ於ケル火葬爐ヲ晝夜使用セシムルコト

（二）右ニテ不足ノ場合ハ同火葬場敷地內ニテ便宜燒却セシムルコト

（三）尙不足ノ場合ニシテ急速火葬ノ必要アル時ハ衛生上公安上支障ナシト認ムル場所ニ限リ臨機處置スルノ外ナキコト

（二）屍體ノ收容ト火葬場ノ增設

東京市ハ、本廳トノ協定ニ基キ、卽日ヨリ、屍體ノ收容ニ着手スルト共ニ、燒却燃料タル松薪二萬三千把ヲ準備シテ火葬ヲ行ヒシガ、九月五日ニハ芝浦・淺草區田中町・深川區大工町・同區洲崎埋立地・本所區堅川橋・本所區陸軍被服廠跡、ニ同六日ニハ淺草區待乳山・淺草區役所燒跡・淺草區七軒町小學校跡・同區吉原病院燒跡・京橋區築地本願寺燒跡等、多數ノ屍體ヲ收容セル場所ニ、臨時火葬場ヲ開設シテ作業ノ進捗ヲ圖リシガ、下谷・本郷・牛込・小石川・麻布・赤坂・芝・四谷・麴町ノ九區ハ、最モ早ク其處分ヲ終リ、尋テ神田・日本橋・京橋ノ三區モ亦之ヲ終ヘタレドモ、淺草・本所・深川ノ三區ハ燒、溺死者ノ數特ニ多キヲ以テ、之ガ進捗容易ナラス、就中陸軍被服廠跡ノ如キハ、附近ヨリ運搬收容セルモノヲ合シテ、實ニ、四萬四千餘ニ上リ、普通ノ火葬ヲ以テセンニハ、急速ニ之ヲ實行スル能ハザル狀態ニアリシガ、曾〻九月八日、重油火葬裝置發明者片山秀男本廳ニ出頭シ、社會奉仕ノ爲ニ火葬援助ノ事ヲ申出タレバ市當局ト交渉シテ之ヲ委託スルコトト爲シ、直ニ火葬爐ヲ同所ニ築キ、同九日以降十一日マデノ間ニ全部ノ屍體ヲ火葬スルヲ得タリ。今火葬セル屍體ノ數ヲ示セバ左表ノ如シ

屍體火葬數調（自九月一日至九月三十日）

（一）臨時火葬場

區名	火葬場名	火葬數
京橋區	築地本願寺燒跡	一八二
	月島通六ノ七東京市塵芥取扱場	二二

芝區	愛宕町一丁目青松寺境内	七六
淺草區	田中小學校敷地	一、二四三
	吉原病院燒跡	五二二
	今戸公園燒跡	一二一
	聖天町待乳山公園内	一三四
	淺草區役所燒跡	四六
本所區	横網町被服廠跡	四四、五〇六
	横川橋東詰	一、一三五
	横川橋西詰	二五三
	錦糸町停車場構内	七四二
	法恩寺橋東詰	一三八
	新小梅町二ノ一號河岸	五〇二
	業平町一七二空地	四三五
	中ノ郷業平町六眞盛墓地跡	一六
	外手町一八　番場町一二	三
	横川町河岸	五〇
	中ノ郷瓦町枕橋河岸	一一一
	中ノ郷表竹町河岸	一二八
深川區	靈巖町一八淨心寺境内	二、九六〇
	東大工町四〇	一四五
	東扇橋町三二	七二
	平久町先海邊	一、二八〇
荏原郡	桐ヶ谷火葬場外	一五二
南葛飾郡	砂町　八石原内廣場	七一
	砂町火葬場	七六
	龜戸火葬場	二七七
	荒川放水路火葬場	二七
	小松川橋空地	四五
	松井村東小松川二〇水田	一一
	金町村江戸川鐵橋河岸	五
	大島町羅漢寺	五八二
	荒川放水路埋下空地	二五八

北豐島郡	町屋火葬場	二、三七六
南足立郡	牧野谷グランド河岸	一一
計	三十七ヶ所	五八、八三六

(二)常設火葬場

郡名	火葬場名	火葬數
荏原郡	桐ヶ谷火葬場	二二三
南葛飾郡	砂町火葬場	一〇七
	四ツ木火葬場	三八六
北豐島郡	日暮里火葬場	九〇八
豐多摩郡	代々幡火葬場	三三三
	落合火葬場	一四七
計	六ヶ所	二、一〇四
合計	四十三所	六〇、九四〇

(三)溺死者ノ收容

本所深川ノ兩區ニハ燒死者ノ外ニ、溺死者ノ數モ亦甚ダ多カリシカハ、寺坂水上警察署長ハ、部下ヲ指揮シテ其收容ニ努力シタレドモ、隅田川以外ノ河川ハ橋梁ノ燒失、漂流物ノ壅塞ニ依リテ、船舶ノ航行自由ナラズ、是ニ於テ、工兵隊ノ援助ヲ仰ギ、障碍物ヲ除去セル結果、九月九日ノ夕ニ至リ、漸ク小名木川、堅川ノ兩川筋ト、隅田川間ノ航路開通スルヲ得タレバ、直ニ東京市ヲ促シテ、收容船四隻、人夫四十名ヲ增派セシメ、水上警察署ヨリモ、亦收容船二隻、人夫十名ヨリ成ル別動隊ヲ特派シ、翌十日マデ作業ヲ繼續セシガ、別動隊ノ手ニ依リテ收容セルモノ、兩川筋ニ於テ四百九十九體、其他ノ河川ニ於テ三百九體ノ多キニ上リシガ、孰レモ既ニ腐爛シテ臭氣甚シク、取扱ニ非常ノ困難ヲ感ジタリト云フ。越エテ同十一日、更ニ東京市ト協議シテ隅田川並ニ深川區ノ諸川ヲ搜索センガ爲ニ、更ニ百八十名ノ人夫ヲ出サシメ、西平野、水上ノ兩署之ヲ援助シ、伊豫橋下ニ於テ百七十五體、堅川・小名木川・隅田川其他

ニ於テ七百十一體ヲ收容シ、尋テ同十四日ニハ神田・日本橋・京橋・淺草・本所・深川等六區ノ河川並ニ隅田川品川沖等ニ於テ七十四體、同十五日ニハ日本橋・本所ノ兩區及ビ隅田川ニ於テ二十六體ヲ收容シ、略ボ溺死者ノ處分ヲ完了スルニ至レリ。

(四)壓死者ノ發掘

震災ニ因ル壓死者ハ、火災ニ因ル燒、溺死者ニ比シテ遙カニ少數ナリシトハ云ヘ、九月中旬ニ及ビテモ其收容ヲ了セザルモノナキニアラズ、丸ノ內內外ビルヂング內ノ壓死者ノ如キハ、曩ニ本廳及ビ日比谷署ノ手ニ於テ、既ニ一部ノ收容ヲ爲シタリト雖モ、ナホ後ニ至リテ二十餘體ノ殘留セル事ヲ知レル等ハ其一例ニシテ、斯ル類例ノ他ニモ存スベキハ想像ニ難カラザルヲ以テ、速ニ其處分ヲ講ズルノ必要ヲ感ジ、九月十六日、各署長ニ對シ左記通牒ヲ發シタリ。

壓死體處置ニ關スル件（大正十二年九月十六日衛發急第二九號）

家屋倒潰ニ依ル壓死體ニシテ未ダ發掘處置未濟ノモノアルヤノ聞ヘ有之衛生上ハ勿論、人道上看過スベカラザル次第ニ有之候ニ付其ノ署管內ニ於テ該當事實有之候得バ關係者ト協議シ速ニ處置方法ヲ講ゼラレ其結果左記樣式ニ依リ報告相成度

追而處理濟ノ上ハ場所及總數報告相成度

壓死體處置報告

場所	壓死者見込數	發掘方法ノ計畫

是ニ於テ各署モ亦力ヲ壓死者ノ發見ニ努メタル結果、九月十六日ヨリ十月二十日マデニ收容セルモノヲ擧グレハ左ノ如シ。

壓死體處分調査累計表

區名	署名	壓死體處置數	
		九月十六日現在	十月二十日現在
麴町	麴町	六九	六九
同	日比谷	三一	三二
神田	錦町	二	六
同	西神田	一四〇	二七〇
同	外神田	一	一
日本橋	久松	八	八
同	堀留	一二	一二